那覇市文化財調査報告書第51集

安謝西原古墓群

あ じゃ いり ばる こ ぼ ぐん

― 那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅹ ―

2001年3月

那覇市教育委員会

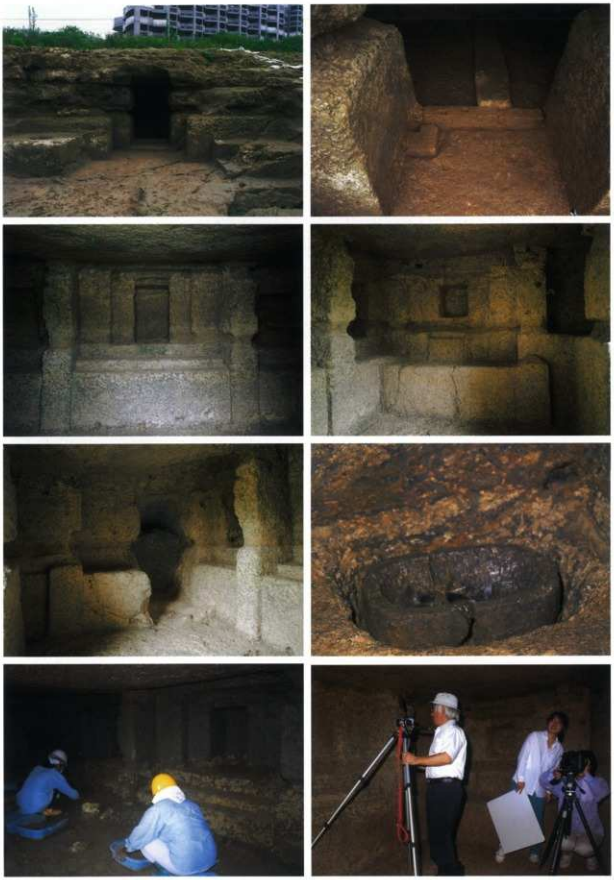
巻首図版 1　安謝西原古墓群　上：遺跡遠景（南東から）
中：遺跡遠景（東から）
下：遺跡遠景（西から）

巻首図版2　安謝西原古墓群　上：第１・２号墓遠景（北から）
中：遺跡遠景（南から）
下：第45・35・36号墓近景（南西から）

巻首図版３　安渝西原古墓群

１段目左：第１号墓室蔵骨器出土状況
２段目左：第17号墓室蔵骨器出土状況
３段目左：第40号墓陰刻拓本
４段目左：第46号墓室出土人骨の確認作業状況

１段目右：第２号墓室蔵骨器出土状況
２段目右：第37号墓室蔵骨器出土状況
３段目右：第46号墓室蔵骨器出土状況
４段目右：第46号墓庭出土の褐釉陶器小型壺



巻首図版4　安謝西原古墓群

1段目左：第35号墓近景
2段目左：第35号墓　墓室内の状況（正面）
3段目左：第35号墓　墓室内の状況（左側面）
4段目左：第35号墓　墓室内作業状況

1段目右：第35号墓　墓口の状況
2段目右：第35号墓　墓室内の状況（右側面）
3段目右：第35号墓　墓室正面タナの石製容器
4段目右：第35号墓　墓室内写真撮影作業の状況

序

この報告書は、地域振興整備公団の「那覇新都心土地区画整理事業」に伴って実施された、「安謝西原古墓群」の緊急発掘調査の成果を収録したものです。

発掘調査は、第１次から第４次にまたがって行われています。第１次調査は、1994年11月（平成６年度）、第２次調査は1995年１・２月（平成６年度）、第３次調査は、1997年９月から1998年３月（平成９年度）、第４次調査は2000年８月（平成12年度）に実施されました。

遺跡は先の大戦時における防空壕の構築や1950年代の米軍施設建設などによって、かなり変容していましたが約7,600㎡の範囲に、第50・51号墓（第１次調査）、第１～３号墓（第２次調査）、第４～32号墓・第34号～49号墓（第３次調査）、第33号墓（第４次調査）の合計51基の古墓を確認することができました。

古墓の造りのほとんどは、琉球石炭岩を掘込んだ掘込墓（方言でフインチャー）です。外観では、破風墓・平葺墓などが確認されています。その中で、注目される古墓として墓口に「扉」が設置された痕跡が確認されたことや、墓室内の造りが極めて精緻な様相を呈した遺構が確認されたことなどがあげられます。一方出土した遺物は、骨を納めるための専用・転用蔵骨器（方言でジーシ）の他に、中国産・本土産などの輸入陶磁器や沖縄産の瓶、酒注、猪口、銭貨・煙管・刀子・簪・指輪・貝製品など、多種多様の副葬品が得られています。本遺跡の発掘調査で得られたすべての情報は、近世沖縄における葬墓制を解明する上で貴重な歴史資料となることが期待されます。

末尾になりましたが、本書が多くの方々に活用されることを希望するとともに、文化財愛護思想の高揚、さらには諸開発計画における調整・協議の円滑な推進に寄与することを期待いたします。また、発掘調査にご協力頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

2001年３月

那覇市教育委員会

教育長　**渡久地　政吉**

例　言

1．本報告書は、那覇市教育委員会が地域振興整備公団（総裁　工藤敦夫）の委託を受けて、1994年度（平成６年度）、1997年度（平成９年度）、2000年度（平成12年度）に実施した「安謝西原古墓群緊急発掘調査」の成果を収録したものである。

2．第Ⅴ章　第21節　安謝西原古墓群出土の人骨については、琉球大学医学部の石田肇氏・土肥直美氏・諸久嶺忠彦氏に第26表としてまとめていただいた。記して感謝申し上げる。

3．本古墓群の第３次調査において調査指導及び助言を、平敷令治氏（当時、沖縄国際大学学長）及び土肥直美氏（琉球大学助教授）より賜った。記して感謝申し上げる。

4．第１図の那覇市全図は、国土地理院発行の地図を複製して使用した。

5．第２図は、那覇市都市計画部都市計画課作成（1993（平成５）年３月）の「那覇市全図」の一部を複製して使用した。

6．第３図は、米軍作成地形図（1947・1948年撮影の航空写真を元に1948・1949・1951年作成）を複製して使用した。

7．第４図は、『那覇市史　那覇の民俗　資料篇　第２巻中の７』付録「旧真和志の歴史・民俗地図」を加筆・トレースして使用した。

8．第５図は、地域振興整備公団　那覇市都市開発事務所が作成した那覇新都心開発整備事業現況図を一部修正して掲載した。

9．古墓の写真測量図（第７・８図）は、1995（平成７）年11月、（第９～16図、第18～24図）は1997（平成９）年12月に上原測図に委託して作成したものに加筆して掲載した。

10．本報告書の編集は各執筆者及び島袋利恵子・栗山初美・大城弘子の協力を得て、主に仲宗根があたった。執筆は下記に示すとおりである。

金武　正紀（那覇市教育委員会文化財課長）第Ⅴ章　第１節・第Ⅵ章
島　　弘（　〃　　主　査）第Ⅴ章　第２・３節
仲宗根　啓（　〃　　主　事）第Ⅰ、Ⅲ・Ⅳ章　第Ⅴ章　第５節～第14節
城間千栄子（　〃　　調査指導員）第Ⅴ章　第15節～第20節
山里　千春（　〃　　副調査指導員）第Ⅴ章　第４・８・９節
國吉　康孝（　〃　　調査補助員）第Ⅱ章

11. 成果の記録（資料整理及び協力者）

洗浄・注記・接合：国吉美奈子　勝連紋子　上原章子　砂川貴子　東恩納孝子　富島靖子
喜屋武朋子　新原理奈　内間渚佐　津波古清美　山下真利子
大城亜姫代　真栄田紋子　宜保和美　普久原百代　花城美智子
富島カヨ子　上間節子　森美賀　饒平名淳子

分　類・集　計：城間千栄子　島袋利恵子　栗山初美　大城弘子　山城直子　玉城京子
山里千春　鈴木もえ子　野村知子　比嘉君子　阿部直子　座安知子
曽木菊枝　具志みどり　知念美智子　高良チカ子　砂川貴子　早川ルリ子
上原章子　神谷直美　友利江美子　山下真利子　大城亜姫代　上間節子
森美賀　饒平名淳子　伊計めぐみ　金城礼子　大城真由美　福里ひろみ
冨里順子　大城久美子　大城末子　徳嶺明子　高良チカ子　津波古清美
請盛智秋　新原理奈　高志保美奈　杉村千重美

実　　測：城間千栄子　島袋利恵子　宮良文子　冨山維佐子　山里千春　阿部直子
鈴木もえ子　比嘉君子　国吉真由美　早川ルリ子　仲地和美　瑞慶覧綾
島袋明子　金城薫

ト　レ　ー　ス：島袋利恵子　宮良文子　鈴木もえ子　比嘉君子　早川ルリ子

復　　元：高良チカ子　砂川貴子　国吉美奈子

表・図　作　成：城間千栄子　島袋利恵子　山里千春　阿部直子　早川ルリ子

拓　　本：山里千春　砂川貴子　饒平名淳子

写真撮影・現像・焼付・図版：金武正紀　栗山初美　城間千栄子　島袋利恵子　山里千春
冨山維佐子　阿部直子　知念美智子　国吉美奈子　早川ルリ子
杉村千重美

12. 本遺跡から出土した沖縄産陶器については、機会を改めて報告する。

13. 遺物実測図と写真の番号は一致するように配置している。

14. 出土した資料は、那覇市教育委員会文化財課で保管している。

報告書抄録

ふりがな	あじゃいりばるこばぐん
書名	安謝西原古墓群
副書名	那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告X
巻次	
シリーズ名	那覇市文化財調査報告書
シリーズ番号	第51集
編集者	金武正紀　島弘　仲宗根啓　城間千栄子　山里千春　國吉康孝
編集機関	那覇市教育委員会文化財課
所在地	〒900－8553　沖縄県那覇市樋川2－8－8　TEL　098－853－5776
発行年月日	西暦　2001年　3月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
あじゃいりばるこばぐん 安謝西原古墓群	なはし 那覇市 おおあざ　あじゃ 大字　安謝 こあざ　いりばる 小字　西原	47201		26度 14分 00秒 ～ 26度 13分 56秒	127度 41分 22秒 ～ 127度 41分 33秒	1994.11 ～ 2000.08	7,600㎡	地域振興整備公団による土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
安謝西原古墓群	古墓	近世	掘込墓 破風墓 平葺墓	専用・転用蔵骨器 沖縄産陶器 外国産陶磁器 本土産陶磁器 銭貨 煙管 簪 金属製品 貝製品 骨製品 ガラス製品 プラスチック製品	

目　　次

序
例　言
報告書抄録
第Ⅰ章　調査に至る経緯 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅲ章　調査経過と調査組織 …… 5
　第１節　調査経過 …… 5
　第２節　調査組織 …… 8
第Ⅳ章　遺構 …… 10
第Ⅴ章　遺物 …… 36
　第１節　蔵骨器 …… 36
　　１．蔵骨器の分類 …… 36
　　（１）専用蔵骨器 …… 36
　　（２）転用蔵骨器 …… 39
　第２節　中国産陶磁器 …… 62
　第３節　本土産陶磁器 …… 65
　第４節　銭貨 …… 68
　第５節　木製品 …… 76
　第６節　刀子 …… 76
　第７節　鉄釘 …… 76
　第８節　煙管 …… 79
　第９節　簪 …… 83
　第10節　指輪 …… 86
　第11節　金属製品 …… 87
　第12節　石器・石製品 …… 89
　第13節　瓦 …… 89
　第14節　円盤状製品 …… 91
　第15節　プラスチック製品 …… 93
　第16節　骨製品 …… 93
　第17節　貝製品 …… 93
　第18節　ガラス製品 …… 94
　第19節　脊椎動物遺骸 …… 94
　第20節　軟体動物遺殻 …… 98
　第21節　安謝西原古墓群出土の人骨 …… 99
第Ⅵ章　総　括 …… 102

挿図目次

第１図　那覇市の位置と那覇新都心地区の位置 2
第２図　那覇新都心地区内の遺跡分布 …… 3
第３図　那覇新都心地区内の遺跡分布
（米軍作成地図S＝１：10,000）…… 4
第４図　旧真和志の歴史・民俗地図 …… 7
第５図　遺構観察の凡例模式図 …… 12
第６図　安謝西原古墓群遺構配置概略図 …… 13
第７図　第１・２号墓実測図 …… 15
第８図　第３号墓実測図…… 16
第９図　第４号墓実測図…… 17
第10図　第５号墓実測図…… 18
第11図　第６号墓実測図…… 19
第12図　第13号墓実測図…… 20
第13図　第14・15号墓実測図 …… 21
第14図　第16号墓実測図…… 22
第15図　第17号墓実測図…… 23
第16図　第31号墓実測図…… 24
第17図　第33号墓実測図…… 25
第18図　第35号墓実測図…… 26
第19図　第37号墓実測図…… 27
第20図　第38号墓実測図…… 28
第21図　第39号墓実測図…… 29
第22図　第40号墓実測図…… 30
第23図　第43号墓実測図…… 31
第24図　第45号墓実測図…… 32
第25図　第46号墓実測図…… 33
第26図　第50・51号墓実測図 …… 34
第27図　蔵骨器分類 …… 44
第28図　石製家形蔵骨器 …… 46
第29図　陶製家形蔵骨器 …… 47
第30図　陶製無頸甕形蔵骨器 …… 48
第31図　陶製有頸甕形蔵骨器
陶製軒付甕形蔵骨器
転用蔵骨器 …… 49
第32図　中国産陶磁器 …… 64
第33図　本土産陶磁器 …… 67
第34図　銭貨……73
第35図　〃 ……74
第36図　〃 ……75
第37図　角釘の散布図 ……77
第38図　丸釘の散布図 ……77
第39図　木製品、鉄製品 ……78
第40図　煙管の部分名称と計測部位……79
第41図　煙管……81
第42図　〃 ……82
第43図　簪、指輪 ……85
第44図　〃 ……86
第45図　金属製品 ……88
第46図　円盤状製品 ……91
第47図　円盤状製品の使用部位と
重量・大きさの関係分布……92
第48図　骨製品、貝製品、ガラス製品……96

挿表目次

第１表　遺構のタイプ分類 ……11
第２表　遺物出土一覧 ……35
第３表　蔵骨器分類表 ……36
第４表　蔵骨器出土一覧 ……40
第５表　蔵骨器観察一覧 ……45
第６表　ミガチ（銘書）のある蔵骨器観察一覧 50
第７表　中国産陶磁器出土一覧 ……63
第８表　本土産陶磁器出土一覧 ……66
第９表　銭貨出土一覧 ……68
第10表　無文銭出土一覧 ……69
第11表　銭貨観察一覧 ……70
第12表　鉄釘出土一覧 ……76
第13表　鉄釘計測一覧 ……77
第14表　煙管出土一覧 ……80
第15表　煙管観察一覧 ……80
第16表　簪出土一覧 ……83
第17表　簪観察一覧 ……84
第18表　金属製品出土一覧 ……87
第19表　石器出土一覧 ……89

第20表　瓦出土一覧 …… 90
第21表　円盤状製品出土一覧…… 92
第22表　円盤状製品計測一覧…… 92
第23表　プラスチック製品出土一覧…… 93
第24表　ガラス製品観察一覧…… 95
第25表　脊椎動物遺骸出土一覧…… 97
第26表　軟体動物遺殻出土一覧…… 98
第27表　鑑定人骨一覧 …… 99

図版目次

ＰＬ．１　遺跡一帯の空中写真
ＰＬ．２　上：安謝西原古墓群調査前遠景
　　中：安謝西原古墓群全景
　　下：安謝西原古墓群北斜面近景
ＰＬ．３　安謝西原古墓群遠景、近景
ＰＬ．４　安謝西原古墓群
ＰＬ．５　〃
ＰＬ．６　〃
ＰＬ．７　〃
ＰＬ．８　〃
ＰＬ．９　〃
ＰＬ．10　〃
ＰＬ．11　〃
ＰＬ．12　〃
ＰＬ．13　〃
ＰＬ．14　〃
ＰＬ．15　〃
ＰＬ．16　〃
ＰＬ．17　〃
ＰＬ．18　〃
ＰＬ．19　〃
ＰＬ．20　〃
ＰＬ．21　〃
ＰＬ．22　〃
ＰＬ．23　石製家形蔵骨器
ＰＬ．24　陶製家形蔵骨器
ＰＬ．25　陶製無頸甕形蔵骨器
ＰＬ．26　陶製有頸甕形蔵骨器
　　陶製軒付甕形蔵骨器
　　転用蔵骨器
ＰＬ．27　中国産陶磁器
ＰＬ．28　本土産陶磁器
ＰＬ．29　銭貨
ＰＬ．30　〃
ＰＬ．31　〃
ＰＬ．32　木製品、鉄製品
ＰＬ．33　煙管
ＰＬ．34　簪、指輪
ＰＬ．35　金属製品
ＰＬ．36　円盤状製品
ＰＬ．37　骨製品、貝製品、ガラス製品
ＰＬ．38　脊椎動物遺骸
ＰＬ．39　〃
ＰＬ．40　軟体動物遺殻

安謝西原古墓群発掘調査報告書

第Ⅰ章　調査に至る経緯

安謝西原古墓群の所在する一帯は、第二次大戦後、米軍によって接収された地域である。その面積は約214ha（約60万坪）もの広大な土地で、主に米軍住宅施設として使用されていた。1987（昭和62）年に全域が返還され、一般に「天久解放地」と称された。

同地区の返還後、「那覇新都心土地区画整理事業」に伴い、地域振興整備公団（以下、公団）により新しい街造りが進められることになる。これらの状況に伴って、那覇市教育委員会（以下、市教委）では1987（昭和62）年に同地区の現地踏査を、さらに翌年の1988（昭和63）年から1989（平成元）年にかけては、埋蔵文化財の分布調査および試掘調査を実施した。その結果、９遺跡の存在が判明し、周知の文化財として位置付けられた。本古墓群は、その時期に確認された遺跡である。

その後、公団と、市教委との間で確認された遺跡（埋蔵文化財）の取り扱いについて調整および協議が行われた。その結果、９遺跡は記録保存を前提とした緊急発掘調査を行うこととなり、平成２年６月22日付けで発掘調査に関する協定が双方において取り交わされた。この協定に基づき、同地区における本格的な発掘調査が公団の委託を受けた市教委によって平成２年７月から開始された。本古墓群の発掘調査は、第１・２次調査（平成６年度11月・１月～２月）、第３次調査（平成９年度９月～３月）、第４次調査（平成12年度８月）で実施されている。

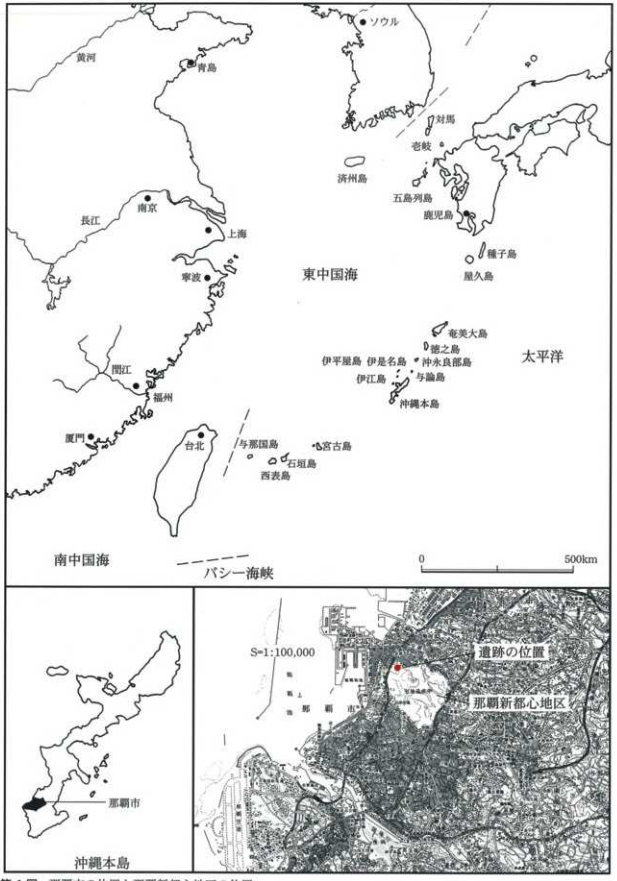
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

那覇市は、東経127度38分18秒～127度44分26秒、北緯26度10分20秒～26度14分32秒の沖縄本島南西部に位置し、東西約10.2km、南北約7.8kmを測る。[註1] 市の北側には浦添市、東側に西原町、南東側に南風原町、南側に豊見城村と接する[註2]（第１図）。

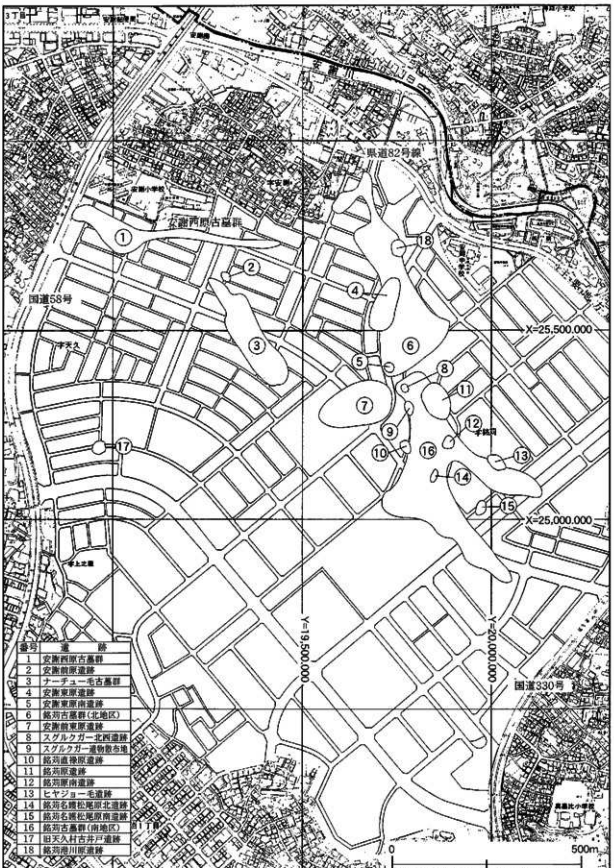
市街地は標高２mから10mの低地となっており、この市街地を取り囲むように北側に天久台地、東側に標高120m前後の首里・識名台地、南側に豊見城・小禄台地を形成する。また、首里弁ヶ岳付近を源流とする安謝川が首里を二分して末吉町前に下り、下流で浦添市との境界を流れて東中国海に注ぐ。現在河口域には、那覇新港が位置し、その入り江は古くから港として機能し、重要な交通の基点ともいえる役割を担い発展してきた。

古くから浦添以北と那覇を結ぶ北の玄関口であった「字安謝」は、宿所としての役割を果たし、屋取集落を形成するに至った。明治期中頃には約80戸の民家や安謝の御嶽、土帝君、アガリヌカー、イリヌカー、ビジュルなどの拝所、天久との境には、「ニシヌマーチュー」という松林があったことが民俗地図等で確認できる[註3]（第４図）。

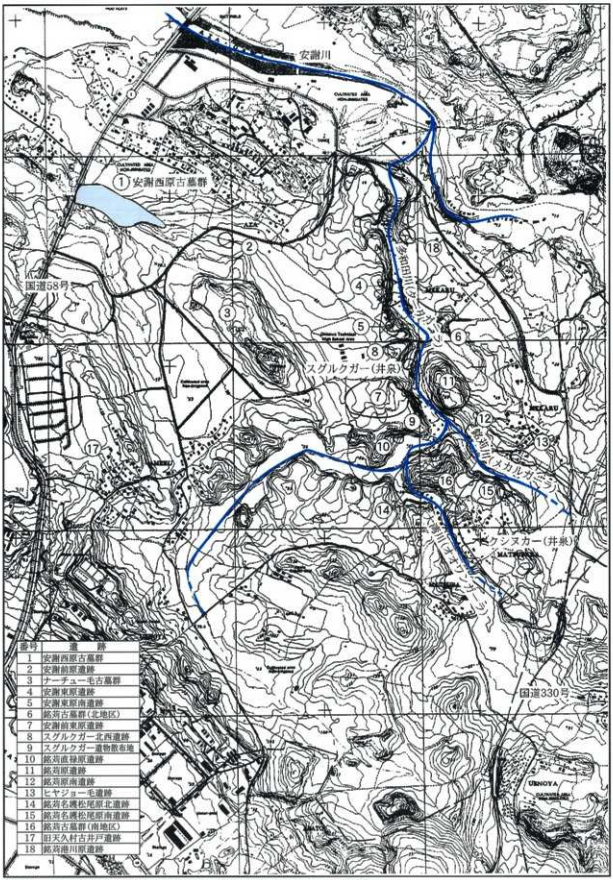
さて、安謝西原古墓群は、「名護毛」とも称された標高約21.5mの琉球石灰岩丘陵に立地する。同地域は、那覇市の北西部いわゆる「天久解放地」、現在では「那覇新都心整備事業」が進行する区域に位置している（第２図）。



第 1 図　那覇市の位置と那覇新都心地区の位置



第2図　那覇新都心地区内の遺跡分布



第３図　那覇新都心地区内の遺跡分布（米軍作成地図 S=1：10,000）

本古墓群は、丘陵の南側崖下と北側崖下に墓室内の形状が異なる特徴があることが確認された。ちなみに丘陵西側先端部崖下においては、琉球王府時代に活躍した名護良豊の墓が確認されている。[註4]

1950年前後における本古墓群の全体像は判然としないものの、丘陵上の地形を窺い知ることができる（第３図）。戦後米軍による土地接収に伴い土地の改変がなされ、特に本古墓群の南側崖下に立地する古墓の屋根部分はすでに失われていたものの墓室内の平面構造が保存されていたことは幸いである。

註１．『那覇市統計書』第39回　那覇市　2000年3月
２．『那覇市広報　市民の友』　第602号　2001年3月
３．『思い出のわが町』　沖縄タイムス
４．『安謝西原古墓群』　那覇市教育委員会　1993年3月

参考文献

『ナーチュー毛古墓群』那覇市教育委員会　2000年3月
『那覇市史　資料篇　第2巻中の7　那覇の民俗』1979年1月

第Ⅲ章　調査経過と調査組織

第１節　調査経過

第１次調査

墓域丘陵の東側に所在した２基（第50・51号墓）の調査を1994（平成６）年11月に実施した。両墓は、公団の区画整理作業中に発見されたもので、1994（平成６）年10月18日・11月２日に公団と市教委で、古墓の確認・遺跡範囲の確認作業などを行った後、発掘調査に至った。

発掘調査は、11月７日から開始。両墓の墓室および墓庭の保存状態を確認しながら手作業によって掘り進めた。遺構は、屋根部や墓庭部が削平された状況にあった。掘り下げ作業と並行しながら、遺構の詳細図作成作業を行った（第26図）。

11月10日、トラバース測量及び遺構の写真撮影などを行って現地作業を終了した。

第２次調査

墓域の東側崖下に所在する３基（第１～第３号墓）の調査を1995（平成７）年１月５日から実施した。作業は草木の伐採から開始。作業が進行するに従って、古墓の前庭部が造成土に埋もれた状態で確認された。遺構の全体が確認された時点で掘り下げ作業に移行した。遺構の番号は、東端から順に第１号墓～第３号墓とした（第６図）。第１・２号墓室内では、それぞれ蔵骨器が数基確認された。

２月に入り、第３号墓の本格的な調査に入る。墓室内には陶製無頸壺形（ボージャー）を中心とした蔵骨器が８個体確認された。しかし、いずれも原位置は保ってはおらず、二次的に投棄されたものと考えられた。また、シルヒラシドゥクル内左隅に小さな掘込み（ピット）が確認されたが詳細は不明であった。

2月6日、遺構の全体撮影などを行って現地での作業を終了した。

遺構の実測図及び配置図に関しては、写真測量・平板測量で対応することとし、1995（平成7）年11月、有限会社上原測図に委託した。

第3次調査

本古墓群の主体となる第4号墓～第49号墓（第33号墓を除く）の調査を1997（平成9）年9月8日から実施した。

作業は、バックフォーにて遺跡の表土剥ぎ作業を中心に北側斜面より開始。丘陵北側の遺構は、比較的その外観を留めており、破風墓（第13・17号墓等）や平葺墓（第6・31号墓等）など規模の大きなものから庭部分を共有する小さなもの（第8～11号墓）までが確認され多種多様な状況であった。

発掘調査は、遺跡の立地が斜面にあるため足場が悪く、慎重な作業遅びとなった。古墓内部は、すでに移転作業が完了していたものが多く、出土遺物は少ない傾向にあった。しかし、一部に蔵骨器や副葬品の出土も見た。これらの遺物出土状況は写真撮影や簡略図を作成しながら調査が進められた。

丘陵南側斜面においては、造成土が大量に堆積しバックフォーによる表土剥ぎ作業にかなりの時間を費やすこととなった。作業が進むに従って、第32号墓～47号墓の存在が確認された。古墓の屋根部はすでに削平されており、その形状や装飾を窺い知ることはできない状況にあった。

また同地区は、周辺の区画整理作業の影響から、雨天時には冠水することがしばしばで、調査への影響が懸念され始め、作業工程にも支障をきたしてきた。それでも調査が進行するに従い、第35号墓などで注目される成果を得ることができた。第35号墓室の造りは、新都心整備事業地内はもとより市内で調査された古墓の特徴とは大きく異なる精緻な構造であった。

これらの遺構実測図及び配置図のほとんどに関しては、写真測量・平板測量で対応することとし、1997（平成9）年12月、有限会社上原測図に委託した。その後、現地補足調査などを行なって1998（平成10）年3月13日、現地作業を終了した。

第4次調査

第33号墓（第17図）の調査を2000（平成12）年8月1日から実施した。

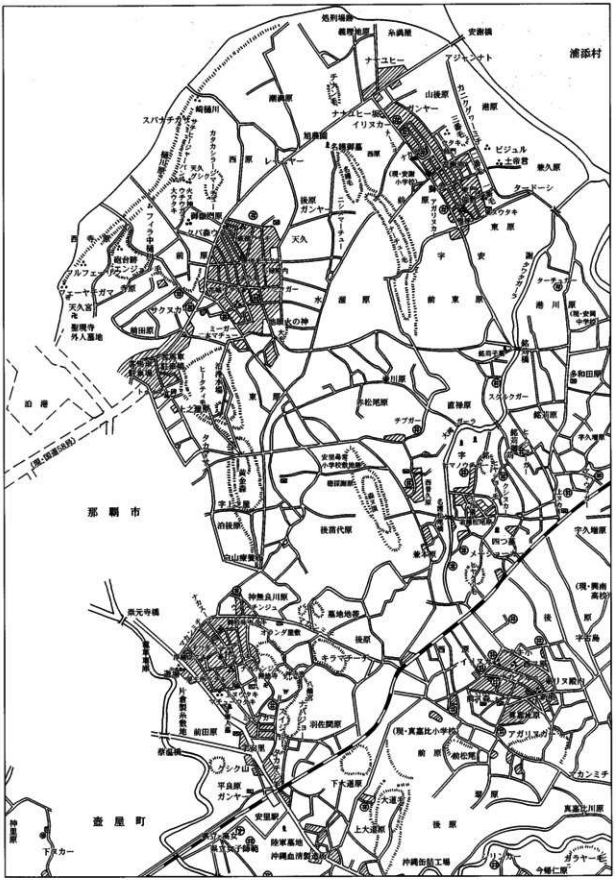
作業は、同墓周辺の草木の伐採から開始。作業が進行するに従って、古墓の前庭部が造成土に埋もれた状態で確認された。また、墓口の一部は、ブロックにより改変されていた。

遺構の全体が確認された時点で掘り下げ作業に移行した。屋根部には石列が確認され、「破風墓」あるいは「平葺墓」を意識した装飾が施されていたことが判明した。これは、丘陵南側斜面に位置する古墓の屋根部が改変された状況にあったことから、その構造を窺い知る上で貴重な成果となった。

墓庭及び墓室内は多量の埋土が堆積し、さらに、狭いスペースでの調査となったため掘り下げ作業にはかなりの時間と労力を費やした。注目される成果として、墓室内からシャコ貝が埋められた状態で検出されたことが挙げられる（PL.13）。

掘り下げ作業と並行して、トラバース測量作業、水準点移動、遺構詳細図（第17図）の作成などを行った。

8月28日、遺構の全体撮影を行って現地での作業を終了した。


浦添村
那覇市
宜野湾市
処刑場跡
糸満原
安謝橋
ナーユヒー
アジャンナト
山後原
ビジュル
土帝君
東原
宇安原
前東原
前原
後原
ガンヤー
天久
水の神
東原
前原
前原
前

第2節　調査組織

本遺跡の調査組織は次のとおりである。

調査責任者	那覇市教育委員会	教育長	嘉手納　是敏	(平成6～9年度)
〃	〃	〃	渡久地　政吉	(平成10～12年度)
〃	〃	文化課　課長	高江洲　隆	(平成6～7年度)
調査責任者及び調査総括		文化財課　〃	金武　正紀	(平成8～12年度)
調査総括		文化課　主幹	金武　正紀	(平成6～7年度)
調査事務		文化財課　主幹兼係長	古塚　達朗	(平成8～10年度)
〃		文化課　係長	仲間　健幸	(平成6年度)
〃		〃　〃	佐久川　馨	(平成7・8年度)
〃		文化財課　〃	真境名　充子	(平成11年度)
〃		〃　〃	喜納　曙	(平成12年度)
〃		〃　主任主事	我那覇　生男	(平成6～9年度)
〃		文化財課　〃	親川　登	(平成9～12年度)
〃		文化課　主事	赤嶺　優子	(平成6～7年度)
〃		文化財課　〃	照屋　幸美	(平成8～10年度)
〃		文化課　臨時職員	嘉手納　可枝	(平成6年度)
〃		〃　〃	嶺井　奈々	(平成7年度)
〃		〃　〃	嘉数　綾子	(平成8年度)
〃		文化財課　〃	平良　優香	(平成9年度)
〃		〃　〃	宮城　晶	(平成10年度)
〃		〃　〃	仲間　利恵子	(平成11年度)
〃		〃　〃	川満　弓美子	(平成12年度)
発掘調査担当		文化財課　主　査	島　弘	
〃		〃　主任主事	内間　靖	(現、市立壺屋焼物博物館主査)
〃		〃　〃	玉城　安明	
〃		〃　主　事	仲宗根　啓	
〃		〃　〃	當間　麻子	
〃		〃　〃	當銘　由嗣	
〃		文化課　調査補助員	山城　直子	(平成6～8年度)
〃		〃　〃	渡久地　真	(平成6年度)
〃		〃　〃	渡久地政嗣	(平成6年度)
〃		〃　〃	城間千栄子	(平成6年度)

発掘調査担当	文化財課	調査補助員	栗山　初美（平成６・10年度）
〃	〃	〃	宮良　文子（平成６・10年度）
〃	〃	〃	國吉　康孝（平成９年度　現石川市教育委員会文化課主事）
〃	〃	〃	山里　千春（平成10年度）
〃	〃	〃	仲嶺久里子（平成10年度）

発掘調査作業員

第１次調査
大宜味より子　喜舎場盛安　中塚末子　並里富子　宮国恵子　宮城恵子　与那嶺勢津子
金城スミ子（世話人）

第２次調査
安里セツ子　安次嶺政寿　阿波根栄子　新垣キク　新垣きよ　新垣ヒデ　新垣安太郎　石嶺米子
伊禮ヒロ子　大城節子　大宜味より子　太田吉光　奥濱悦子　嘉味田千枝子　亀谷長範　亀谷ハツ
喜舎場盛安　金城郁恵　小橋川徳子　小浜信子　呉屋盛三　呉屋救　島袋節子　謝敷時子
新里準子　洲鎌武雄　瑞慶覧長祐　棚原ノリ子　玉城史子　知花まさ子　津波古充政　津波古朝子
津波古美津江　津波古よし子　照喜名武子　桃原佐恵美　渡慶次和子　中塚末子　並里富子
平安名哲子　宮城悦子　宮国恵子　諸見里豊子　与那城好子　与那嶺勢津子　金城スミ子（世話人）

第３次調査
赤嶺由乃　阿波根栄子　新垣キヨ　伊良部裕美子　伊禮ヒロ子　大城一美　奥濱悦子　奥平良子
垣花中　神谷奈央味　金城信徳　新里準子　洲鎌武雄　千住直広　祖慶利枝子　知念勝盛
津波古朝子　津波古トヨ　照喜名武子　渡慶次和子　仲里志麻子　仲宗根真子　宮城新一
与那城好子　与那嶺昌司　神谷智子（世話人）

第４次調査
神谷奈央味　小浜廉信　城間常敏　宮城亮　山田浩久

第Ⅳ章　遺　構

本遺跡は、那覇新都心地区（天久解放地）の北西部に位置する琉球石灰岩丘陵の斜面及び崖下に構築された51基の古墓群である（第２・６図）。丘陵の立地を見ると、東側の標高約21.５ｍを頂点として、西側に向かって緩やかに傾斜する。西側端（国道58号沿い）では崖地形が発達している。その丘陵の南斜面及び北斜面では古墓の造りに大きな違いが見て取れた。

ここでは、古墓の特徴を概観する。なお第７～26図に抜粋した古墓の実測図と観察事項を示す。また、古墓各部の名称は主に発掘調査時に呼称した語句を使用した。第５図に凡例を示したので参照していただきたい。

各遺構は、外観を主体に見ると以下のようにＡ・Ｂ・Ｃタイプ（５タイプ）が確認できる（第１表）。

Ａタイプ：屋根部に装飾が施される。

Ａ－１　平葺墓（第１・２・６・14・26～29・30・31・33号墓）

Ａ－２　破風墓（第５・７・12・13・17・21・25号墓）

Ｂタイプ：現状では屋根部に装飾が見られない。Ａタイプ同様平葺・破風の形式を呈する可能性がある。遺構の規模は規格性が窺える。墓庭には石積みなどが見られる。

Ｂ－１　墓室奥には一～三段、左右に一段の階段状のタナを有する。

（第３・４・15・16・18・24・50・51号墓）

Ｂ－２　墓口・墓室の造りが『ナーチュー毛古墓群』[註1]のⅡ類に類似。（第34～47号墓）

Ｃタイプ：基盤の琉球石灰岩を掘込みのみで墓室とし、墓庭を共有するものが多く小規模。

（第８～11・19・20・22・23・32・48・49号墓）

さて、上記タイプの中でＢ－２としたものは、丘陵南斜面に位置する古墓のみの特徴で、その形状（墓口・墓室）は、北斜面に位置する古墓の形状と明らかに異なる造りである。

まず、墓口には、琉球石灰岩を加工して穴を穿いた石製品が埋め込まれている。これは、扉を設置するための施設と見られる（ＰＬ.16　３段目右）。また、第35号墓の墓口から、扉の開閉をスムースに行うための工夫と考えられる円盤状の銅製品（第45図３）が検出された（ＰＬ.14　４段目右）。

次に墓室は「シルヒラシドゥクル」の空間が約２㎡～10㎡の広さを有する。「タナ」は、左右に一～二つ、奥に一～三つに仕切られた造りで、壁面には縁取りなどの装飾も見られ（第35・37・45号墓）、約20㎝～100㎝の高さに掘り込まれている。また、墓室が二重に構築されるものも見られる（第37号墓）。

同タイプに類似する遺構は、県内で確認例が増えつつあり、今後の調査事例の動向に留意していきたい。

本古墓群におけるその他の特徴として、墓域全体に墓室はもとより墓庭を基盤の琉球石灰岩を掘り込んで形成するタイプが見られることが上げられる。これらの遺構は周辺より一段低くなることから、墓庭に入る際に必要な階段状の施設が設けられるものが見られる（第13号墓など）。

ところで、本古墓群が形成される時期を得られた蔵骨器を参考に概観すると、丘陵の南斜面には18世紀初頭（第35号墓）から18世紀前半（第43・46号墓）にかけて、北斜面では18世紀前半（第１号墓）から18世紀中頃（第31号墓）にかけて墓が構築されている（第１表）。

第1表　遺構のタイプ分類

タイプ	屋根の外観	墓室の掘込み	墓口の構造	墓庭の構造	遺構の立地	出土蔵骨器の銘書年代	備考
A1	平葺	横穴	切石を用いる	基盤を掘込む	崖下・斜面	第1号墓→雍正十三年 第31号墓→乾隆二十三年 第2号墓→嘉慶七年	主に丘陵の北斜面の崖下に位置する。 第6号墓など
A2	破風	横穴	切石を用いる	基盤を掘込む	斜面	第17号墓→昭和六年	主に丘陵の北斜面に位置する。 墓庭が周辺より一段低く、階段設置（第13号墓など）
B1	不明	横穴	切石を用いる	基盤を掘込み石積みも併用する。	斜面	第3号墓→乾隆四十五年	主に丘陵の北斜面に位置する。 墓の規模に規格性が窺える。
B2	不明	横穴	基盤を掘込む	基盤を掘込む	斜面	第35号墓→康熙四十年 第43号墓→乾隆十三年 第46号墓→康熙五十三年	主に丘陵の南斜面に位置する。 墓口・墓室の造りが特徴的。
C	なし	横穴	石積み	平場	斜面		主に丘陵の北斜面に位置する。 小規模の墓。

ちなみに、本古墓群内に所在した「名護親方良豊」の墓の発掘調査が1990（平成２）年に実施されている。[註2] 同人は、1617年に没したことが判明しており、17世紀前半には本地域が墓域として利用されていたことが窺える。

以上、遺構の特徴を簡単に述べた。今後の課題としては、遺構の形状分類の整理や墓域（および複数の墓域間）における墓の形成過程の変遷、被葬者の差違など多様な検討が必要になるものと考える。

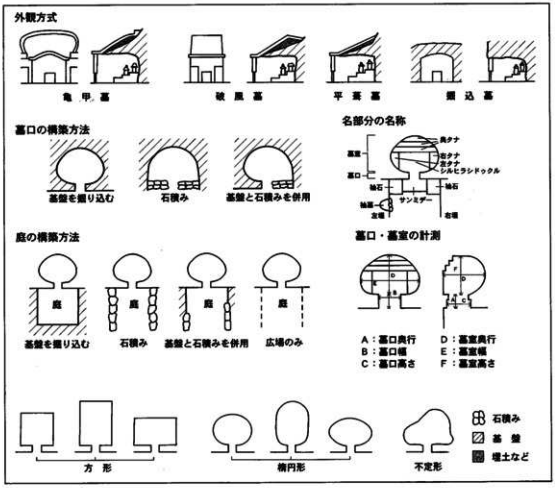
註１．金武正紀ほか　『ナーチュー毛古墓群』　那覇市教育委員会　2000年３月

２．島　弘　『安謝西原古墓群』　那覇市教育委員会　1993年３月

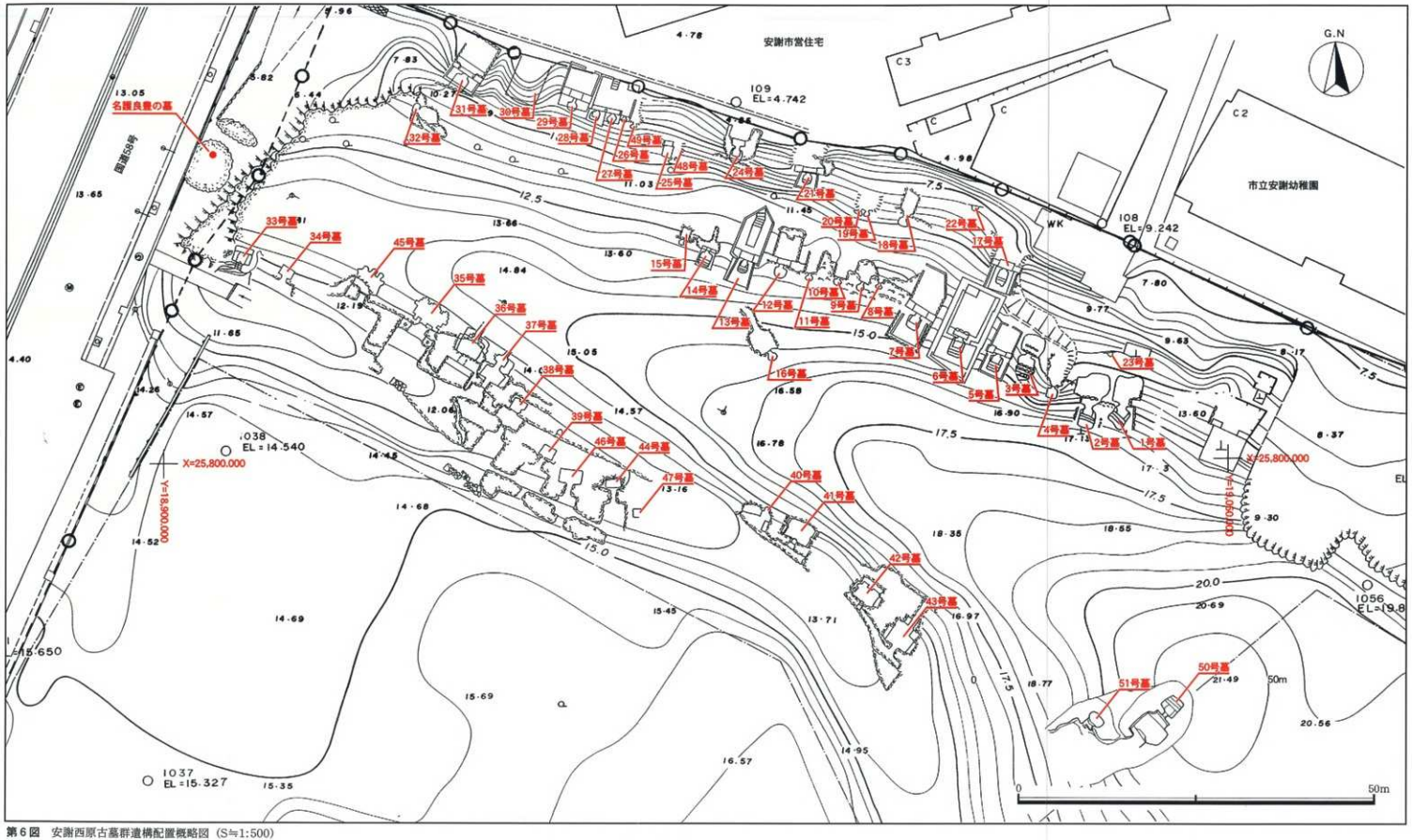
参考文献

『埋蔵文化財発掘調査ニュースNo.7　安謝西原古墓群』　那覇市教育委員会　1998年３月

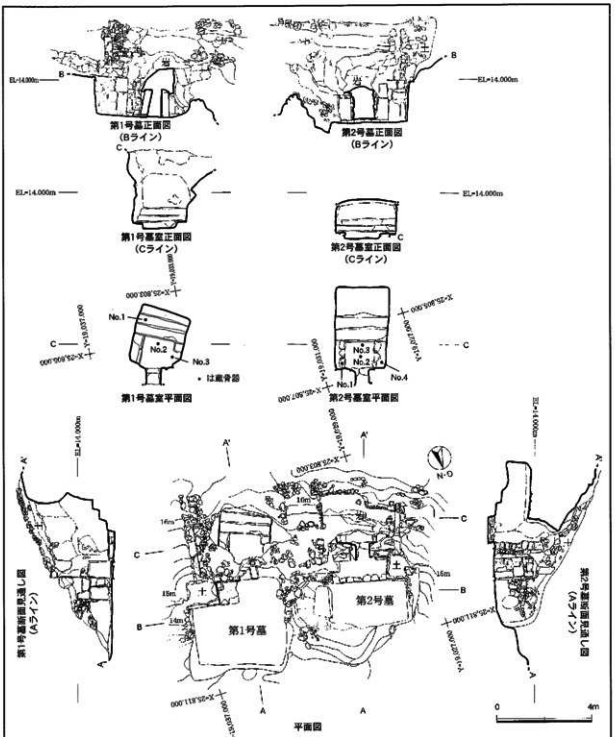
『那覇市歴史地図』　那覇市教育委員会　1987年



第５図　遺構観察の凡例模式図

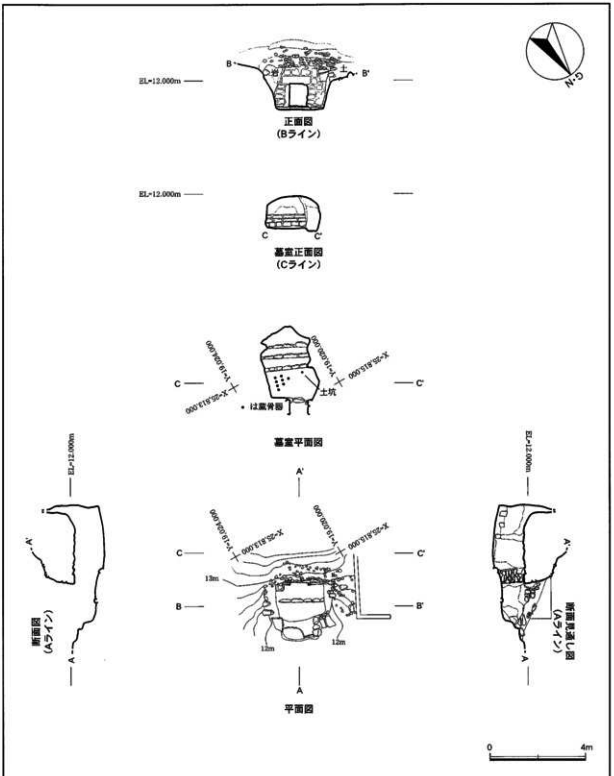


第6図　安謝西原古墓群遺構配置概略図（S≒1:500）



墓番号	立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓底の構築方法	サンミーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
										(単位：cm)
1号墓	琉球石灰岩	平葺墓	石積み	66 58 —	基盤を掘込む。	有	方形	208 216 —	3 1 1	屋根部分の保存状態は良好ではなかったが、一部切石の石列が確認され、屋根の装飾が窺えた。庭に大きな視乳がみられた。
2号墓	〃	〃	〃	60 58 —	〃	〃	〃	340 228 164	3 1 1	第1号墓と造りは類似。墓室内に獣骨器が確認できた。

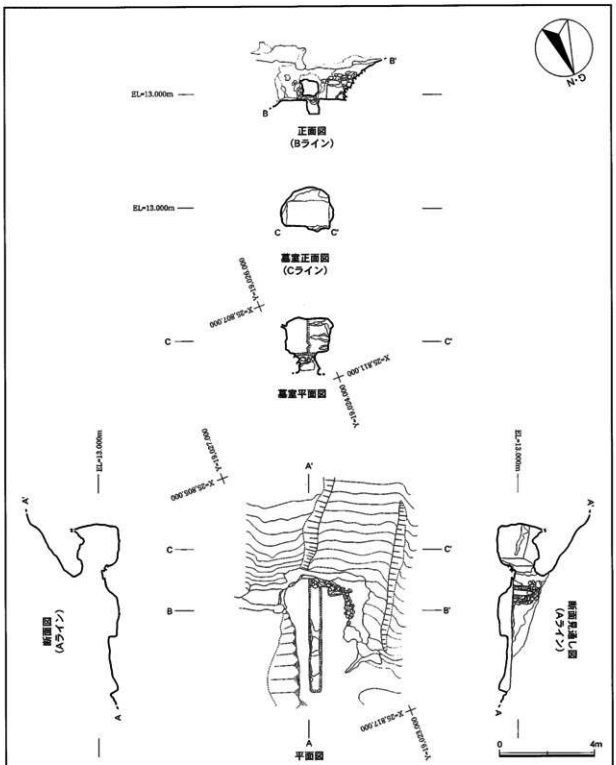
第7図(P L.4)　第1・2号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	石積み	60 76 94	不明	有	方形	276 214 130	3 － －	遺構周辺が多量の埋土で攪乱されている。 墓室内には投げ込まれた状態で蔵骨器が確認された。 また、小さな土坑も確認されている。

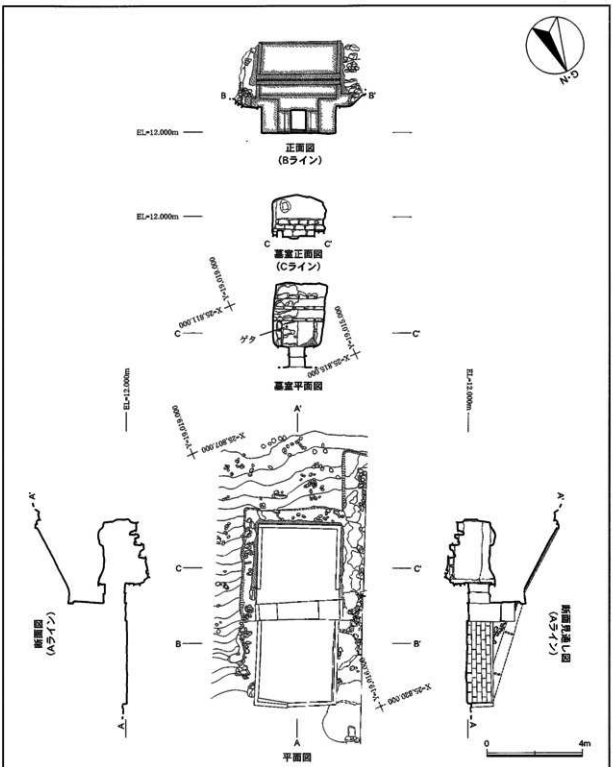
第８図（ＰＬ．４）　第３号墓実測図



立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	82 75 90	基本的に基盤を掘り込む	不明	方形	142 186 167	ー ー ー	墓室は前庭部から一段低く形成されている。

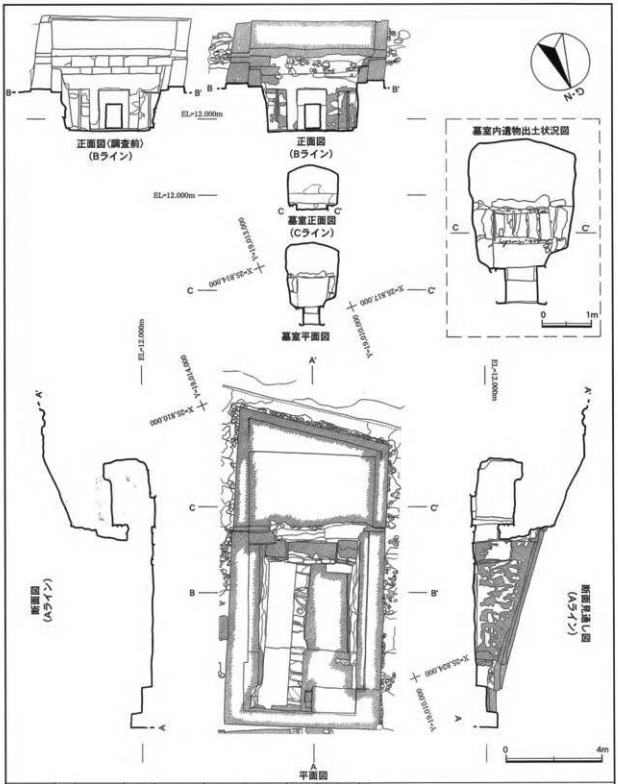
(単位：cm)

第９図（ＰＬ．５）　第４号墓実測図



立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
									(単位：cm)
琉球石炭岩	破風墓	石積み	87 66 91	基盤を掘り込む	有	方形	260 212 168	3 1 1	本来抜込み墓であったものをセメントで補修・改修が行われている。 調査時に移転作業が行われた。下肢が出土。

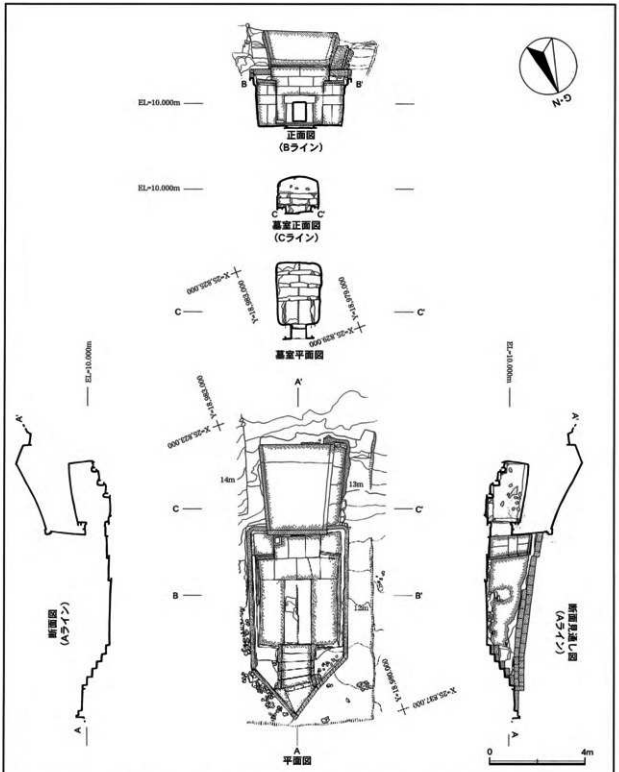
第10図（ＰＬ．５）　第５号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行	墓口 幅	墓口 高さ	墓庭の構築方法	サンミテの有無	墓室の平面形	墓室 奥行	墓室 幅	墓室 高さ	タナ数 奥	タナ数 右	タナ数 左	特　徴
琉球石炭岩	平葺墓	石積み	70		66	基盤を掘込む	有	方形	270		200	1		1	第5号墓と同様。後世に改修が行われている。墓口は本来基盤を掘込んだのみの造りである。墓室内から木棺状の木製品と鉄釘が出土。調査期間中に移転。
			106						185			1			

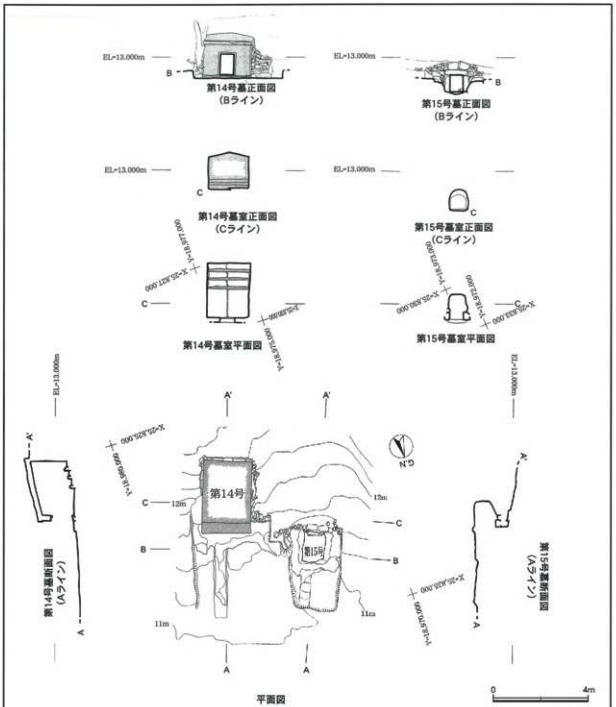
第11図(ＰＬ．６)　第６号墓実測図



(単位：cm)

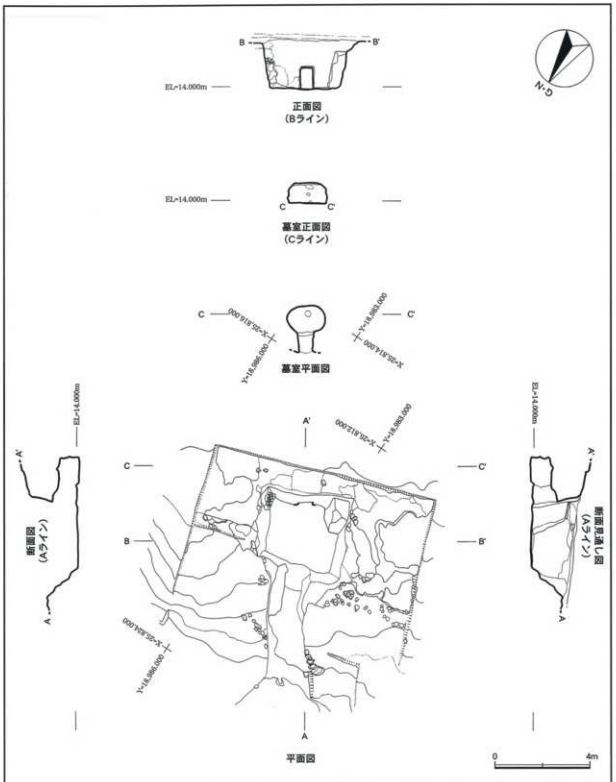
立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石炭岩	破風墓	基盤を掘込む	62 61 85	基盤を掘込む	有	方形	262 172 146	3 1 1	後世の改修により切石を積み上げている。墓庭は一段低くなる。

第12図（ＰＬ.８）　第13号墓実測図



墓番号	立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓底の構築方法	サンミーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
										(単位：cm)
14号墓	琉球石炭岩	平葺墓	石積み	20 62 92	基盤を掘込む。	有	方形	230 170 148	3 － －	墓室は一部掘込みである。比較的新しい造りのタイプとの印象を受ける。
15号墓	〃	掘込墓	〃	30 58 87	〃	不明	方形	76 74 85	－ － －	〃 底の一部を若干置りくぼめる。

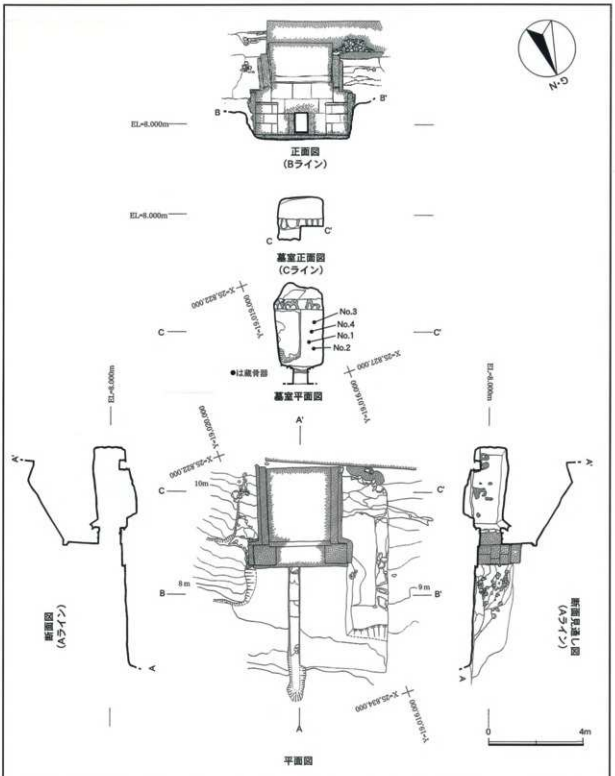
第13図（ＰＬ.８）　第14・15号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石炭岩	掘込墓	基盤を掘込む	90 52 95	基盤を掘込む	不明	円形	107 156 84	－ － －	墓庭の規模に比べ小さな墓室。墓庭は周辺より一段低く掘込む。

第14図（ＰＬ．９）　第16号墓実測図

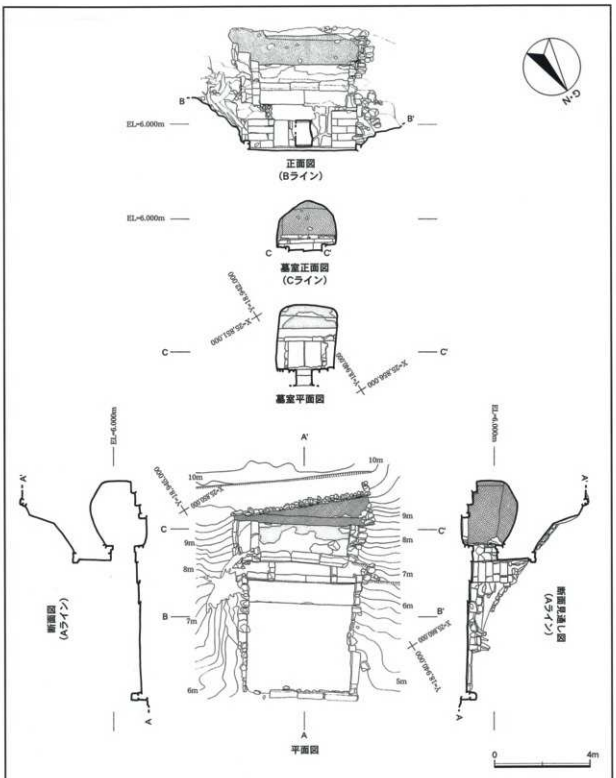


平面図

(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	破風墓	基盤を掘込む	72 57 93	基盤を掘込む	有	方形	338 197 134	1 － －	後世の改修により切石やセメントなどを使用して外観を形成。

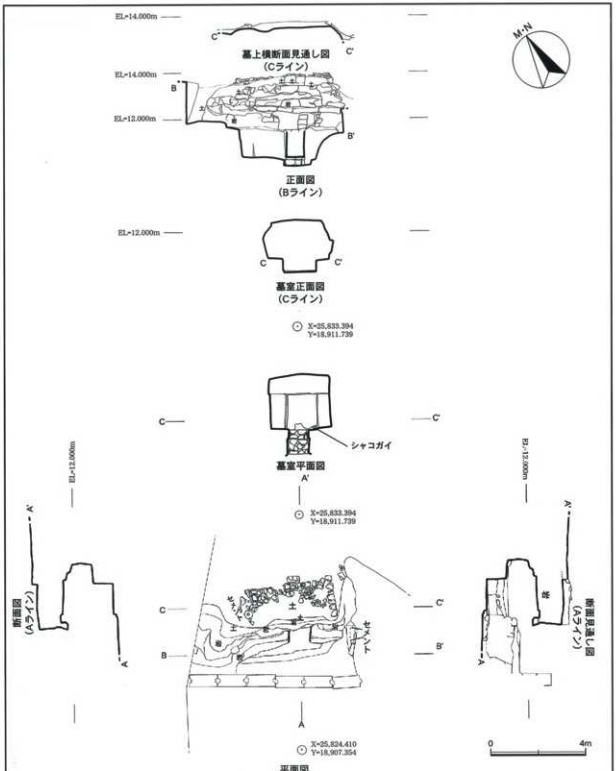
第15図（ＰＬ.９）　第17号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	平葺墓	石積み	67 66 106	基盤と石積みの併用か	有	方形	276 243 205	3 1 1	墓室内の壁面全体及び規根に漆喰が見られる。 墓室内に割れた状態の蔵骨器が多数検出された。

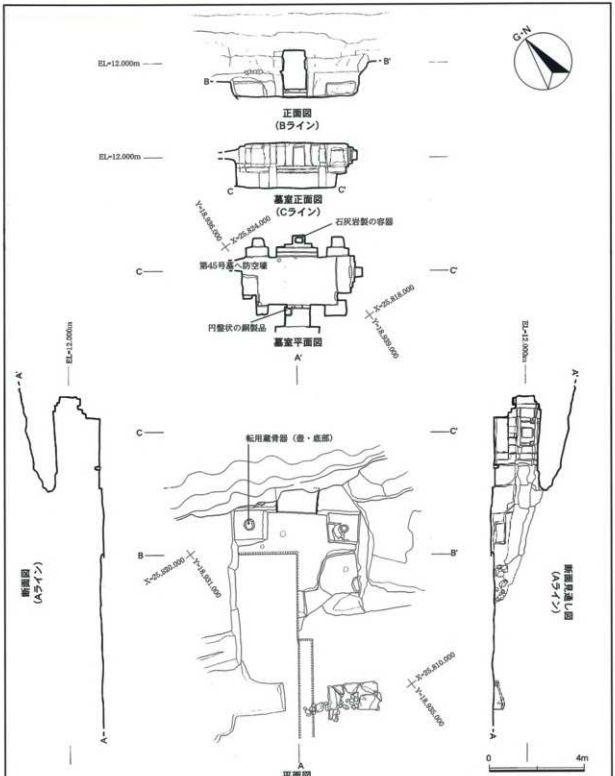
第16図（P L.12）　第31号墓実測図



立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミテーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特徴
琉球石灰岩	平葺墓	基盤を掘込む	92 88 208	不明	不明	方形	220 248 208	1 1 1	墓室内から意図的に埋められたと見られる貝（シャコ貝）が検出された。

（単位：cm）

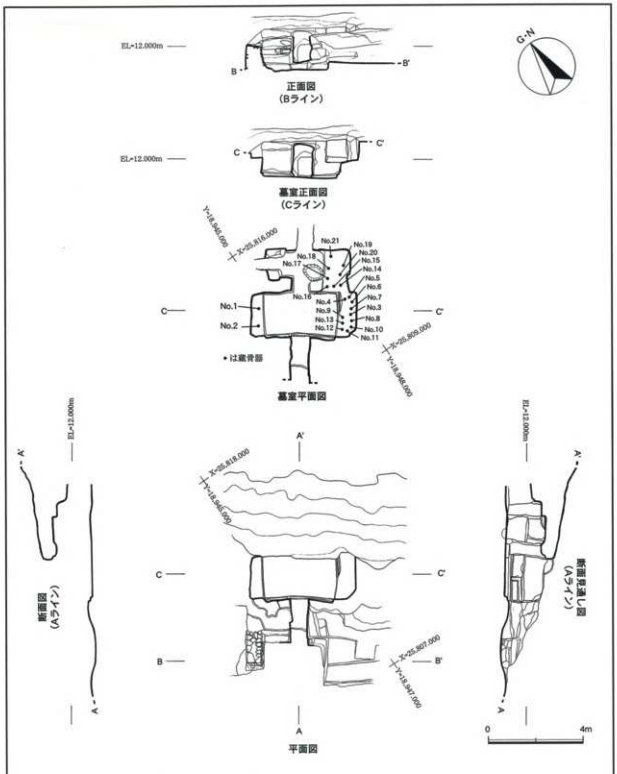
第17図（ＰＬ.13）　第33号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	91 102 186	基盤を掘込む	有	方形	292 510 191	3 1 1	墓室内のタナの造りが精緻である。墓口から円盤状の銅製品が出土。正面奥タナより石灰岩製の容器にはいった焼骨が検出された。

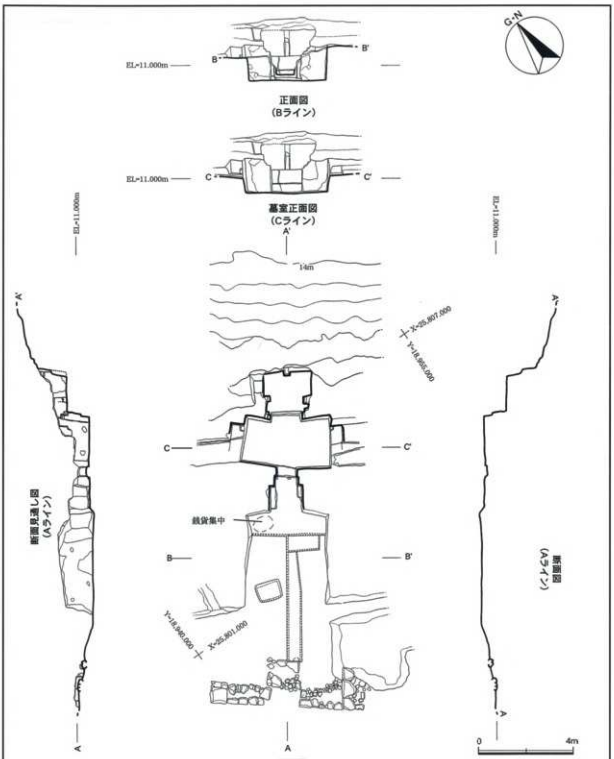
第18図（P L.14）　第35号墓実測図



(単位：cm)

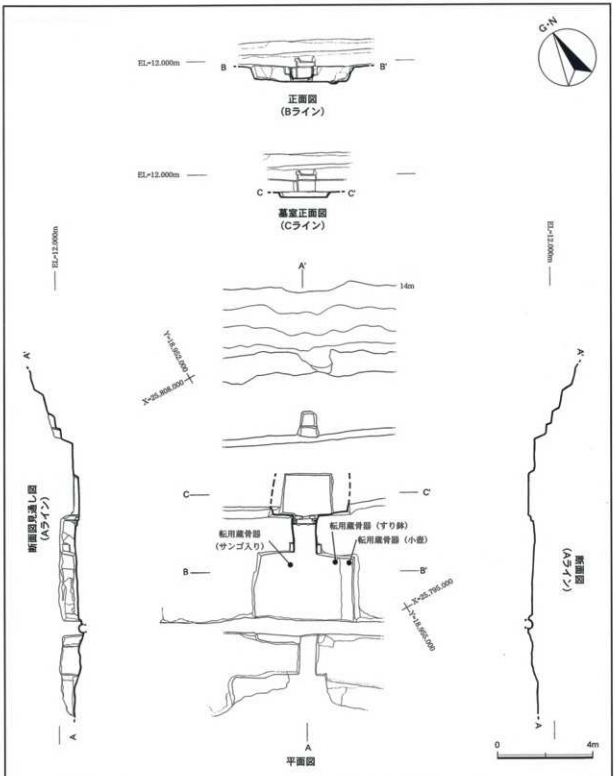
立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミヂーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	198 77 80	切石を積み上げる	有	方形	186 440 163	ー 1 1	室内は二重になっている。屋根部が崩落していた。 墓室内にピット検出。

第19図（ＰＬ.15）　第37号墓実測図



立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴 (単位：cm)
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	192 131 －	基盤を掘込む	不明	方形	188 370 －	1 1 1	墓口に扉を設置したと見られる痕跡が確認された。 また、墓口周辺から銭貨がまとまって出土。

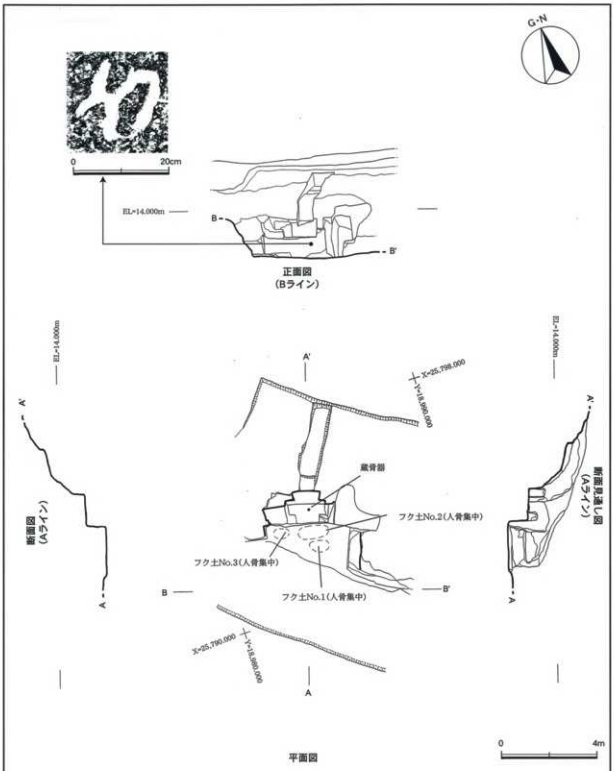
第20図（ＰＬ.16）　第38号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	155 92 —	基盤を掘込む	不明	方形	176 206 —	1 1 1	墓庭に転用歳骨器が埋め込まれた状態で三点出土。

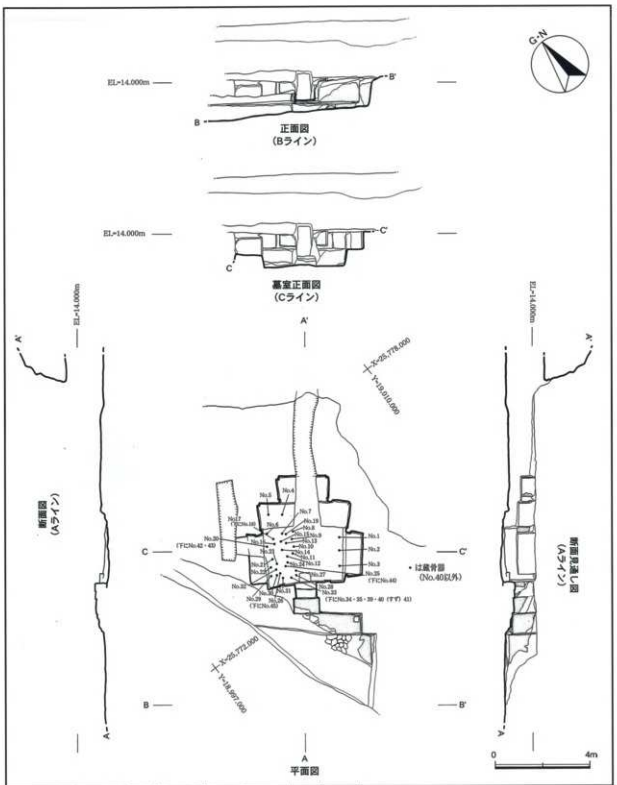
第21図（P L.16）　第39号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓底の構築方法	サンミデーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	― ― ―	不明	不明	方形？	― ― ―	1 1 ―	墓室奥タナ壁面に陰刻が確認された。

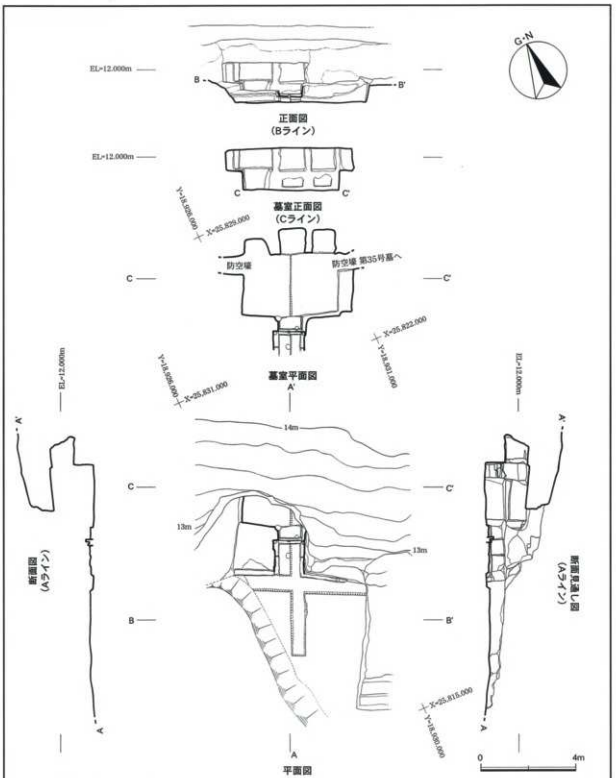
第22図（ＰＬ.17）　第40号墓実測図



(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	136 110 —	不明	有	方形	444 480 —	2 1 1	墓室を縦断して防空壕が構築されていた。 墓室には多量の蔵骨器がまとめられた状況で検出。 先の大戦時によるものと考えられる。

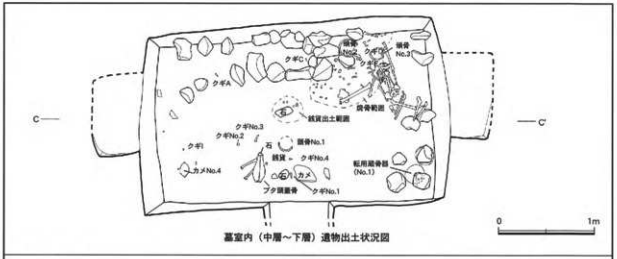
第23図（ＰＬ.18）　第43号墓実測図



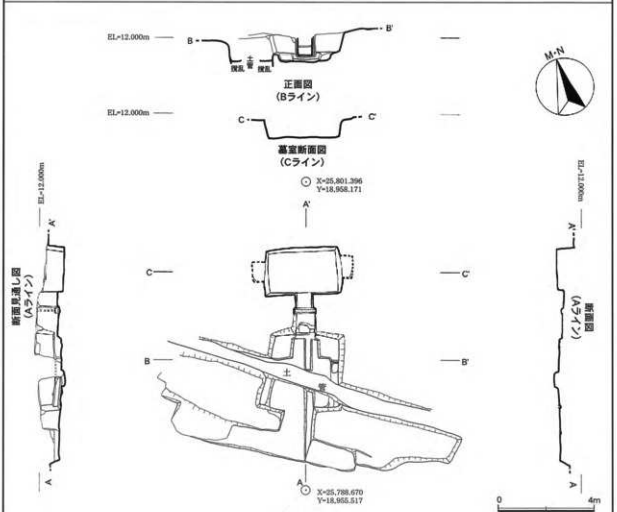
(単位：cm)

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミテーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	210 128 —	不明	不明	方形	372 458 180	3 1 1	墓口に扉を設置したと見られる痕跡が確認された。 墓室内の奥タナの造りは精緻である。

第24図（P L.19）　第45号墓実測図



墓室内（中層～下層）遺物出土状況図

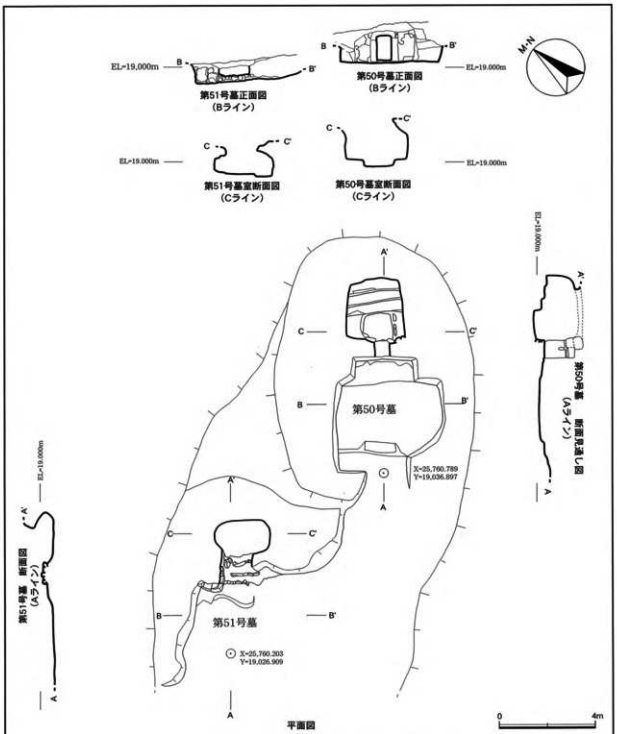


平面図

（単位：cm）

立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行	墓口 幅	墓口 高さ	墓庭の構築方法	サンミーの有無	墓室の平面形	墓室 奥行	墓室 幅	墓室 高さ	タナ数 奥	タナ数 右	タナ数 左	特　徴
琉球石灰岩	掘込墓	基盤を掘込む	178		83	基盤をはつる	不明	方形	190		330	－	1	1	墓室上層において蔵骨器（破片）の推積が見られた。中層では、ブタの頭蓋骨などが出土。下層では、一次葬の可能性が示唆される人骨や転用蔵骨器などが出土。
			－						－						

第25図（P L.20）　第46号墓実測図



(単位：cm)

墓番号	立地場所の基盤	外観形式	墓口の構築方法	墓口 奥行 幅 高さ	墓庭の構築方法	サンミチの有無	墓室の平面形	墓室 奥行 幅 高さ	タナ数 奥 右 左	特　徴
50号墓	琉球石炭岩	掘込墓	基盤を掘込む	76 62 92	基盤をはつる	有	方形	269 236 186	3 1 1	屋根部に攪乱が著しい。
51号墓	〃	〃	〃	91 149 —	〃	不明	楕円形	176 236 80	— — —	〃

第26図(ＰＬ.21)　第50・51号墓実測図

第２表　遺物出土一覧

出土遺物 / 出土地点	蔵骨器 専用蔵骨器	蔵骨器 転用蔵骨器	外国産陶磁器	本土産 肥前系	本土産 その他	銭貨	木製品	刀子	鉄釘	煙管	簪	指輪	金属製品	石器・石製品	瓦	円盤状製品	プラスチック製品	骨製品	貝製品	ガラス製品	脊椎動物遺骸	軟体動物遺殻	鑑定人骨	土器	沖縄産陶器	その他	合計
第１号墓	35	1			10								3		5						50				1		105
第１・２号墓	8	1			6										1										3		19
第２号墓	55	4			1				2		2		4		3								15		1		86
第３号墓	18				4	2			1				2							1		1	8		1		38
第４号墓	12	1			1																				1		15
第５号墓	12						2			1															3		18
第６号墓	3	2					1		228		1		24												3		262
第７号墓	8	1			2					1			6		1						1		17		4	2	43
第７・８号墓間			1																		1				1		3
第７～10号墓					1										3										2		6
第８号墓	9	1															1			2		1			2	1	17
第９号墓	3	3									1				2					1					1		11
第10号墓	1	1			1								4		2										5	9	23
第11号墓	1				1															1	1				5	2	11
第12号墓	1														1		1			1					2	5	11
第13号墓	3				13										1					5	1				6	3	32
第14号墓		1																									1
第15号墓																											0
第16号墓		3			4	1								1	5	1									5		20
第17号墓	14	1	1		2												1			2							21
第18号墓	2	2			3						1									6	5				2	3	24
第19号墓																											0
第19・20号墓																					4				1		5
第20号墓					2								1	1						1					1		6
第21号墓	2	1			4				6				5	2						2	8	1					31
第22号墓																											0
第23号墓	65	5											1								16				1		88
第24号墓	3	1			6								2	7	9					3	3				27	1	62
第25号墓																											0
第26号墓																											0
第27号墓																											0
第28号墓																											0
第29号墓																											0
第30号墓	4								8	4			43										5		1	1	66
第31号墓	36	2											3				1			3	62		3				110
第32号墓					1				3						2										1		7
第33号墓	25	4	1		8	1							23	1	33		1		1	8					3	11	120
第34号墓	4					3									1										2		10
第35号墓	55	16	3	1	26	25			2	4	2		13		1					6	5		5		6	2	172
第36号墓	18		1		8	3			2				4		9					3			4		5		57
第37号墓	33	8	3	1	30	47			4				12		1		1			5			15		2		162
第38号墓	89	18	2	1	15	18				3	3	1	10		11	1	7			3		1			39	2	224
第38・39号墓																											0
第39号墓	44	35	4	1	21	13			1	3				2	23	3				2	15	6		1	47	2	223
第40号墓	14	3				130		1	5	2			22									12		1	1		191
第41号墓	1		1														1										3
第42号墓	58				2	1			3	1	1	1			2					1			5				75
第43号墓	63	7	2			2			3				7		5		2			3			3		5	1	103
第44号墓	296	28	1	5	13	4				4			19	3	7	1				1	6	1	4		34	1	428
第44・46号墓													1														1
第45号墓	9	8	3		63	15					1		1		4	1	1			1	2				7	1	117
第46号墓	193	25	8	6	31	58			66	1	2	2	36	1	32	1	3	1		4	37	9	8		63	15	602
第47号墓		2																				2					4
第48号墓						2																					2
第49号墓		2			2										1						1				3		9
第50号墓	17														1						1				2		21
第51号墓					1																	1			1		3
表　採	21	1			1	2							2		4		1								2		34
合　計	1235	188	31	15	283	327	3	1	334	24	14	4	248	18	170	8	21	1	1	65	219	23	104	2	301	62	3702

第Ⅴ章　遺　物

第1節　蔵骨器

1．蔵骨器の分類

(1)　専用蔵骨器

沖縄は中国との関係が深く、中国から洗骨の習俗が入ってくる。死者を木の棺に納めて墓口から墓室内に入ってすぐの平坦地（方言でシルヒラシドゥクル）に安置し、死後3年以上の奇数年に墓庭で洗骨をし、その骨を蔵骨器（方言でジーシ）に納めて、シルヒラシドゥクルの奥の壇や左右の壇の上に安置する。この二次葬のときに使用するのが蔵骨器である。蔵骨器には主に石製家形蔵骨器（方言でイシジーシ＝石厨子）、陶製家形蔵骨器（方言でウドゥンジーシ＝御殿厨子）、陶製甕形蔵骨器（方言でジーシガーミ＝厨子甕）が使用されているが、古い時代には木製蔵骨器（方言でイタジーシ＝板厨子）も使用されていた。蔵骨器の身や蓋には、納められた人の氏名、死亡年月日、洗骨年月日などが墨書で記されている。これを方言でミガチ（銘書）という。このミガチは蔵骨器分類に重要である。ミガチを参考にしながら次のように分類した。なお、家形蔵骨器に関しては、上部径、下部径とも長径のみを記載している。

下記の蔵骨器分類表と第27図の蔵骨器分類図を対比して参照。

第3表　蔵骨器分類表

名称又は仮称	身	蓋
Ⅰ 石製家形	方形で4脚付	入母屋
Ⅱ 陶製家形	〃	a. 切妻 b. 入母屋（御殿形） c. 寄棟（民家形）
Ⅲ 陶製無頸甕形（ポージャー）	1. 中型（高さ50cm前後） 2. 大型（高さ60cm前後） 3. 小型（高さ40cm前後）	a. 宝珠形つまみ b. 饅頭形つまみ c. つまみなし
Ⅳ 陶製円筒形	1. 円筒形で3脚付 2. 円筒形で高台付	a. 円形屋根形で宝珠形つまみ b. ポージャータイプで宝珠形つまみ
Ⅴ 陶製有頸甕形	1. 文様なし（ポージャーに近い） 2. 貼付文（　〃　） 3. 貼付文 4. 貼付文＋線彫文 5. 線彫文	a. 約5mm以上の「き」 b. 約5mm以下の「き」 c. 「き」なし
Ⅵ 陶製軒付甕形	1. 降棟に獅子等の装飾があるもの 2. 降棟（くだりむね）に装飾のないもの	a. 降棟に獅子等の装飾があるもの b. 降棟に装飾のないもの

※蔵骨器観察一覧（第5・6表）の形式分類は上記表によるもので、例えばⅢ1は陶製無頸甕形「Ⅲ」の中型「1」を表わし、Ⅲaは陶製無頸甕形「Ⅲ」の蓋で宝珠形つまみ「a」の付くものを表わしている。

Ⅰ　石製家形蔵骨器

琉球石灰岩をくりぬいて造ったものがほとんどである。身は長方形で４脚が付く。蓋は入母屋形がほとんどである。

Ⅱ　陶製家形蔵骨器

陶器の家形で、素焼と釉をかけたものがある。身は長方形で４脚が付く。

蓋は　a．切妻（破風形）　(a) 素焼（アカムン）（報告書「銘苅古墓群（Ⅰ）」参照）
　　b．入母屋（御殿形）　(a) 素焼（アカムン）（報告書「ナーチュー毛古墓群」参照）
　　(b) 素焼（彩色）（報告書「ナーチュー毛古墓群」参照）
　　(c) 焼締（マンガン彩色）（報告書「銘苅古墓群（Ⅱ）」参照）
　　(d) 施釉（第29図１・２　PL24の１・２）
　　c．寄棟（民家形）　(a) 施釉（報告書「銘苅古墓群（Ⅰ）」参照）
　　(b) 素焼（瓦質）（報告書「銘苅古墓群（Ⅰ）」参照）

Ⅲ　陶製無頸甕形蔵骨器

方言で「ポージャージーシ」と言われているもので、第30図に示した。口縁部は丸く肥厚し、頸部がほとんどない。これには喜名焼と壺屋焼がある。

身は　１．中型（高さが50cm前後）
　　２．大型（高さが60cm前後）
　　３．小型（高さが40cm前後）

に大別される。中型を最初に入れたのは壺屋焼より古い喜名焼には大型はほとんどなく、中型が主であることによる。文様は正面窓の両サイドに蓮花の線彫り文が喜名焼にはよく見られる。壺屋焼はかなり喜名焼の影響を受けたようで、壺屋の古いものは窓の庇や窓の両サイドに蓮花文など喜名焼を模倣したのが見られる。形から見ると喜名焼や壺屋焼の古いものは胴部で大きく膨らむが、壺屋焼はその後肩部が膨らむようになり、最も新しい時期になると胴部も肩部もあまり膨らまない寸胴形に近いものへと変化していく傾向にある。

正面には１～４個の孔を穿った窓があるが、その窓の上に付けられた庇によって次のように大別した。

なお、①～③は庇と窓の左右の枠は別々に造ってから貼付している。

①　庇が約２cm以上出ているもの。これには
　　①－１　庇が直線的なもの
　　①－２　庇が破風状のもの

②　庇が約１cm台のもの。これには
　　②－１　庇が直線的なもの
　　②－２　庇が破風状のもの

③　庇が約１cm以下しかでてないもの。これには
　　③－１　庇が直線的なもの
　　③－２　庇が破風状のもの

蓋は　a．宝珠形つまみの付くもの
　　b．饅頭形つまみの付くもの
　　c．つまみの付かないもの

に大別される。宝珠形としたのはつまみの内側が空洞になっているもので、饅頭形は内側に空洞のないものとして大別した。喜名焼はほとんど宝珠形で、壺屋焼の古いものも宝珠形が多い。また波状文などの文様も見られる。

Ⅳ　陶製円筒形蔵骨器

身は円筒形で３脚が付き、蓋は円形屋根形で宝珠形のつまみが付くものと身は円筒形で高台がつき、ふたはポージャータイプで宝珠形のつまみが付くものがある。大きさは大型のみである。

Ⅴ　陶製有頸甕形蔵骨器

頸部が立ち上がるタイプで、第31図１・２に示した。素焼も見られるが、ほとんどはマンガン釉が施されている。

身は　１．文様のないもの（ポージャーに近い）
　　２．貼付文（ポージャーに近い）
　　３．貼付文（蓮花など）
　　４．貼付文＋線彫文
　　５．線彫文

に大別される。なお、大きさによって中型（高さ50cm前後）、大型（高さ60cm前後）、小型Ⅰ（高さ40cm前後）、小型Ⅱ（高さ30cm前後）に大別される。

蓋の大きな特徴は「き」（蓋の鍔の内側に突出したもの。鍔全体に廻っており、これは蓋が身からずれるのを防止するもの）である。

a．約５mm以上の大きな「き」
b．約５mm以下の小さな「き」
c．「き」がないもの

に大別した。喜名焼や壺屋焼の古いものは幅も高さも大きくしっかりしている。

Ⅵ　陶製軒付甕形蔵骨器

蓋にも身にも瓦屋根の付くタイプで、第31図３・４に示した。身には蓮花、獅子などの貼付文が全面に見られる。ほとんどはマンガン釉が施されている。大きさは大型で、中・小型はほとんど見えない。

身は　１．降棟に獅子等の貼付装飾のあるもの
　　２．降棟に装飾のないもの
蓋は　a．降棟に獅子等の貼付装飾のあるもの
　　b．降棟に装飾のないもの

(2) 転用蔵骨器

専用蔵骨器ではない壺、甕、鉢などを蔵骨器として使用したものを転用蔵骨器とした。

これには 1．沖縄産の土器壺

2．中国産褐釉陶器壺

3．タイ産褐釉陶器壺

4．薩摩焼壺

5．喜名焼甕・壺・火炉・擂鉢

6．産地不明の壺

7．壺屋焼の甕・壺・鉢・擂鉢

8．本土産蓋付鉢

などがある。壺は頭骨が入るように口縁部や胴部を打ち欠いて立てたり、横にしたりして使用している。また、胴部に窓孔を意識して穿孔したのも見られる。

小壺は子供用に使用したのが多いが、中には枝珊瑚が入ったのもある。枝珊瑚の入っているのは海で死亡して遺体があがらない人や、戦争で亡くなって遺体が見つからない人は海から枝珊瑚を拾ってきて壺に入れて、納める沖縄の習俗からきているものである。なお、黒釉の耳付小壺（方言でアンダガーミ）は、転用蔵骨器もあるが、中には沖縄戦のときに墓に避難した住民が持ち込んだ可能性のものもある。

※ミガチ（銘書）の凡例

観察表の中のミガチ（銘書）の項目で次のような表記を用いた。

□□ → 不鮮明な文字。

・・ → 文字があったと考えられるがその部分が欠損し、又は、文字数の判然としないもの。

（　） → その部分の文字はないが、全体から見てそのように考えられる。

氏、家名、名乗頭の項目も同じ。

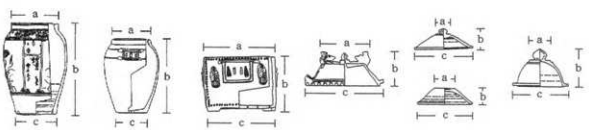
（→　）→銘書の記し違いと思われる。全体からみてこのように考えられる。

／→ 文章の切れ目。

〈　〉 → ミガチ（銘書）に（　）書きされている。

［右］［左］［内面］［ふち］　→　ミガチ（銘書）の書かれている場所。

※凡例：法量については下記のとおりである。（a：上部径　b：器高　c：下部径）



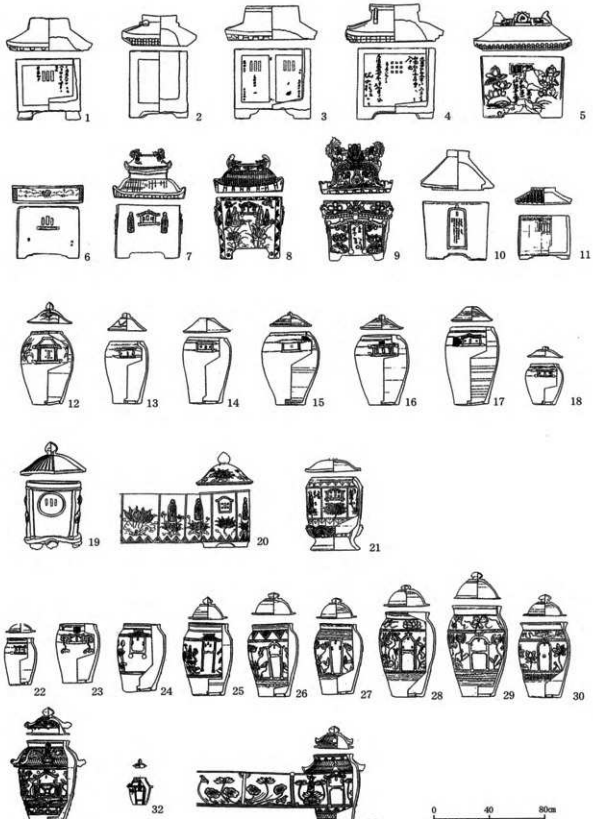
第４表　蔵骨器出土一覧

形式分類		I 石製家形												II 陶製家形												III 陶製無線壺形												IV 陶製円筒形			
		身				蓋								身				蓋								身				蓋								身			
出土地点		口	胴	底	完	頂	胴	底	完	口	胴	底	完	頂	胴	底	完	口	胴	底	完	頂	胴	底	完	口	胴	底	完												
第１号墓	墓室															1					2			1												7					
	墓縦															1					1			1											1						
	一括																																								
第２号墓	墓室															1								2												2					
	墓縦															2				2	1			2			2	4	2	2					2	1					
	一括																																								
第1･2号墓	一括																										1														
第３号墓	墓室																												1							3					
	墓縦													1																											
	一括																																								
第４号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括															1				1																					
第５号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																			1							1									1					
第６号墓	墓室																																			1					
	墓縦																																								
	一括																																								
第７号墓	墓室																										1			2											
	墓縦																																								
	一括																													1											
第８号墓	墓室																										7														
	墓縦																																			1					
	一括																																								
第９号墓	墓室																																								
	墓縦																																			2					
	一括																																								
第10号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第11号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																													1											
第12号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第13号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																										1									1					
第14号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第15号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第16号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第17号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																									1		2								1					
第18号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第19号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第20号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第21号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第22号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第23号墓	墓室													2	1			1	1			4	1	7	1			2	2												
	墓縦																																								
	一括																																								
第24号墓	墓室																						1																		
	墓縦																																								
	一括																																								
第25号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								
第26号墓	墓室																																								
	墓縦																																								
	一括																																								

遺				V 陶製有脚壺形									VI 陶製杯付壺形							転							合
				身				蓋					身				蓋			用							
頸	脚	底	完	口	脚	底	完	頸	脚	底	完		口	脚	底	完	頸	脚	底	完	口	脚	底	完	頸	脚	底	完	計
							2				9					2				1	1			1					28
				1	1				1		1																		8
																													0
				3		3	5				2																		18
				2	1	3	2			3	3								3		1								36
					1						1										3								5
				2	1				1	1	1			1										1					9
				2																									6
				1	3	1	1				3																		10
										1	1																		2
					1				1													1							3
					3					1																			4
					1	1					1				1														6
																													0
																													0
				1	8																								12
					1	1																2							5
																													0
																													0
					1		1																						5
																													0
					1	1															1								4
																													0
							1																						8
																						1							2
																													0
																													0
									1													2	1						6
																													0
																													0
					1																	1							2
																													0
																													0
																													0
									1																				1
																													1
																													0
																													0
																													0
													1																3
																													0
																						1							0
																													1
																													0
																													0
																													0
																													0
							2				2											3							3
																													4
																													0
					3	1			1	1												1							11
																													0
																													0
					2																1	1							4
																													0
																													0
																													0
																													0
																													0
																						1							1
																													0
					2																								2
																													0
																													0
																													0
				6	13	9	1	3	1	9				1								3	2						70
																													0
																													0
																													0
					1			1														1							4
																													0
																													0
																													0
																													0
																													0
																													0

形式分類		I 石製家形								II 陶製家形								III 陶製無頭壺形								IV 陶製円筒形			
		身				蓋				身				蓋				身				蓋				身			
出土地点		口	胴	底	完	頂	胴	底	完	口	胴	底	完	頂	胴	底	完	口	胴	底	完	頂	胴	底	完	口	胴	底	完
第27号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第28号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第29号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第30号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																			1									
第31号墓	墓室																	1			4			2	1				
	墓庭																												
	一括																												
第32号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第33号墓	墓室																	2	3	2				1					
	墓庭										1							2	2	1			1	4					
	一括																												
第34号墓	墓室																												
	墓庭																		1		1								
	一括																												
第35号墓	墓室		1															3		2	7			3	8				
	墓庭																	2	2										
	一括									1						1		3	1					1					
第36号墓	墓室											1				1		1	1					2					
	墓庭									1																			
	一括																		3				1	1					
第37号墓	墓室			1	4				3												10				12				
	墓庭																												
	一括																												
第38号墓	墓室																		12	2		1	4	2					
	墓庭																	1	5	1				3	2				
	一括									1																			
第39号墓	墓室																		1										
	墓庭										1							3	3	5		2		1					
	一括																	1	2				1	1					
第40号墓	墓室																	1			1			2					
	墓庭																												
	一括																												
第41号墓	墓室										1																		
	墓庭																												
	一括																												
第42号墓	墓室											1							3	1				3					
	墓庭																												
	一括																												
第43号墓	墓室												9				5				5				3				
	墓庭																												
	一括																	1						1					
第44号墓	墓室																	3	5					2	2	6	7	2	
	墓庭									1								6	22	9	2	2	9	11		8	121	7	
	一括																		1				1	1		1	4	2	
第45号墓	墓室																												
	墓庭																		6				1						
	一括																												
第46号墓	墓室																	3	10	5	13			3	4				
	墓庭																	1	12	5			3	8	1				
	一括									1							1	4	7	6			2	3	1				
第47号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第48号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第49号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
第50号墓	墓室												1																
	墓庭																												
	一括									1		1			1	3									1				
第51号墓	墓室																												
	墓庭																												
	一括																												
安廻西原表採	一括										1								2	2			1						
合　計		0	1	1	4	0	0	0	3	6	5	9	12	1	5	9	6	49	120	55	49	6	27	65	52	15	132	11	0

蓋				V 陶製有頸壺形									VI 陶製軒付壺形							転用							合計
				身				蓋					身			蓋				身			蓋				
頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	口	胴	底	完	頭	胴	底	完	
																											0
																											0
																											0
																											0
																											0
																											0
																											0
																											0
																											0
																											0
					2		1																				4
					3		11			4	9										2						37
				1																							1
																											0
																											0
																											0
																											0
					1	1															3	1					14
					3	1																					15
																											0
				1				1																			0
																											4
																											0
							1	1														3	5				34
				2	6	1				1										2	4						20
				1	2	1	1	1			2									1	1						17
				2	1					1																	10
																											1
				1						1																	7
						1	1				1									2		1	4				40
																					1						1
																											0
																											0
				4	18	1		1	7	13	5									1	6	1	2				80
					3				1	2										3	3	2					27
					1					1																	3
				2	3	4		1		1										3	9	3	3				44
				2	2	1			4	1										1	14	2					32
				2	2					5											2						15
																											0
				1																	1						2
																											1
																											0
																											0
				1	20				6	8		9				3											55
																											0
					1				2																		3
				1			12			1	13				1				1	1	2						54
																											0
				2	6		1			1											2	2					16
		5											1							2	2						37
4	13	31	1											1						9	6	6	1	1			271
1		4																				1					16
									1											1	1						3
																					4					1	1	13
					1																						1
				3	8	3	5	3	7	2	3				1					1	2	5	2				83
				4	19			4	3	8										4	4	1					77
				4	16	2		1	1	3										2	3		1				58
																											0
																											0
																					1	1					2
																											0
																											0
																											0
																											0
																					2						2
																											0
																											0
																											1
				1	4	1	2			1																	16
																											0
																											0
																											0
				1	8	1			1	3			1							1							22
5	13	40	1	54	175	38	50	17	40	73	57	10	3	3	4	0	3	4	2	40	93	33	19	1	0	1	1	1423



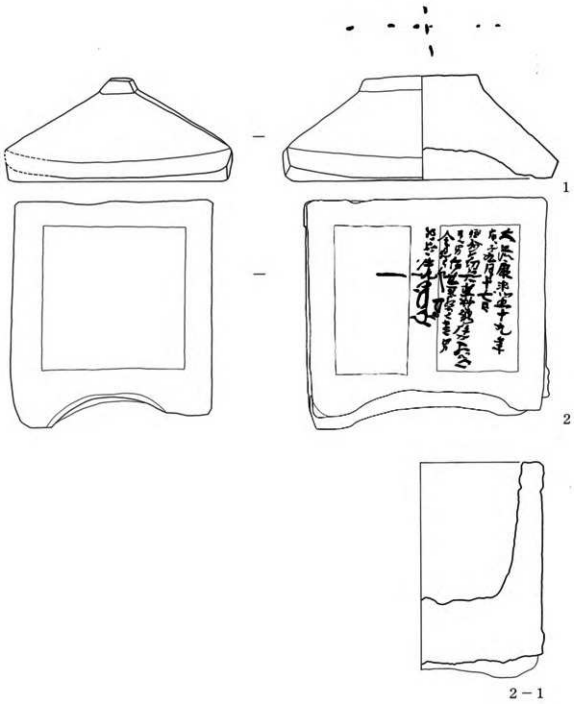
第27図　蔵骨器分類

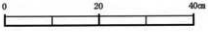
石製家形蔵骨器（1～5）、陶製家形蔵骨器（6～11）、陶製無頸甕形蔵骨器（12～18）
陶製円筒形蔵骨器（19～21）、陶製有頸甕形蔵骨器（22～30）、陶製軒付甕形蔵骨器（31～33）

第５表　蔵骨器観察一覧

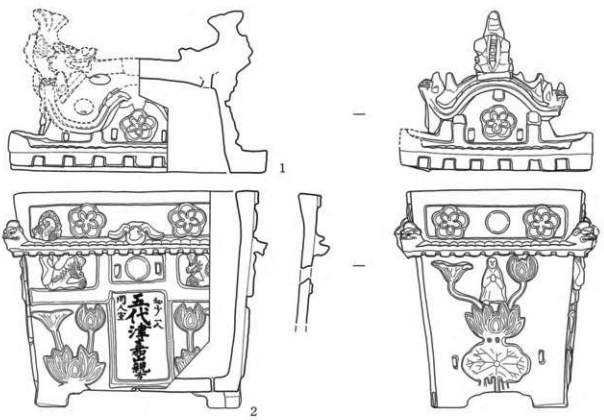
法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

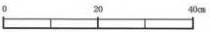
通番	掲図番号 掲版番号	篤番号	出土地点	身・ふた蓋	名称又は取称	形式分類	法量 a	法量 b	法量 c	対No.	文様	施釉	銘　書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
1	第28図1 PL23/01	第37号墓	墓室蔵骨器 No.3	蓋	石製家形 (イシジージョウ)	Ⅰ	24.0 21.9 58.6	2											計画No.28
2	第28図2 PL23/02	第37号墓	墓室蔵骨器 No.3	身	石製家形 (イシジージョウ)	Ⅰ	50.6 48.2 46.6	1					[正面]大頭康熙五十九年／庚子九月十七日／□□□(筑登之親雲上室)／三男□□筑登之親雲上三男／金(城写)也□□／□□洗骨又					(1720)	計画No.27
3	第29図1 PL24/01	第43号墓	墓室蔵骨器 No.1	身	陶製家形 (ウドゥン ジージョウ)	Ⅱb (d)	47.6 33.8 54.0	4	貼付	鉄中鬼色、白色釉を外面に施釉			[ふた]光緒廿年甲午七月十八日／第三入合務／五代 津嘉山親方／同人放威豊六年丙辰十月廿三日洗骨／同十年庚申十一月十三日死又／同十二年壬戌正月廿七日洗骨向龍光津嘉山親雲上女子恵戸	向	津嘉山	朝	(1842 ~1856) ~1860	1856、 1862	計画No.40
4	第29図2 PL24/02	第43号墓	墓室蔵骨器 No.1	身	陶製家形 (ウドゥン ジージョウ)	Ⅱ	50.1 45.6 42.8	3	貼付	鉄中黒色、白色釉を外面に施釉			[正面]幼少一人／五代津嘉山親方／同人室	向	津嘉山	朝			底孔6 計画No.39
5	第30図1 PL25/01	第46号墓	墓ロフク土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーグシ)	Ⅲa	10.0 ~ 37.0			線彫の蓮花	泥　釉		[内面]銘文口						落名他 つまみa 蓋皮[一段] [き]高さ[3.5cm] [3.5cm] 計画No.103
6	第30図2 PL25/02	第46号墓	墓室蔵骨器 No.6B	身	陶製無頭壺形(ボージャーグシ)	蓋1	30.0 51.0 26.0				泥　釉								落名他 蓋印[く] 蓋底[9.9cm] ①-1　底孔1 計画No.85
7	第30図3 PL25/03	第３号墓	廊背部No.1	身	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Va	11.2 12.0 31.5	8		マンガン			[内面　書きされた銘書]乾隆四十五年庚子三月二十八日／七拾三年蓋白鈔水信女／同五十五年庚戌五月九日洗骨／毛氏次男高良盛之子／親雲上東父親氏武平親雲上／元亀／女子真加戸籍 [ふた　書されていない銘書]九世津嘉親井盛親雲合葬	毛	高良	盛	1780	1790	裏段[ヲ] 蓋底[14.5cm] ①-1 底孔5 計画No.8
8	第30図4 PL25/04	第３号墓	廊背部No.1	身	陶製無頭壺形(ボージャーグシ)	蓋1	25.8 53.1 22.3	7					[正面　書されたお銘書]大男□□□□□女子 [正面　書されていない銘書]□…□/八(日)… 高(良)…□□/(女?)…□□/盛真/盛真恵 [裏内]九世	毛	高(良)	盛			裏印有[ヲ] 蓋底[14.5cm] ①-1 底孔5 計画No.8
9	第30図5 PL25/05	第43号墓	墓室蔵骨器 No.30	身	陶製無頭壺形(ボージャーグシ)	蓋1	28.0 45.0 22.0						[正面](乾隆)…(九)日/洗骨非□□/三代□……/津嘉山□… [後面]乾隆(殆九年)……/洗骨□	向	津嘉山	朝		(1754)	裏印有 蓋底[14.5cm] ①-2　底孔7 計画No.9
10	第30図6 PL25/06	第43号墓	墓室蔵骨器 No.16	身	陶製無頭壺形(ボージャーグシ)	蓋3	20.4 37.2 18.2						[後面　書された銘書]乾隆三年戊/乾隆四年(→始末千支)三年戊戌四月廿日死/同四拾六年辛丑十月廿六日洗骨 [後面　書されていない銘書]幼少女子真加戸 [右側面]同世三親次女/思戸/真□□ [左側面]乾隆四拾二年丁酉十月廿六日死/同四拾六年辛丑十月廿六日洗骨/元親女思戸				1777	1781	裏印有[○] 蓋底[0.6cm] ①-1 底孔5 計画No.1
11	第31図1 PL26/01	第43号墓	墓室蔵骨器 No.18	蓋	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Ⅴb	6.0 9.8 22.0	12		マンガン			[内面]六代津嘉山親雲上朝功次男樽金同治五年丙寅五月廿九日洗骨	向	津嘉山	朝	(1852 ~1864)	1866	裏段[一段] [き]高さ [0.1cm] 計画No.14
12	第31図2 PL26/02	第43号墓	墓室蔵骨器 No.17	身	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Ⅴ5	22.0 42.0 17.0	11	線彫	マンガン			[正面]津嘉山親雲上朝功次男／樽金	向	津嘉山	朝			小型 蓋底[0.6cm] 底孔9 計画No.7
13	第31図3 PL26/03	第43号墓	墓室蔵骨器 No.28	蓋	陶製有付壺形(ジーシガーミ)	Ⅵa	11.1 17.7 31.8	14	線彫・貼付	マンガン			[内面]□□津嘉山(里之子→崎字で書かれる)親雲上向龍信女子思亀／樽子津嘉山(里之子→崎字で書かれる)親雲上向龍信女子武樽金／武豊拾年辛十一月十四日洗骨	向	津嘉山	朝	(1846 ~1858)	1860	裏段[二段] [き]高さ [0.3cm] 計画No.26
14	第31図4 PL26/04	第43号墓	墓室蔵骨器 No.9	身	陶製軒付壺形(ジーシガーミ)	Ⅵ1	30.6 64.8 23.4	13	線彫・貼付	マンガン			[内面]樽子津嘉山(里之子→崎字で書かれる)親雲上向龍信女子武樽金/武豊拾(年甲)十一月十四日(洗骨)	向	津嘉山	朝	(1846 ~1858)	1860	裏底[0.6cm] 底孔4 計画No.25
15	第31図5 PL26/05	第35号墓	左ソデ	身	無釉陶器壺(壺屋)	7	~ ~ 12.6												転用蔵骨器 胴、底部 スス痕有 計画No.41
16	第31図6 PL26/06	第39号墓	墓庭（右横）	身	無釉陶器小壺(壺屋)	7	9.0 13.5 8.4												転用蔵骨器 頂印有 計画No.49
17	第31図7 PL26/07	第39号墓	墓庭	身	無釉陶器小壺(壺屋)	7	8.9 17.6 6.7												転用蔵骨器 焼痕部に入っている 計画No.50
18	第31図8 PL26/08	第39号墓	墓庭	身	無釉陶器鉢(喜名焼)	5	28.5 13.6 9.8												転用蔵骨器 計画No.51
19	第31図9 PL26/09	第46号墓	墓室蔵骨器 No.1	身	施釉陶器壺	2	9.7 23.1 11.6				外面に黄褐釉								転用蔵骨器 中段痕跡部 計画No.75



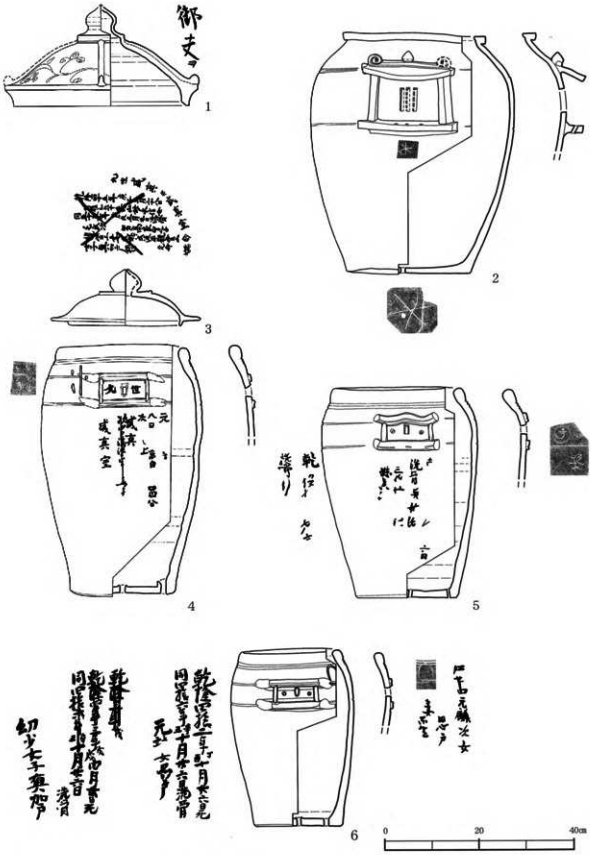


第28図（ＰＬ.23）石製家形蔵骨器（1・2）

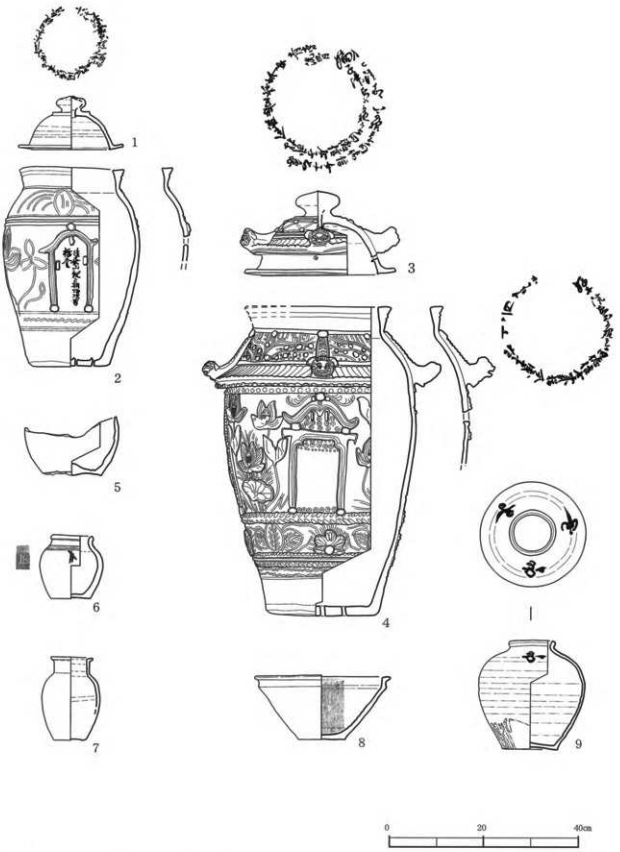




第29図（ＰＬ.24）　陶製家形歳骨器：施釉（1・2）



第30図（ＰＬ.25）　陶製無頸壺形蔵骨器（１～６）
（ポージャー）



第31図（ＰＬ.26）　陶製有頸甕形蔵骨器（1・2）
陶製軒付甕形蔵骨器（3・4）、転用蔵骨器（5～9）

第6表　ミガチ(銘書)のある蔵骨器観察一覧

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

連番	神図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　書	氏	家名	名乗頃	西暦 死去年	西暦 洗骨年	備考
1		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製家形(ウドゥン)	Ⅱb (d)	－ － －		[ふち]光緒拾八年・月吉拾□日洗骨／長男／洗骨／比嘉藏／同人次男比嘉藏小□□…		比嘉			1892	計測No.160
2		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅲa	－ － 31.0		[内面]道光□年次月□□…(不鮮明)…(十?)月□日洗骨						つまみa 計測No.157
3		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅲa	9.7 － 32.0		[内面]□□□□男子／□□／女屏						つまみa 鼻段[一段] 櫛描文 (波状櫛線) 計測No.159
4		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅲb	－ 12.2 31.5		[内面]□□□□□						つまみb 計測No.158
5		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅲb	－ 9.1 30.0		[内面](祝？)幾夫□□□□□□□□□□□□						つまみb 櫛描文 (波状櫛線) 計測No.152
6		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅲb	－ 9.8 30.5		[内面]雍正十三年丁卯(一乙卯36年号)／二月五日死／乾隆三年戊(午)／九月九日洗(骨)／(嶋袋？)□□／母親		(嶋 袋)		1735	1738	つまみb 計測No.155
7		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅲc	8.5 8.5 29.0		[内面]…□□□□□／□子□□□□□…／… (不鮮明)…						計測No.156
8		第1号墓	墓室理土	身	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅱ	29.0 － －		…(不鮮明)…／七月十(一?)…						窟印有 窟底[1.3cm] ③-1 計測No.162
9		第1号墓	墓室理土	身	陶製無頭壺形(ボージャーシ)	Ⅱ	27.0 － －		…□□□□十月十一日…／□□□(親雲上?)□子…／□□□□□男子…／□(妻?)戸／(妻?)						窟底[0.7cm] ③-2 計測No.161
10		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Va	7.1 16.5 29.5		[内面]大清乾隆四拾八年癸卯十月三日洗骨／樹子亀□□□／嶋袋(筑登之一略字で書かれる)親雲上女子國戸		嶋 袋		(1769～1781)	1783	鼻段[二段] 「き」高さ[0.6cm] 計測No.151
11		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Vb	10.7 － 32.0		[内面]比嘉□(眞嘉？)戸□…／比嘉親□□		比 嘉				鼻段[二段] 「き」高さ[0.3cm] 計測No.143
12		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Vb	6.7 15.4 31.0		[内面]…十四年乙□……(不鮮明)……						鼻段[二段] 「き」高さ[0.4cm] 計測No.144
13		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Vb	11.4 16.5 34.0		[内面]□□女子□□…□□□□□□女子□□ …□□□…						鼻段なし 「き」高さ[0.3cm] 計測No.148
14		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Vb			[内面]…□□洗骨多和田□比嘉□□　…		(比嘉)				鼻段[二段] 「き」高さ[0.1cm] 計測No.149
15		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Vb	7.8 10.8 20.0		[ふち]…□□□洗骨 [内面]…(三男？)□ (受)里筑登之親子□(母？)洗骨						鼻段[一段] 「き」高さ[0.2cm] 計測No.147
16		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Vc	11.0 12.5 30.5		[内面]昭和十三年廿十月十三日洗骨／□□(八)□					1938	鼻段[二段] 「き」及び[0.1cm] 計測No.146
17		第1号墓	墓室理土	身	陶製有頭壺(ジーシガー3)	Va	34.0 61.0 30.0		…□(屋？)七年□戊／…比嘉筑登之親雲上…		比 嘉				大型　窟底 [0.5cm] 底孔5 計測No.163
18		第1号墓	墓室理土	身	陶製有頭壺(ジーシガー3)	V4	29.5 46.7 22.5		□□□□七月／(六？)日洗骨／妻(め？)…						中型　窟底 [0.4cm] 底孔4 計測No.164
19		第1号墓	墓室理土	蓋	陶製折付壺形(ジーシガー3)	Ⅵa	10.0 15.0 30.0		[内面]…□□五十□年卦十一月廿□日／…ウシ…						鼻段[四段] 「き」高さ[0.2cm] 計測No.150

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

通番	排図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・歯	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　　書	氏	家　名	名乗頭	西暦 死去年	西暦 洗骨年	備　考
20		第1号墓	墓室埋土	歯	陶製軟質 壺形(ジーシガー1)	Vb	10.5 17.2 32.0		[内面](多？)和田□　比嘉筑登之…(不鮮明)…		比　嘉				貴段[二段]「き」高さ(0.3cm) 計画No.145
21		第1号墓	墓室埋土	身	陶製軟質 壺形(ジーシガー2)	VI1	28.8 72.4 24.0								焼成(0.5cm) 底孔28 ※正面にげょ墨書有(家紋？) 計画No.154
22		第2号墓	墓室埋土	歯	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	IIIa	7.6 11.4 30.0		[内面]□□□□						つまみa 貴段[一段] 頭印有(ハ) 計画No.131
23		第2号墓	墓室埋土	歯	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	IIIc	9.5 11.0 32.0		[内面]墓屬七年辛戌(→壬戌家年号)(嶋袋)(筑登之→嶋字で書かれる)親雲上男子□□□□(洗骨正月廿一日		(嶋袋)		(1788 ～1800)	1802	計画No.134
24		第2号墓	墓口埋土	歯	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	III	－ － 31.0		[内面]・・・・□□□□						貴段なし 計画No.130
25		第2号墓	墓口埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー1)	Va	13.0 17.1 35.0		[ふち]道光□□・・・□十月十三日(嶋袋)(筑登之→嶋字で書かれる)親雲上新洗骨 [内面]道光九(年)或(很)十月十(三？)日□□□親雲上所新洗骨		嶋　袋				貴段[一段]「き」高さ(0.5cm) 計画No.132
26		第2号墓	墓室埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー1)	Va	10.0 － 28.0		[内面]墓(屬)□・・・・・・/・・・□□(筑登之→嶋字で書かれる)親(雲上)・・・						貴段[一段]「き」高さ(0.7cm) 計画No.138
27		第2号墓	墓口埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー1)	Va	5.4 － 32.0		[内面]・・・・・・□十三か五？)日比(墓？)(筑登之？)(親？)□・・・		比(墓？)				貴段[三段]「き」高さ(0.5cm) 計画No.137
28		第2号墓	墓口埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシミ3)	Vb	7.7 13.5 28.0		[内面]明治廿一年六月十日(死？)仁比嘉三良/二女□カマ親子三人入/□・・・勉成六廿日月/・・・(墓)三良/女子カメ/二女□カマ/長・三人入		比　嘉		1888		貴段[二段]「き」高さ(0.2cm) 線紋文 計画No.139
29		第2号墓	墓口埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー2)	Vb	9.0 － 26.0		[内面　消された銘書]・・・年□・・・/二長女亀/親子三人						貴段[二段]「き」高さ(0.3cm) 計画No.136
30		第2号墓	墓口埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー2)	Vb	－ － 28.0		[内面]・・・□□□/・・・(嶋袋？)(筑登之→嶋字で書かれる)親雲上女子真嘉戸浅・・・		(嶋袋？)				「き」高さ(0.4cm) 計画No.135
31		第2号墓	墓室埋土	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー2)	Vc	11.0 13.5 31.0	32	[内面]大正拾参年九月二十六日洗骨日/(頂)ノ人比嘉親/昭和十三年卸十月十□(洗骨)/比嘉親		比　嘉		(1910～ 1922) (1924～ 1936)	1924, 1938	貴段[二段]「き」なし 計画No.133
32		第2号墓	墓室裏骨器No.2	身	陶製有釉 壺形(ジーシミ1)	V5	28.6 57.4 18.5	31	[ふち]□(正十？)三年九月廿六日洗骨西/□/嶋長□比嘉棒		比　嘉			(1924)	大型 窓紋 (0.5cm) 三脚 計画No.140
33		第2号墓	墓室埋土	身	陶製有釉 壺形(ジーシガー1)	V5	28.0 － －		[正面]銀河カマ [ふち]昭和拾口年卸□□□洗骨		銀　河				計画No.141
34		第3号墓	蔵骨器No.3	歯	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	IIIc	9.0 8.8 30.5		[内面]・・・・・/・・・甘七日/洗骨/盛・・・・/同・・・・・/・・男子・・・/・・・・・・戸/・・・・・次男/・・・・・・氣/・・・・書			(盛)			計画No.4
35		第3号墓	蔵骨器No.6	歯	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	IIIc	9.0 9.0 32.0		[内面]毛氏□・・・/□□□・・・/九月廿七・・・/毛氏婦子□・・・/婦子□□・・・	毛					つまみなし. 蔵段なし 計画No.166
36		第3号墓	蔵骨器No.7	歯	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	IIIc	8.0 10.4 30.0		[内面]墓屬□・・・・・・骨婦子□□□□子盛就・・・			盛			つまみなし. 蔵段なし 計画No.167
37	第30図4 PL.25の4	第3号墓	蔵骨器No.1	身	陶製無釉 壺形(ボージャージシ)	III 1	25.8 53.1 22.3	38	[正面　消された銘書]次男□□□□□女子 [正面　消されていない銘書]□・・・□/八(日)・・・高(良)・・・□□/(次？)・・・□□/盛真/盛真宝 [窓枠内]九匙	(毛)	高(良)	盛			頭印有[ス] 窓紋(0.5cm) ②-1 高さ5 計画No.5
38	第30図3 PL.25の3	第3号墓	蔵骨器No.1	歯	陶製有釉 壺形(ジーシガー1)	Va	11.2 12.0 31.6	37	[内面　消された銘書]乾隆卅十五年庚子三月二十八日/七拾三年壽山妙水朝女/同五十五年庚戌五月九日良	毛	高　良	盛	1780	1790	貴段[一段]「き」高さ(0.9cm)

※38は次ページへつづく

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

通番	博物館番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・墓	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　書	氏	家名	名乗頭	西暦 死去年	西暦 洗骨年	備　考
									骨／屯氏次男高良里之子／親雲上妻父親氏按平親雲上／元命／女子真加戸親 [ふち　消されていない銘書]九世盛真井盛真室合葬						計画No.3
39		第3号墓	墓骨器No.2	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vb	12.0 17.4 30.0		[内面]嘉慶廿五年爽妖五月廿六日□□□□嶺子里之子 □□名石千代						表段[一段]「き」高さ[0.1cm]計画No.2
40		第3号墓	墓底埋土	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vb	11.5 17.2 33.0		[内面]…(不鮮明)廿年(辛？)……						表段[三段]「き」高さ[0.3cm]計画No.169
41		第3号墓	墓骨器No.5	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vc	9.6 13.5 26.5		[内面　消されたと思[illegible]]同治□□□□月廿八日洗骨(神道)古賀里上嶺里ノ(同？)治(治？)年辛未／□月十八日洗骨／□□□□□／□□女子／□□／□□ [内面　消されていない銘書]盛英／同室	(毛)	淨彩古	盛			表段[一段]「き」なし計画No.165
42		第3号墓	墓底埋土	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vc	－ － 30.0		[内面]昭和十……／…(骨)…						「き」なし計画No.170
43		第3号墓	墓底埋土	身	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	V4	25.5 50.0 21.0		[正面]大清道光二年／八月十九日洗骨				(1808～1820)	1822	中型 底径[0.4cm]底孔／計画No.171
44		第3号墓	墓室	身	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	V5	25.0 － －		[内頸部]比嘉……		比嘉				計画No.168 ※内頸部に「全」墨書有(家紋？)
45		第4号墓	表採	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vc	10.6 14.2 29.4		[ふち]光緒七年辛巳十一月七日夫男高良里之子親雲上盛英洗骨 [内面]盛英良女真氏巻／全次女恵戸／盛恭次女恵戸／盛英良女真年／全入次女真嶺／外口嶺寿六十五女子	(毛)	高良	盛		1881	表段[二段]「き」なし計画No.142
46		第6号墓	墓室	盛	陶製無頸壺形(ボージャージーシ)	Ⅲb	－ 10.0 29.0		[内面](安富？)村□□						つまみb計画No.178
47		第7号墓	墓室(掘込)	盛	陶製無頸壺形(ボージャージーシ)	Ⅲ	－ － 38.0		[内面]……□／…□□…□…／…□の□入／…□(子？)□□(ら？)□／…□□						計画No.176
48		第17号墓	墓室蔵骨器No.1	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vc	11.3 12.9 29.0		[内面]盛能／旧十月十三日／盛林／旧三月十二日／シタシー旧二月二十三日	(毛)	(平安名)	盛			表段[二段]「き」なし計画No.182
49		第17号墓	墓室蔵骨器No.2	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vc	9.9 12.6 33.0		[内面]昭和六年旧正月拾九日死去昭和九年旧十二月十六日洗骨　法名慈徳妙寿信女／盛真妻／盛真合葬／昭和九年旧十二月十五(日)／死去／昭和十四年／旧九月廿七日洗骨／盛家勇子／大正七年旧十月廿九日／死去／昭和十四年／旧九月／廿七日合葬／三人	(毛)	(平安名)	盛	1918、1931、1934	1934、1939	表段[二段]「き」なし計画No.181
50		第17号墓	墓室蔵骨器No.3	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Vc	12.5 14.5 28.8		[内面]四代盛善昭和二十年旧五月十三日／昭和二十二年三月洗骨又／四代／盛善／旧五月十三日	(毛)	(平安名)	盛	(1945)	1947	表段[二段]「き」なし計画No.217
51		第17号墓	墓室蔵骨器No.4	盛	陶製小型壺形(施釉)		－ 3.9 17.0	52	[内面]昭和五十九年／二月十二日辛／故平安名ウシ／行年九十七才	(毛)	平安名	(盛)	1984		計画No.185
52		第17号墓	墓室蔵骨器No.4	身	陶製小型壺形(施釉)		16.5 25.3 15.0	51	[正面]故平安名ウシの棺	(毛)	平安名	(盛)			計画No.186
53		第23号墓	墓室埋土	身	陶製家形(ウドゥンジーシ)	Ⅱ	－ － －		[ふち]明治……／長……／……蕾小						計画No.211
54		第23号墓	墓室埋土	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	Va	－ － －		[内面]…慶八年癸亥八月七日…／…□□□……						「き」高さ[1cm]計画No.212
55		第23号墓	墓室埋土	身	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	V4	－ － －		[外面]…□□(天？)道神□…						計画No.213
56		第24号墓	墓室埋土	盛	陶製有蓋壺形(ジーシガーミ)	V	12.4 － －		[内面]十三代大男…／親雲上盛□…／御□…／丁未旧三□…／合(葬？)…			盛			表段[二段]計画No.172
57		第31号墓	墓室	盛	陶製無頸	Ⅲc	10.0 －	58	[内面]良富名親雲上乾隆五拾二年丁未□…	(馬)	名護	良	1787	(1793)	つまみなし、表段なし

※57は次ページへつづく

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

遺番	掛図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は板葬	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　　書	氏	家名	名乗頭	西暦 死去年	西暦 洗骨年	備　考
					豊形(ポージャージシ)		32.0		・・・・・骨岡五拾八年・・・・・・／岡人宮廟氏宮城筑登之親雲上娘思戸・・・・月拾六日卒						計測No.193
58		第31号墓	墓室	身	陶製無釉豊形(ポージャージシ)	Ⅲ1	27.7 49.0 22.0	57	[正面]良喜名親思之子親雲上／乾隆五拾二年丁未六月二拾六日号□子(腫？)岡五十八年発丑／・・・□・・・・・日徒骨又	(馬)	名護	良	1787	1793	窯印有[区] 窯底[0.4cm] ③-1 計測No.205
59		第31号墓	墓室	蓋	陶製無釉豊形(ポージャージシ)	Ⅲb	－	60	[内面]号道方／馬縄節名親・・・／・・乾隆二・・・□虫・／・・・□日□・・・三・・・／・・年戊子八月八日徒骨／右朝岡人宮乾隆廿年・・・／全甘三年戊寅□月甘日・・・／大正四年卯四月五日銘合修	馬	名護	(良)	(1758)	(1768)	つまみb 蓋段なし 計測No.200
60		第31号墓	墓室	身	陶製無釉豊形(ポージャージシ)	Ⅲ3	30.0 45.0 20.8	59	[正面　消された銘書]馬縄節名親思之子／親雲上良□乾隆二十／三年戊寅七月十九日卒・・・／岡三十三年戊子八月・・・／徒骨・・・	馬	名護	良	1758	1768	窯印有[Ｉ＋] 窯底[0.6cm] ③-1 底孔5 計測No.206
61		第31号墓	墓室	蓋	陶製無釉豊形(ポージャージシ)	Ⅲ	－ － 30.0		[内面　消された銘書]・・・□城筑登之親雲上娘思(戸？)／・・・六日号慈心岡□・・・／・・・□・・・[内面　消されていない銘書]・・・□□岡廿五年乙巳七月十日徒日後・・・／大正四年卯・・・／・・・五年甲□・・／・・・□月・・・[外面]・・・子次男／名親良□・・・	(馬)	名護	良			計測No.203
62		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Va	8.8 15.3 28.0		[内面]父馬顧□／名親思之子親／雲上良興娘／子馬冠名／名親子良／長□・・・／雲(顧)十二年／丁酉十一月)・・／日死岡□・・・／年辰七月九／日(徒骨)又	馬	名護	良	1807		蓋段[二段] 『巻』高さ [0.8cm] 計測No.188
63		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	10.9 13.7 25.4		[内面　消された銘書]道光／(十五？)年／乙未／七月／十八日／三男／名親／思之子／(真？)／□□／(徒？)骨[ふち　消されていない銘書]道光二十三年癸(卯)・・・月十四日号殺安岡□□年□□十日撰日徒骨次男名親思之子娘左思(戸？)	(馬)	名護	(良)	1835		蓋段[一段] 『巻』高さ [0.3cm] 計測No.189
64		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	8.2 13.9 27.0		[内面]十三歳・・・・□親思之子親雲上良竹長男馬好春□名親思之子良□光緒十六年庚寅正月廿三日死全十・・・月二十一日徒骨興人宮廟娘光緒十九年癸巳十二月二十日死全甘一年乙未九月十七日徒・・・	馬	名護	良	1890、1893	1895	蓋段[二段] 『巻』高さ [0.1cm] 計測No.195
65		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	－ － 30.0		[内面]・・・(男？)名親思之子親雲上良・・・／・・・・・光緒・・・・・・	(馬)	名護	良			『巻』高さ [0.1cm] 計測No.199
66		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	9.5 － 31.0		[内面]名親思之子親雲上／□□・・・(道)光五年乙酉／□□□日大道号／年丁亥十□三日／徒骨大道□／娘子名□□子／娘子松金道光／七年丁亥六月五日死／岡十二月十三日徒骨	(馬)	名護	(良)	1825、1827	1827、1832	蓋段[一段] 『巻』高さ [0.1cm] 計測No.190
67		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	－ － 27.0		[ふち　消された銘書]□□□□□□□号□泉岡・・・・□思之子童名真富・・・／[内面　消された銘書]泉朝／・・・□／・・・□女[ふち　消されていない銘書]相嶽□□□向□六人一所二宮嶽天・・・						『巻』高さ [0.4cm] 計測No.202
68		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	8.8 16.5 29.0		[内面]・・・□方二於子事祝尊真富□・・・□(次男？)／□十月□・・・・・参						蓋段[二段] 『巻』高さ [0.2cm] 計測No.198
69		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	8.3 12.0 23.0		[内面]十二歳名親／思之子親雲上／良竹五女／真□・・／美・・・・／嶽四月十七日／死岡(十六)年／寅正月／八廿？)四日徒骨／全人絲思戸／合修久	(馬)	名護	良			蓋段[一段] 『巻』高さ [0.3cm] 計測No.192
70		第31号墓	墓室	蓋	陶製有無豊形(ジーシガーミ)	Vb	－ － 30.0		[外面]・・・十二歳名親／・・・(竹？)／・・・上次男真面戸／・・・□真三真／[ふち　消された銘書]成豊六年・・・[不鮮明]・・・・□年己巳十一月二十六日徒骨成豊九年甲未十二月十四日(壬？)十二歳良智長女真鶴(岡)治八年己巳年(十？)月／二十六日徒骨□□□□□□□□六年(寅？)□□□・・・□／[内面　消された小さな文字]・・・名親／・・・□娘思上／・・(光？)緒／・・・T且／・・・□□／・・□□／・・・□／[内面　消されていないかさな文字]・・・鬼／明治四十三	(馬)	名護	良	(1855～1867) 1910	1869、1912	『巻』高さ [0.1cm] 計測No.194

※70は次ページへつづく

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

通番	神図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身蓋	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備　考
									年十一月十日卒／仝四十五年六月二日洗骨／…（名）護良（竹？）母仁慰／…口年乙未九月十六日卒又／…年丁酉五月廿六日洗骨／…男　藤門／…口（孫？）眞三良（獣）四人合葬／大正四年旧四月九日口墓／合葬						
71		第31号墓	墓室	蓋	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	Vc	9.0 15.2 28.0		[外面]……竹ノ娘／六……／口…／ [内面　消された銘書]十二食…口…永口…四十口年十一月十日卒……明治……洗骨 [内面　消ていない銘書]明治四十五年六月…号…心大正四年旧四月五日撰日洗(骨)…／口氏十二食良竹次女	(馬)	(名護)	良		1915	裏段[二段]「き」なし 計測No.196
72		第31号墓	墓室	蓋	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	Vc	11.5 13.5 29.0		[内面]名(護)…昭和(拾？)…／口／口／旧九月拾壱日洗(骨)	(馬)	(名護)	(良)			裏段[三段]「き」なし 計測No.197
73		第31号墓	墓室	蓋	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	Vc	5.8 9.0 22.0		[内面]昭和拾七年弐月弐拾参日辛酉日大葬良恒長男良嶽	(馬)	(名護)	良	1942		裏段[二段]「き」なし 計測No.191
74		第31号墓	墓室	蓋	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	Vc	－ － 28.0		[内面]…口五(月？)…(死去？)／…年十一月十日…						「き」なし 計測No.201
75		第31号墓	墓室	身	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	V4	30.0 － 23.0		次男名護里之嫡女恵武／太逝光二十三年癸卯六月十／四日母絣安同廿五年乙巳七月／十日撰日洗骨	(馬)	名護	(良)	1843	1845	窓底[0.5cm] 計測No.208
76		第31号墓	墓室	身	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	V4	28.0 51.3 21.5		馬延花／(馬？)心常東恒士／良長	馬	(名護)	良			中型 窓底[0.5cm] 底孔4 計測No.209
77		第31号墓	墓室	身	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	V4	28.0 － 24.0		[外面]…□□□[内面]名護(筑豊之一助字で書かれる)親雲上／妻	(馬)	名護	(良)			窓底[0.4cm] 底孔4 計測No.207
78		第31号墓	墓室	身	陶製有頭 壺形(ジーシガーミ)	V5	－ － 20.0		[正面]六代十二世□…／光緒廿一年□来…／…酉(五？)月…洗骨				(1895)		窓底[0.3cm] 三脚 計測No.210
79		第32号墓	墓底埋土	蓋	陶製無頭 壺形(ボージャージーシ)	III	－ － 31.0		[内面]馬氏名護…／豊／祝隆(武？)……洗…／口子破口乃口…／　土口……／岡……	馬	名護	(良)			計測No.204
80		第33号墓	墓底埋土	蓋	陶製無頭 壺形(ボージャージーシ)	III	－ － －		[内面]…豊…／…松村…						計測No.173
81		第33号墓	墓底埋土	蓋	陶製無頭 壺形(ボージャージーシ)	III	－ － 32.0		[内面]…御正(月？)……／…口口…						計測No.174
82		第33号墓	墓底埋土	身	陶製小型 筒形(施釉) 火葬骨器		9.8 14.0 7.8		[正面]6代夫婦／銘苗						計測No.175-A
83		第33号墓	墓底埋土	身	陶製小型 筒形(施釉) 火葬骨器		9.9 13.6 7.5		[正面]7代夫婦／銘苗						計測No.175-B
84		第33号墓	墓底埋土	身	陶製小型 筒形(施釉) 火葬骨器		9.8 14.0 7.3		[正面]8代夫婦／銘苗						計測No.175-C
85		第33号墓	墓底埋土	身	陶製小型 筒形(施釉) 火葬骨器		9.8 14.4 7.4		[正面]9代夫婦／銘苗						計測No.175-D
86		第35号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頭 壺形(ボージャージーシ)	IIIa	8.5 14.0 32.0		[内面]有銘親雲上…		有銘				つまみa 蓋段[一段] 線刻文 計測No.68
87		第35号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頭 壺形(ボージャージーシ)	IIIa	9.0 － 29.0		[内面]中宗根親雲…／口…		(仲)宗根				つまみa 蓋段[一段] 線刻文 計測No.71

法量　a：上部径　b：腿高　c：下部径（cm）

遺番	挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身量	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
88		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIa	7.0 11.5 30.0		[内面]…乾隆……四日次男有銘……		有銘				つまみa 蓋段[一段] 銀彫文 計測No.70
89		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIa	8.2 12.0 30.4		[内面]大清乾隆二十七年午二月十二日□有銘筑(→筑登之→聡？)親雲上		有銘		(1762)		つまみa 蓋段[一段] 銀彫文 計測No.65
90		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIa	8.4 14.2 30.0		[内面]□有銘筑…／女子…／平田里之子…		有銘				つまみa 蓋段[一段] 銀彫文 計測No.74
91		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIb	－ 9.5 32.0		[内面]乾(隆)□□九年甲申八月二十…實…／同五十五年庚(戌)□月二十三日同人□夜□				(1764)	1790	つまみb 蓋段なし 計測No.69
92		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIb	－ 9.5 31.0		[内面]乾隆…年庚辰…二十二日實入□有銘筑登之親雲上實洗骨		有銘			(1760)	つまみb 蓋段なし 計測No.73
93		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIb	－ 11.0 32.0		[内面]…□……四月井同人實洗骨						つまみb 蓋段なし 計測No.72
94		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	III	8.0 － 30.0	97	[内面](大清？)康熙四拾年辛巳二月十一日／有銘筑登之…		有銘		(1701)		線彫文 計測No.66
95		第35号墓	墓室フク土	歯	陶製無釉壺形(ボージャージー)	III	－ － 31.0		[内面]……同筑登之親雲上…						櫛目文 計測No.67
96		第35号墓	墓室フク土	身	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIi	31.0 46.5 20.5		[後面]有銘親雲上		有銘				窓底[1.7cm] ②-1 計測No.63
97		第35号墓	墓室フク土	身	陶製無釉壺形(ボージャージー)	IIIi	25.0 49.0 20.0	94	[正面]大清康熙四十年辛巳二月十一日死去／有銘親雲上／孫子／玉□□親雲上		有銘		1701	(1703 ～1715)	窓底[1.5cm] ②-1 線彫文 計測No.64
98		第35号墓	フク土	歯	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	Vc	8.5 9.5 22.0		[ふち]…□…… [内面]…亀葉病男……						蓋段[一段] 「き」なし 計測No.80
99		第35号墓	フク土	歯	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	Vc	7.0 6.9 19.0		[内面]…(不鮮明)…／旧十月……						蓋段[一段] 「き」なし 計測No.78
100		第35号墓	フク土	歯	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	Vc	－ － 22.0		[ふち]□…／ [内面]…□月…／…トミ子…						蓋段[一段] 「き」なし 計測No.81
101		第35号墓	フク土	歯	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	Vc	－ － 20.0		[内面]…十年□□……						「き」なし 計測No.82
102		第35号墓	(奥タナ左)	身	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	V4	30.0 54.0 25.0		[右側面]嘉慶八年発表／實無病子有銘筑登(之)親雲上／(雪？)……(門？) [後面]嘉慶八年八月七日／同人病子有(銘？) [ふち]□年□□(四？)月□日洗骨同人宝		有銘				中型 影青 (0.7cm) 計測No.76
103		第35号墓	フク土	身	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	V5	26.0 － 16.0		[内頸部]春子						計測No.79
104		第35号墓	フク土	身	陶製有釉壺形(ジーシガーミ)	V5	－ － －		[内頸部]昭和三年……子						計測No.83

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

連番	挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　書	氏	家	名	名乗頭	西暦	暦	西暦	暦	備　考
105		第35号墓	墓室フク土	蓋	陶製有蓋 壺形(ジーシガーミ)	Va	－ － 32.0		[ふち]…□延七月十日…/同人室… [内面]嘉魔…□子…/…雪…/…有…									「き」高さ確認(0.5cm以上)(※残存部より) 計側No.77
106		第36号墓	墓室 (奥タナ左)	蓋	陶製変形 (ウドゥンジーシ)	Ⅱb (c)	－ － －		[内面]道光十七年丁酉二月十五日洗骨□□□勢理客筑登之/…□八年己巳八月廿二日			勢理客				1837		計側No.179
107		第36号墓	墓室フク土	身	陶製変形 (ウドゥンジーシ)	Ⅱ	－ － －		[正面]…(嚴?)□年…									焼縁(マンガン彩色) 計側No.180
108		第36号墓	埋土	蓋	陶製無釉 壺形(ボージャージーシ)	Ⅲ	－ － 24.0		[内面]乾隆拾□…/六月十日□□…/鎖子安太□(筑登之一郎字で書かれる)…/乾隆(拾?)九(年)…/乙亥□□…/□…									計側No.184
109		第36号墓	墓室 (奥タナ左)	蓋	陶製有釉 壺形(ジーシガーミ)	Vc	－ － 17.0		[内面](喝?)……(骨?)									「き」なし 計側No.187
110		第36号墓	墓室 (奥タナ左)	身	陶製小壺 (泡盛)		15.0 － －		[ふち]昭和十八年四月十□…良加二十□…									計側No.183
111	第28図2 PL.23の2	第37号墓	墓室蔵骨器 No.3	身	石製変形 (イシジーシ)	Ⅰ	50.6 48.2 46.6		[正面]大清康熙五十九年/黄子九月十七日/□□□(筑登之親雲上家)/三男□□筑登之親雲上三男金(城水)也□□/□□洗骨ス								(1720)	計側No.27
112		第37号墓	墓室 (右タナ)	蓋	陶製無釉 壺形(ボージャージーシ)	Ⅲb	－ 12.5 30.5	113	[内面]乾隆三十一年丙戌八月□□□(骨?)骨(より→略字で書かれる)□□□

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

連番	挿図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身蓋	名称又は板葬	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　　書	氏	家名	名字・諱	西暦 死去年	西暦 洗骨年	備　考
					豊郡(ジーシガーミ)		14.3 26.5		日洗骨／……鑑妙徳神女						「き」高さ[0.7cm] ※内面にすっぷの墨書有(家紋？) 計測No.60
123		第38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頭 豊郡(ボージージーシ)	Ⅲ	～ ～ 24.0		[内面]□□□／…(没)寛六月／…□						計測No.109
124		第38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製無頭 豊郡(ボージージーシ)	Ⅲb	～ 12.3 30.0		[内面]乾隆二十／三年…／六月□／五／安次富親雲上／長治室玄／ム妙三	(明)	安次富	長	1758	(1760 ～1772)	つまみb 計測No.111
125		第38号墓	墓庭理土	蓋	陶製無頭 豊郡(ボージージーシ)	Ⅲb	～ 6.4 23.0		[内面]…□□／…□亥七月七日洗／…真□子□□／…月(甘二日)生□洗／…□□□□□□(同人)／…(没)真嘉						つまみb 計測No.108
126		第38号墓	墓庭理土	蓋	陶製無頭 豊郡(ボージージーシ)	Ⅲ	～ ～ 27.0		[内面]…生戌／…□／…□						計測No.110
127		第38号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭 豊郡(ジーシガーミ)	Va	17.0 17.2 32.0		[内面]嘉慶二…□□□親雲上(長？)…亥七月二拾日(没)骨						裏段[二段] 「き」高さ[0.5cm] 計測No.113
128		第38号墓	墓庭理土	蓋	陶製有頭 豊郡(ジーシガーミ)	Va	16.0 ～ 32.0		[内面]･稚五……･･･

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

連番	掃部番号 図版番号	墓番号	出土地点	名称又は仮称	身蓋	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　　書	氏	家　名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備　考
			No.3	(ウドォンジーシ)			45.0 37.5								底孔5 施釉 計側No.221
142		第43号墓	墓室蔵骨器 No.6	陶製家形 (ウドォンジーシ)	身	Ⅱ	49.0 45.0 42.0		[正面]六代津嘉山(里之子→略字で書かれる)親盛上／同人室 [ふち]幼少一人	(向)	津嘉山	(朝)			窓底[3.3cm] 底孔6 施釉 計側No.31
143		第43号墓	墓室蔵骨器 No.8	陶製家形 (ウドォンジーシ)	身	Ⅱ	50.0 44.5 41.5		[正面]二代津嘉山親･･／同人室嫡子津嘉山里之／子親盛上夫男思亀	(向)	津嘉山	(朝)			窓底[3.2cm] 底孔9 施釉 計側No.33
144		第43号墓	墓室蔵骨器 No.4	陶製家形 (ウドォンジーシ)	身	Ⅱ	50.5 － －		[正面]三代津嘉山親□□／次男稱金／同人室	(向)	津嘉山	(朝)			窓底[3.2cm] 施釉 計側No.35
145		第43号墓	墓室蔵骨器 No.22	陶製家形 (ウドォンジーシ)	身	Ⅱ	41.8 40.0 34.5		[正面]四代津嘉山親方／同人室／ [ふち]六代津嘉山里之子親盛上女子眞嘉戸	(向)	津嘉山	(朝)			窓底[3.0cm] 施釉 計側No.37
146		第43号墓	墓室蔵骨器 No.34	陶製無銘 壺形(ボージャージーシ)	蓋	Ⅲb	－ 10.2 32.5	147	[内面]乾隆十(そばに「三十」と書かれる)三年改寅五月十五日／洗骨／津嘉山親方／母親／五代嫡子津嘉山(里之子→略字で書かれる)親盛上女子／(眞 嘉?)／道光十三年癸巳五月二十／九日四代津嘉山親盛上女子松金洗骨	(向)	津嘉山	(朝)	(1744～1756) (1819～1831)	1758、1833	つまみ0 計側No.18
147		第43号墓	墓室埋土	陶製無銘 壺形(ボージャージーシ)	身	Ⅲ2	32.0 58.0 22.0	146	[正面]乾隆十八癸酉年八月六日卒／……親／鄭心(泉?)徳大嫡／同二十三年戊寅五月十五日洗骨／同五十五庚戌八月四日己酉／□□(親方?)□原女子／眞嘉／……十五日洗骨／……／……／……親…				1753	1758、(1790)	窯印有「χ」 窓底[1.0cm] ②-2 計側No.5
148		第43号墓	墓室蔵骨器 No.35	陶製無銘 壺形(ボージャージーシ)	蓋	Ⅲc	9.5 9.2 14.5		[内面]乾隆四拾九年･････						窯痕なし 計側No.12
149		第43号墓	埋土	陶製無銘 壺形(ボージャージーシ)	蓋	Ⅲc	－ － 22.0		[内面]･･･光六年丙□六□□･････						計側No.30
150	第30側5 PL.25-05	第43号墓	墓室蔵骨器 No.30	陶製無銘 壺形(ボージャージーシ)	身	Ⅲ1	28.0 45.0 22.0		[正面](乾隆)･･･(九)日／洗骨ヂ□□／三代□･･･□／津嘉山□･･･ [後面]乾隆(拾九年)･････／洗骨□	(向)	津嘉山	(朝)		(1754)	窯印有 窓底[0.6cm] ②-2 底孔7 計側No.9
151	第30側6 PL.25-06	第43号墓	墓室蔵骨器 No.16	陶製無銘 壺形(ボージャージーシ)	身	Ⅲ3	20.4 37.2 18.2		[後面　消された銘書]乾隆三年戊/乾隆四年(→拾宋干支)三年戊戌四月廿日死／同四拾六年辛丑十月廿六日洗骨 [後面　消されていない銘書]幼少女子眞加戸 [右側面]四世□元鱗次女／思戸／妻□□□ [左側面]乾隆四拾二年丁酉十月廿六日死／同四拾六年辛丑十月廿六日洗骨／元鱗女思戸				1777	1781	窯印有[○] 窓底[0.6cm] ②-1 底孔6 計側No.1
152		第43号墓	墓室蔵骨器 No.24	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Va	5.1 12.0 21.1		[内面]道光□□酉□八□女□□(鱗?)子□□次男山戸／五代津嘉山親盛上嫡子津嘉山(マカト?)	(向)	津嘉山	(朝)			蓋段[一段] 「杏」高さ [0.5cm] 計側No.16
153		第43号墓	墓室蔵骨器 No.39	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Va	6.7 9.4 20.0		[内面]嘉慶十五年庚午九月九日洗骨五代津嘉山親盛上女子真嘉□／道光十三年巳五代津嘉山親方嫡子津嘉山親盛上四男思加那洗骨台□	(向)	津嘉山	(朝)	(1796～1808)(1819～1831)	1810、1833	蓋段[一段] 「杏」高さ [0.6cm] 計側No.11
154	第31側1 PL.26-01	第43号墓	墓室蔵骨器 No.18	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Vb	6.0 9.8 22.0	155	[内面]六代津嘉山親盛上朝功次男稱金岡拾五年丙寅五月廿九日洗骨	(向)	津嘉山	朝	(1852～1864)	1866	蓋段[一段] 「杏」高さ [0.1cm] 計側No.14
155	第31側2 PL.26-02	第43号墓	墓室蔵骨器 No.17	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	身	Ⅴ5	22.0 42.0 17.0	154	[ふち]津嘉山親盛上朝功次男／稱金	(向)	津嘉山	朝			小型1 窓底[0.6cm] 底孔9 計側No.7
156		第43号墓	墓室蔵骨器 No.33	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Vc	5.6 10.3 28.0	157	[内面]昭和九年○□七日十八日死亡／当四十七歳／昭和二十年二月三日洗骨				1934	1945	蓋段[二段] 「杏」なし [0.1cm] 計側No.17
157		第43号墓	墓室蔵骨器 No.5	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Ⅴ5	27.0 52.8 19.0	156	昭和二十年□二月○□吉日／洗骨／津嘉山(山)朝度嘉／マカト	(向)	津嘉山(山)	朝	(1931～1943)	1945	中型 窓底[0.5cm] 底孔12 計側No.10
158		第43号墓	墓室蔵骨器 No.31	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Vb	8.0 15.9 30.0		[内面]元□･･･／律･････	(向)	津(嘉山)	(朝)			蓋段[二段] 「杏」高さ [0.1cm] 計側No.20
159		第43号墓	墓室蔵骨器 No.42	陶製有無 壺形(ジーシガーミ)	蓋	Vb	7.6 18.1 33.0		[内面]五代津嘉山親方妹岡拾五年丙寅六月廿九日洗骨／○□	(向)	津嘉山	(朝)	(1852～1864)	1866	蓋段[三段] 「杏」高さ [0.1cm] 計側No.19

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

通番	掛図番号 国版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　　書	氏	家名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備　考
160		第43号墓	墓室蔵骨器 No.44	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vb	12.3 14.5 27.4		[内面]向廷憲朝口君銘子／津嘉山子玉骨	向	津嘉山	(朝)			囲段[三段] 『き』高さ[0.1cm] 計側No.44
161		第43号墓	墓室蔵骨器 No.45	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vb	7.6 15.3 30.0		[内面]幼少一人						囲段[二段] 『き』高さ[0.1cm] 計側No.13
162		第43号墓	墓室埋土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vb	5.7 11.9 23.0		[内面]　道光十三年癸巳十一月天亡五代津嘉山親方鎖子津嘉山(親雲上？)男子禍／鎖十四年甲午口二月同人女子亀鶴一五年乙未二月同人女子真口	(向)	津嘉山	(朝)	1833		囲段[一段] 『き』高さ[0.3cm] 計側No.24
163		第43号墓	墓室埋土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vb	8.2 11.4 24.0		[内面]二男津嘉山……／……之玉骨左之吉日(朋？)廷流骨大正六年丁巳三月口八日卯二月二十五日晦れの日也 [ふち]□□嗣法之二男…□金之銘子	(向)	津嘉山	朝		1917	囲段[一段] 『き』高さ[0.1cm] 計側No.45
164		第43号墓	墓室埋土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vb	5.7 8.7 21.0		[ふち]□□廷□鎖子真蘭戸六歳光緒(五？)年己卯十一月十三日死同九年癸未七月四日洗骨 [内面]真蘭戸／五骨十一月／十三日死死				1879	1883	囲段なし 『き』高さ[0.2cm] 計側No.23
165		第43号墓	埋土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vb	－ － 27.0		[内面]……□□盛樂						『き』高さ[0.2cm] 計側No.29
166		第43号墓	墓室蔵骨器 No.27	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vc	5.7 19.4 19.4		[内面]向廷憲三男津嘉山子嫡化次女思武大光緒九年癸未五月十九日死亡女□□□七月十八日洗骨／全人三女真牛行年六全十五年己酉□月四日死亡洗骨年月日全上	向	津嘉山	朝	1883、1889	1889、(1891～1903)	『き』なし 計側No.15
167		第43号墓	墓室蔵骨器 No.41	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vc	－ － 29.0		[内面]昭和二年旦／…廿七日…						囲段[二段] 『き』なし 計側No.21
168		第43号墓	墓室蔵骨器 No.43	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Vc	5.1 6.1 18.0		[内面]津嘉山朝慶／四女敬子／昭和□□／巳丙月廿日／死亡／昭和九年／廿七日十九日／洗骨	(向)	津嘉山	朝	(1926～1932)	1934	囲段なし 『き』なし 計側No.22
169		第43号墓	墓室蔵骨器 No.14	身	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	V5	25.0 46.0 17.0		[正面](向？)□□□鎖子真(鶴？)	(向)					中型、三層 窓底[0.4cm] 底孔6 計側No.6
170		第43号墓	墓室蔵骨器 No.25	身	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	V	19.4 39.5 17.5		[正面]五代／□□(※赤文字で書かれる)						小型1 窓底[0.7cm] 底孔5 計側No.222
171	第31図3 PL.26-03	第43号墓	墓室蔵骨器 No.28	蓋	陶製軒付壺 形（ジーガーミ）	Va	11.1 17.7 31.8	172	[内面]□□津嘉山(黒之子一鶴字で書かれる)親雲上向徳信女子慈亀／鎖子津嘉山(黒之子一鶴字で書かれる)親雲上向徳信女子武樽金成豊拾年申十一月十四日洗骨	向	津嘉山	(朝)	(1846～1858)	1860	囲段[二段] 『き』高さ[0.3cm] 計側No.26
172	第31図4 PL.26-04	第43号墓	墓室蔵骨器 No.9	身	陶製軒付壺 形（ジーガーミ）	VI 1	30.6 64.8 23.4	171	[内側面]鎖子津嘉山(黒之子一鶴字で書かれる)親雲上向徳信女子武樽金成豊拾(年申)十一月十四日(洗骨)	向	津嘉山	(朝)	(1846～1858)	1860	窓底[0.6cm] 底孔14 計側No.25
173		第44号墓	墓室フク土	蓋	陶製無頭壺 形（ボーキャー・ジーガーミ）	IIc	10.0 10.5 46.0		[内面]…年□子八月八日大男□…／…藏洗骨						計側No.119
174		第44号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Va	－ － 36.0		[内面]…□屈仁…／嘉…□…／嘉龍二十…洗骨…□□　□□					(1815～1821)	『き』高さ[0.7cm] 計側No.117
175		第44号墓	墓室フク土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	Va	10.3 － 24.0		[内面]□□□□(※)…						囲段[一段] 『き』高さ[0.5cm] 計側No.115
176		第44号墓	墓縦フク土	蓋	陶製有頭壺 形（ジーガーミ）	V	－ － －		[内面]…□□廿九月□…						計側No.118
177		第44号墓	墓縦フク土	蓋	陶製軒付壺 形（ジーガーミ）	VI	－ － 33.0		[内面]……(骨？)						『き』高さ[0.6cm] 計側No.116
178		第46号墓	墓埋土	蓋	陶製家形（ウドゥンジーシ）	IIb (d)	－ － －		[内面]…年己酉／…眞人井						計側No.100

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

通番	神保番号 図版番号	墓番号	出土地点	身・蓋	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘　書	氏	家名	名乗頃	西暦 死去年	西暦 洗骨年	備　考
179	第30図1 PL.25:01	第46号墓	墓口フク土	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲa	10.0 ～ 37.0		[内面]姉文□						墓名墨 つまみa 蓋段[一段] 「き」高さ [3.5cm] 資料No.103
180		第46号墓	墓口フク土	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲb	8.1 8.9 30.0	181	[内面]安次富観雲上／(長)昌家乾隆／戊始年乙亥／八月十八日洗骨	(明)	安次富	(長)	(1741～1753)	1755	つまみb 蓋段[一段] 資料No.89
181		第46号墓	墓室	身	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ1	27.0 50.0 21.0	180	[正面]安次富観雲上長昌／(後)□乾隆戊始年／乙亥八月十(八)日／(洗)骨	(明)	安次富	長	(1741～1753)	1755	窓底[1.0cm] ③-2 底孔6 窯印有 資料No.122
182		第46号墓	墓室	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲb	7.5 ～ 32.0		[内面]康熙五十三年／甲午十二／月廿五日／□…／家屋武筑雲上／女子□□／康熙□□□／年九月…／洗骨		喜屋武		(1714)	(1716～1723)	つまみb 蓋段[一段] 櫛描文 資料No.91
183		第46号墓	墓室	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲb	～ 12.0 32.0		[内面]乾隆拾九年甲戌九(月)□日／□□□…子／□□□…						つまみb 櫛描文(波状櫛線) 資料No.90
184		第46号墓	墓室	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲc	10.4 10.6 32.0		[内面]《消された銘書》 乾隆(三拾五年庚寅)…年丁酉…姉子…□…□□…長兆(正月十五日)九月十七日洗骨(長兆)妹子長□長洗骨妻□□……			長			蓋段[一段] 資料No.86
185		第46号墓	墓室	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ	～ ～ 32.0		[内面]乾隆□□……□洗骨					1736～1796	資料No.87
186		第46号墓	墓室蔵骨器 No.6C	蓋	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ	～ ～ 34.0		[内面](乾隆?)拾七年壬申正月……妻						資料No.88
187		第46号墓	墓室	身	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ1	26.0 49.0 22.0		[正面]乾隆二十三年戊寅(→寅年年号)／□六月五日死(去?)／安次富観雲上…／長□康□…	(明)	安次富	長		(1760～1772)	窓底[0.5cm] ③-1 資料No.124
188		第46号墓	墓室	身	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ1	27.0 48.0 23.0		[正面]大清乾隆四拾貳年／…□□□九日洗骨／…(安)次富観雲(上)／…		(安)次富		(1763～1775)	1777	窓底[0.6cm] ③-1 底孔5 窯印有「＋」 資料No.125
189		第46号墓	墓室	身	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ1	15.0 52.8 22.0		[正面]乾隆四拾二年□／九月□□日姉子安次富／□…□長□□□／□…□□□	(明)	安次富	長			窓底[1.0cm] ③-1 底孔4 資料No.121
190		第46号墓	墓室	身	陶製無釉 壺形(ポージャージーシ)	Ⅲ3	21.0 34.0 17.5		[正面]…不鮮明…／□□…不鮮明…／□□十月□日□□□□／□…不鮮明…						窓底[1.0cm] ③-1 底孔5 窯印有「七」 資料No.123
191		第46号墓	墓室	蓋	陶製有釉 壺形(ジーシガーミ)	Va	9.1 16.6 27.0		[内面]……次富真茂之長…／□…	(明)	(安)次富	長			蓋段[一段] 「き」高さ [0.6cm] 資料No.98
192		第46号墓	墓室	蓋	陶製有釉 壺形(ジーシガーミ)	Va	～ ～ 26.0		[内面]…□二十二年壬辰七月□…						「き」高さ [0.6cm] 資料No.96
193		第46号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有釉 壺形(ジーシガーミ)	Vb	～ ～ 30.0	194	[ふち]道光廿二年壬寅十二月…… [内面]…長吉／……廿五日死長…			長	(1842)		「き」高さ [1.0cm] 資料No.99
194		第46号墓	墓室	身	陶製有釉 壺形(ジーシガーミ)	V5	32.0 63.3 23.5	193	[内壁部]…(吉)　道光二(→二十二年干支)年壬寅(→壬午年年号)十二月廿五日死長吉富			長			大型 窯底 [0.4cm] 資料No.127
195		第46号墓	墓口フク土	蓋	陶製無釉 壺形(ジーシガーミ)	Vb	～ ～ 26.0		[内面]……仰三月十(三?)日□…(親?)原…不鮮明		(親?)原				「き」高さ [0.1cm] 資料No.97

法量　a：上部径　b：器高　c：下部径（cm）

通番	神図番号 図版番号	墓番号	出土地点	身/蓋	名称又は仮称	形式分類	法量 a b c	対No.	銘書	氏	東名	名乗頭	西暦死去年	西暦洗骨年	備考
196		第46号墓	墓室	蓋	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Vb	8.1 10.0 21.0		[内面]同治(二年)癸亥…/棚原里之子□□/棚原樽□		棚原				裏段「一段」「き」高さ[0.3cm] 計測No.92
197		第46号墓	墓室	蓋	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Vb	10.5 15.8 27.0		[内面]道光十二年壬辰十月廿八日死去/嫡子安次富筑登之親雲上長幹雲同十七年丁酉八月廿八日洗骨/道光十八年戊戌七月十日□安次富筑登之親雲上(長？)幹姉洗骨/真嘉□	(明)	安次富	長	1832	1837, 1838	裏段「一段」「き」高さ[0.4cm] 計測No.93
198		第46号墓	墓室	蓋	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Vb	– – 34.0		[内面]……/登之親雲上長幹洗骨□……			長			裏段「三段」「き」高さ[0.4cm] 計測No.95
199		第46号墓	墓庭フク土	蓋	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Vb	– – 30.0		[内面]…三男新□(棚原？)		(棚原？)				裏段「一段」「き」高さ[0.3cm] 計測No.94
200		第46号墓	墓室	蓋	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	Va	14.0 – 30.0		[内面]…二十六年……洗骨…						裏段「三段」「き」高さ[0.5cm] 計測No.120
201		第46号墓	墓室	身	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	V4	30.5 60.0 24.0		[正面]大清乾隆五十六年/辛亥十一月二十日洗骨/嫡子安次富筑登之/親雲上長花妻	(明)	安次富	長	(1777～1789)	1791	大型 窓荒[1.0cm] 計測No.102
202		第46号墓	墓室	身	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	V5	30.0 – –		[正面]時□□……/長保			長			胴底 窓荒[0.5cm] 計測No.105
203		第46号墓	墓室	身	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	V5	– 65.0 25.0		長幹			長			大型 窓荒[0.6cm] 計測No.104
204		第46号墓	墓室歳骨器No.10	身	陶製有頭壺形(ジーシガーミ)	V5	27.0 54.4 22.0		[内胴部]…□□年正□□□日卯酉十二□□日…						中型 窓荒[0.3cm] 底孔16 計測No.101
205		第49号墓	墓庭埋土	蓋	陶製小型筒形(泡盛)		– – 18.0		[内面]神年百□…						計測No.216
206		第49号墓	墓庭埋土	身	陶製小型筒形(泡盛)		16.0 25.3 16.0		[正面]歇高良…シ		高良				窓荒[0.5cm] 底孔なし 計測No.215
207		第50号墓		蓋	陶製無頭壺形(ボージャーグーシ)	IIIc	11.0 9.8 32.0		[内面]…年己未八月二十日洗…/…六男□□□□□□…						計測No.214
208		第50号墓		身	陶製家形(ウドゥンジーシ)	II	48.5 46.5 33.0		[ふち]□□小第一代目比嘉仁王		比嘉				施釉 窓荒[0.5cm] 底孔2 計測No.218

第２節　中国産陶磁器

A　青磁

第７表に示したとおり、破片で５点得られた。器種の分かるものとして、碗・香炉などの２器種が確認された。実測で表現できるものは数少なかった。以下、碗より略述する。

碗の高台（第32図１　ＰＬ.27の１）

１は低平な竹節高台で、見込みに蛇ノ目釉剥ぎを施したものである。釉薬は濃い緑褐色を呈し、畳付けから外底面は露胎にしている。素地は灰褐色の粉粒子で、底径7.3cmを計る。第46号墓庭フク土より出土。全体に粗製の碗である。

香炉（第32図２　ＰＬ.27の２）

口径10.2cmを計る袴腰の香炉である。釉調が暗灰褐色を呈し、全体に火熱（2次焼成）を受けたものと思われる。素地は灰褐色の微粒子で、貫入が顕著に見られる。第35号墓室フク土より出土。

B　青花

第７表に示したとおり、破片で19点得られた。器種の分かるものとして、碗・皿・水注・杯などの５器種が確認された。実測で表現できるものは数少なかった。以下、碗より略述する。

碗（第32図3・4　ＰＬ.27の３・４）

２点とも高台脇に稜をつくる碗で、３が抽象的な文様で、４は印版手のものである。釉薬は付け掛けによるが、見込みは蛇ノ目状に施し外底面にも施釉。素地は灰白色の粉粒子で、黒色の粒子が散見できる。３は第33号墓庭フク土、４は第39号墓庭フク土よりそれぞれ出土。

小碗（第32図5　ＰＬ.27の５）

直口の小碗で高台内の抉りが深いものである。釉薬は付け掛けと思われ、高台外より外底面にかけては露胎である。外面に花文（？）的な印版を３ヶ所に施す。素地は白色の微粒子である。第46号墓庭フク土より出土。

皿（第32図6・7　ＰＬ.27の６・７）

２点とも外反皿で、６は内面に草花文、７が外面に宝相華唐草文を描くものである。６は外面に文様が僅かに観察されるが、判然としない。また、腰部付近で削り痕が観察される。素地は灰白色の微粒子で、第７・８号墓間より出土。７は破片のため内面の文様は不明。畳付けとその内側は露胎。素地は淡い灰白色の微粒子である。第35号墓フク土より出土。

水注（第32図8　ＰＬ.27の８）

注口と把手が欠損しているが、全形の窺える資料である。脚台より楕円気味の胴部に至り、肩部より外反させ、口部を立ち上げるものである。文様は呉須を用いて、全体を圏線により区分し、その間に芭蕉・草花文・三角文＋丸文を描き、脚台には草花文を描いている。胴部は縦位に陰刻し釉薬の厚みによって文様を巡らしている。釉薬は総掛けであるが、畳付けとその内側は露胎である。第37号墓室（右タナ）より出土。

小杯（第32図９　ＰＬ.27の９）

腰部がやや腰折れ気味の小杯である。見込み内面に抽象的な文様を描き、外面は高台脇に圏線を巡らす。畳付けは平坦で、畳付けから底面は露胎である。素地は灰白色の微粒子である。第44号墓庭フク土より出土。

Ｃ　瑠璃釉（第32図10　ＰＬ.27の10）

瑠璃釉の杯が、第38号墓庭埋土より２点出土した。２点とも同型の掛け分けたものでその内の全形を知り得る１点を示した。高台を僅かに上げ底に成形し、高台脇で若干くびれ縁部に直に立ち上げる器形である。口唇部は舌状に成形する。底面と高台脇は露胎で外面瑠璃釉、内面白釉を呈する。口径3.6㎝×器高2.4㎝×底径1.5㎝を計る小杯である。

Ｄ　色絵（第32図11　ＰＬ.27の11）

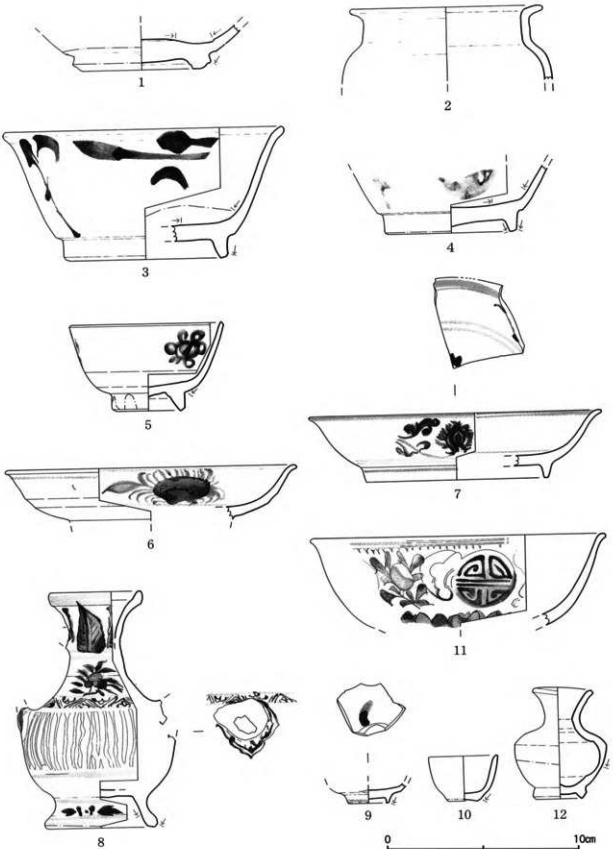
外反碗が１点得られた。２次的に火熱を受けたものと思われ彩色された色絵が変色して見られる。確認できる色は赤・青・黄・茶色の4色である。文様は円寿字文（青・赤）を中心に草花文（黄・茶？）・圏線・蓮華文（赤）等を描く。第43号墓室埋土より出土。

Ｅ　褐釉陶器（第32図12　ＰＬ.27の12）

第７表に示したとおり、破片で３点得られた。その中で、完形に近い小型壺を示した。口縁部をラッパ状に開き、肩部の張る小壺である。底部は高台を作るものである。釉薬を頸部内面より同上位まで施釉する。釉薬の表面は剥落が著しい。素地は粗粒子で焦げ茶色の粒子が散見できる。口径3.2㎝×器高5.9㎝×底径2.8㎝を計る。第46号墓庭フク土より出土。

第７表　中国産陶磁器出土一覧

器種 / 出土地点	白磁	青磁		色絵	瑠璃釉	青花						褐釉陶器		合計
	小皿	香炉	碗	碗	杯	碗	小碗	皿	小杯	水注	瓶	小壺	瓶	
第７･８号墓間								1						1
第17号墓畦根フク土								1						1
第33号墓庭フク土						1								1
第35号墓室フク土		1												1
第35号墓庭フク土						1								1
第35号墓フク土								1						1
第36号墓庭フク土							1							1
第37号墓上表採	1													1
第37号墓室(右タナ)								1		1				2
第38号墓庭埋土					2									2
第39号墓庭フク土						2	1							3
第39号墓庭埋土								1						1
第41号墓庭埋土								1						1
第43号墓室埋土				1									1	2
第44号墓庭フク土									1					1
第45号墓庭フク土						1		1						2
第45号墓上フク土			1											1
第46号墓口フク土													1	1
第46号墓庭フク土			2			1	1				1	1		6
第46墓庭埋土			1											1
合　計	1	1	4	1	2	6	3	7	1	1	1	1	2	31



第32図（ＰＬ.27）中国産陶磁器：青磁（碗１、香炉２）、青花（碗３・４、小碗５、皿６・７、水注8、小杯9）瑠璃釉(杯10)、褐釉陶器（小型壺12）、色絵（外反碗11）

第３節　本土産陶磁器

本土産は第８表に示したとおり298点の出土が見られた。最も多いのが、近代に属する碗・小碗・皿等である。ここでは、肥前系等の資料を中心に報告する。

肥前系

肥前系は第８表に示したとおり破片で15点得られた。器種としては、碗・小碗・小皿・瓶等の４器種が見られた。中でも、瓶類が比較的多く出土した。

瓶（第33図１～５　ＰＬ.28の１～５）

第46号墓口フク土より、瓶が５点得られた。その中より、４点を示した。１・２ともナデ肩器形のもので、胴部に草花文と昆虫（蝶？）を描き腰部と高台脇に圏線を巡らす、ほぼ同形のものである。釉薬は頸部内部から外面に施し、畳付けと頸部内部下は露胎である。興味深いのは、２の資料で見込み脇に青磁片（？）の窯着が見られることである。

３は長頸の瓶で、胴部に圏線と網目文を描くものである。釉薬は頸部内部から外面に施し、畳付けと頸部内部下は露胎である。畳付けに顕著に砂目痕が残る。４は頸部より肩が張り、腰部で一端窪み底面に向かって裾広がりの器形である。文様は肩部～胴部下位にかけて蛸唐草文を主文様に描くものである。釉薬は頸部内部から外面に施し、畳付けは露胎にする。肥前で「瓶子」と呼ばれているものである。５の資料は第44号墓室フク土より出土したもので、ナデ肩器形のものである。膨らんでいる胴部に丸文と網目文、圏線を腰部・高台脇に巡らす。破片のため全体の構図は不明。現況では内面と畳付けは露胎である。

碗（第33図６・７　ＰＬ.28の６・７）

いずれも陶器である。６は青緑釉を内外面に施し、腰部以下は露胎である。見込みに陰刻の圏線を巡らす。素地は灰褐色の粗粒子で、第37号墓室（右タナ）と第38号墓庭フク土より出土。

７も淡い青緑釉が施されたものと思われるが、風化が著しく淡黄土色を呈する。総釉掛けと思われるが、畳付けは露胎である。高台は台形状に深く削りこまれている。素地は灰白色を呈し、細かい粗粒子で、第44号墓庭フク土より出土。

瀬戸・美濃系（第33図８・９　ＰＬ.28の８・９）

８は外面に淡い呉須による松葉文と口縁部と腰部に圏線を描き巡らす小杯である。高台は三角状を呈し、畳付けは露胎である。素地は灰白色の微粒子である。第38号墓庭フク土と埋土より出土。

９は口唇部を呉須で縁取りした輪花の小皿である。内外面に失透釉を施すが、畳付けは露胎。内面には褐釉で抽象的な草花文（菖蒲？）を描く。文様はロウ抜き技法を用いているようである。第24号墓庭埋土より出土。

印判染付（第33図10　ＰＬ.28の10）

印判手による筒形碁笥底の火入れである。口唇部と畳付けは高台より露胎。文様は型紙（呉須）を用いた帯文と蓮弁文とを印判後、さらに銅板による帯文（黄土釉）を施している。第35号墓室フク土より出土。

第8表　本土産陶磁器出土一覧

器種 / 出土地点	肥前系				その他の本土産陶磁器																				
	碗	小碗	小皿	瓶	碗	碗(徳)	小碗	皿	水注(唐)	水注(徳)	瓶	小皿	火入	鉢	小杯	無型花瓶	蓋付筒碗	灰皿	コーヒーカップ	皿(陶器)	置物(お城)	碑子	不明	合計
第1号墓底埋土									1															1
第1号墓腹根埋土					2		3	1	1		1							1						9
第2号墓口埋土									1															1
第1・2号墓埋土							3				1					2								6
第3号墓底埋土							4																	4
第4号墓底埋土							1																	1
第7号墓腹根					1				1															2
第7～10号墓上							1																	1
第10号墓上フク土					1																			1
第11号墓上フク土							1																	1
第13号墓底フク土							4								1									5
第13号墓左坦フク土							1																	1
第13号墓フク土							3																	3
第13号墓屋根フク土							4																	4
第16号墓上フク土								1																1
第16号墓フク土					1		2																	3
第17号墓表採							1																	1
第17号墓屋根フク土								1																1
第18号墓フク土					2															1				3
第20号墓窯								1													1			2
第21号墓窯フク土							1								1									2
第21号墓底フク土							1															1		2
第24号墓底埋土					1		3	1				1												6
第32号墓							1																	1
第33号墓窯埋土					1							1												2
第33号墓底埋土							2	2							2									6
第35号墓窯フク土					7		7						1	1										16
第35号墓口フク土					4		2		1															7
第35号墓底フク土				1			2																	3
第35号墓フク土														1										1
第36号墓窯(奥チナ左)					2		1																	3
第36号墓窯					2		1	1																4
第36号墓埋土					1																			1
第37号墓窯										1														1
第37号墓窯(右タナ)	1						2	2																5
第37号墓窯(左タナ)					1																			1
第37号墓窯(奥重)					9		2	4															4	19
第37号墓豆焼骨器No.5内							1																	1
第37号墓豆焼骨器No.12内							1																	1
第37号墓豆焼骨器No.21内							1																	1
第37号墓窯左坦フク土									1															1
第37号墓上表採							1																	1
第38号墓底フク土		1			4		2		1														1	9
第38号墓底埋土								2							1									3
第38号墓埋土					1		1	1						1										4
第39号墓底埋土					2		3	1																6
第39号墓フク土		1			2	1	6	3						1								1	1	16
第42号墓窯					1		1																	2
第44号墓窯フク土				1																				1
第44号墓口フク土															1									1
第44号墓底フク土	1	1			1	3		2			1	2												13
第44墓埋土				1		1																		3
第45号墓窯埋土						6		8	11	3	1		5			1		1					7	43
第45号墓口フク土						2		4	6		1			1	1	1	1							17
第45号墓底フク土									3															3
第46号墓窯						2																		2
第46号墓口フク土				5																				5
第46号墓底フク土						2		1	1			1			1								1	7
第46号墓埋土						1																		1
第46号墓埋土		1				6		11	4															22
第49号墓底埋土								1	1															2
第51号墓																							1	1
安衛西原表採					1																			1
合　計	2	4	1	8	69	1	97	50	10	3	4	9	1	5	9	3	2	1	1	1	1	1	15	298

第33図（ＰＬ.28）本土産陶磁器：肥前系（瓶１～５、碗６・７）、瀬戸・美濃系
（小杯８、小皿９）、印判染付（火入れ10）

第4節　銭　貨

本古墓群からは17基33地点から、完形、破片を合わせて総数327点の銭貨が得られた。銭種は中世・近世銭が11種、近代銭が2種と多種多様の銭貨が得られている。

最も古いものでは唐代の銭名である開元通寶（621年）や北宋時代の政和通寶（1111年）等が見られるが、これらの銭貨の状態は悪く、背の輪郭もほとんど見られないことから模鋳銭と推定される。

有文銭の中で多かったのが寛永通寶で19点得られた。その内古寛永（1636年）は5点、文銭（1668年）は1点、新寛永（1697年）は11点で、新寛永の中には若干磁気反応を示すものもあった。また第35号墓庭フク土からは新寛永が7枚重なった状態で出土しており、六道銭としての性格が窺える。

今回最も多く検出されたのが無文銭で311点得られた。特に注目されるのが第40号墓室フク土No.3から一括して93枚が出土したことである。1枚以外はすべて同じタイプであり、これらも六道銭との関連が示唆される。

なお無文銭は形や大きさに様々な違いが見られることから、孔の形状の違いによって3種に大別した。

第9表　銭貨出土一覧

※古=古寛永　新=文・新寛永　不=不明

出土地点	中世・近世銭																			近代銭		合計
	開元通寶	祥符通寶	天聖元寶	紹聖元寶	政和通寶	洪武通寶	朝鮮通寶	乾隆通寶	寛永通寶 古	寛永通寶 新	寛永通寶 不	□□元寶	元□通□	判読不明	無文銭 Ⅰ類	無文銭 Ⅱ類	無文銭 Ⅲ類	無文銭 小計	一銭	五銭	
第3号墓庭埋土									1	1											2
第16号墓										1											1
第33号墓庭フク土									1												1
第34号墓庭フク土															3			3			3
第35号墓室フク土						2								3	10			10			15
第35号墓庭フク土										7	1						2	2			10
第36号墓室フク土															2			2			2
第36号墓室埋土															1			1			1
第37号墓室															5	1	28	34			34
第37号墓室(右タナ)																	11	11			11
第37号墓室(左タナ)蔵骨器NO.1内																	2	2			2
第38号墓ロフク土				1											1			1			2
第38号墓庭フク土(集中)	2					1								1	2			2			6
第38号墓庭フク土		1	1		1		1					1	1	2	1			1			9
第38号墓庭埋土										1											1
第39号墓室															4		3	7			7
第39号墓ロフク土															2			2			2
第39号墓庭埋土								1	1	1	1										4
第40号墓室フク土															1		7	8			8
第40号墓室フク土NO.2																1	29	30			30
第40号墓室フク土NO.3															92			92			92
第42号墓室										1											1
第43号墓室蔵骨器NO.7																			1		1
第43号墓埋土						1															1
第44号墓庭フク土									1												1
第44号墓埋土									1						1	1		2			3
第45号墓室フク土															15			15			15
第46号墓室フク土																	32	32			32
第46号墓室銭貨NO.1																	9	9			9
第46号墓室																	4	4			4
第46号墓ロフク土																	13	13			13
第48号墓室埋土																				2	2
安謝西原表採															1	1		2			2
小　計	2	1	1	1	1	4	1	1	5	12	2	1	1	6	141	4	140	285	1	2	327
合　計	2	1	1	1	1	4	1	1			19	1	1	6	141	4	140	285	1	2	327

※数枚が付着して数が確認できない銭貨は1枚として扱った。

Ⅰ類　孔の形が方形をしているもの。外径・孔径・厚さなどの大きさが様々であるため、ここでは外径、孔径の外径に対する割り合いから３つに細分した。

１、外径が2.2㎝以上、孔径が0.5～0.7㎝、厚さも1㎜で、渡来銭とあまり大差がないもの。

２、外径が1.9～2.1㎝、孔径が0.6～0.8㎝、厚さが0.7～１㎜程のもの。Ⅰ－１より一回り小さくなり、孔径も広がる。第40号墓から一括して多数得られた銭貨はこのタイプである。

３、外径が1.9㎝以下で、孔径が0.7～0.9㎝と孔径の外径に対する割合が大きい。

ａ、外径が1.8㎝台、孔径が0.8～0.9㎝、厚さが0.8～0.9㎜程のもの。

ｂ、外径が1.5～1.7㎝、孔径が0.7～0.8㎝、厚さが0.6～0.8㎜程のもの。

ｃ、外径が1.4㎝以下、孔径が0.7～0.9㎝、厚さが0.5～0.7㎜程のもの。

Ⅱ類　孔の形が隅丸方形状のもの。今回は外径が1.2㎝台、孔径が0.7㎝台、厚さが0.5㎜程度のもの数点のみが出土している。

Ⅲ類　孔の形が円形をしているもの。外形が1.2㎝以下と小さく、堰痕が残っているものが多く見られることから、実際の通貨とは異なった役割があったことが示唆される。

１、外径が1.0㎝以上、孔径が0.7～0.8㎝、厚さが0.5㎝程度のもの。

２、外径が1.0㎝以下、孔径が0.6㎝以下、厚さが0.5㎜程度のもの。幅が非常に細く１㎜以下のものも見られる。

第10表　無文銭出土一覧

出土地点	Ⅰ類						Ⅱ類	Ⅲ類			合計
	1	2	3a	3b	3c	小計		1	2	小計	
第34号墓	1		2			3					3
第35号墓		10				10			2	2	12
第36号墓		1	2			3					3
第37号墓	1	1			3	5	1	13＋①	28	41＋①	47＋①
第38号墓	4					4					4
第39号墓					6	6		2	1	3	9
第40号墓		91	1		1	93	1	4	32＋①	36＋①	130＋①
第44号墓					1	1	1				2
第45号墓		1	1	9	4	15					15
第46号墓								2	56＋①	58＋①	58＋①
表採		1				1	1				2
小　計	6	105	6	9	15	141	4	21＋①	119＋②	140＋③	285＋③
合　計						141	4			140＋③	285＋③

※銭貨どうしが付着して枚数が確認できないものは①枚として扱った。

銭貨出土一覧は第９表に、個々の詳細については観察一覧第11表に示した。なお無文銭の観察については一部のみの掲載にとどめた。

参考文献

・永井久美男編　『日本出土銭総覧　1996年版』兵庫県埋蔵銭貨調査会　1996年

・嶋谷和彦　「中世の模鋳銭生産位－堺出土の銭鋳型を中心に－」『考古学ジャーナル』No.372　1994年

・本沢慎輔　「東北地方に分布する鋳写しビタ銭について」『紀要Ⅹ Ⅷ』　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1998年

・丁福保　他　『歴代古銭圓説』陝西旅游出版社　1990年

・日本銀行金融研究所　『日本のお金』大蔵省印刷局　1994年

(註)・堰（せき）…湯道から鋳物本体に湯が流れ込む接続部分。

・バリ…鋳型の合わせ目に溶銅が流れ込んだ時に湯道や製品の周囲に薄く板状にはみ出したもの。

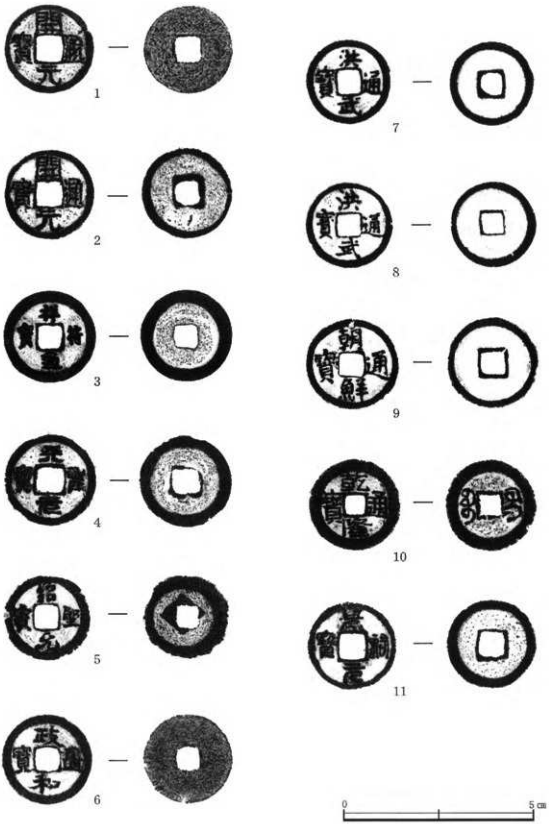
第11表　銭貨観察一覧

※　○は欠損部、□は判読不明

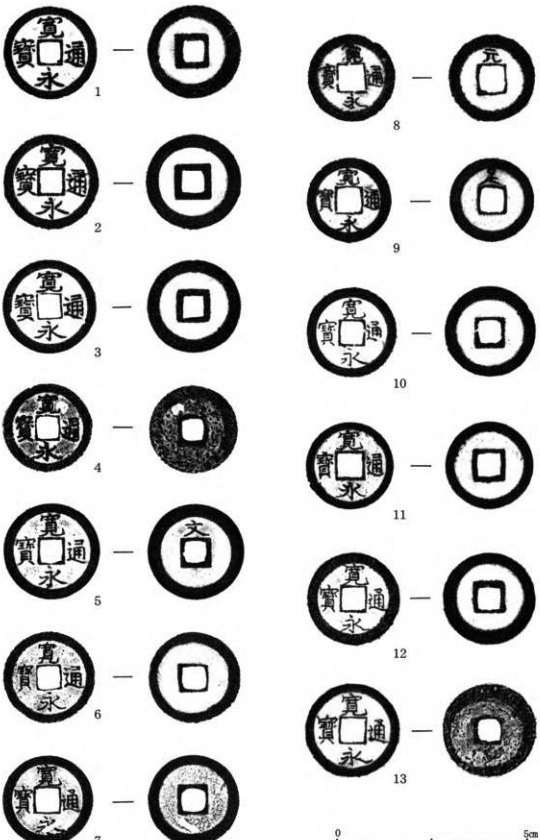
神図番号 図版番号	出土地点 層序	銭貨名 (種別)	国名 初鋳年	書体	法量（cm・g）				背文	状態・特徴	備　考	計測 番号
					外径	孔径	厚さ	重量				
第34図1 PL.29-01	第38号墓庭 フク土(集中)	開元通寶	唐 621	隷書	2.37	0.66	0.10	2.3	なし	背の縁の輪郭がほとんどなく平坦である。銭文も磨耗している。	模鋳銭？	1
〃　2 〃　2	〃	開元通寶	〃	隷書	2.40	0.62	0.11	2.7	下月	背の縁の輪郭は若干みえるが、ほとんど平坦である。銭文の肩部が激しく、磨耗している。		2
〃　3 〃　3	第38号墓庭 フク土	祥符通寶	北宋 1009	楷書	2.43	0.60	0.11	3.3	なし	背の孔縁の輪郭が弱い。銭文も磨耗している。		3
〃　4 〃　4	〃	天聖元寶	北宋 1023	篆書	2.43	0.65	0.10	2.2	なし	背の縁の輪郭が弱く、銭文も磨耗している。		4
〃　5 〃　5	第38号墓口 フク土	紹聖元寶	北宋 1094	行書	2.30	0.58	0.11	2.6	なし	背の縁の輪郭が弱く、孔縁が孔とずれている。銭文もやや磨耗している。		8
〃　6 〃　6	第38号墓庭 フク土	政和通寶	北宋 1111	楷書	2.40	0.61	0.11	2.9	なし	背の縁の輪郭がなく平坦である。銭文も腐蝕及び磨耗している。	模鋳銭？	5
〃　7 〃　7	第35号墓室 フク土	洪武通寶	明 1368	楷書	2.22	0.56	0.11	2.2	なし	縁の輪郭ははっきりしている。銭文はやや腐蝕している。		9
	〃	洪〇通寶	〃	〃	2.25	0.60	0.13	1.3	なし	3/4のみ残存。腐蝕が激しい。洪武通寶と思われる。		10
〃　8 〃　8	第38号墓庭 フク土(集中)	洪武通寶	〃	〃	2.25	0.53	0.20	4.3	なし	背の縁輪郭が弱く、縁幅も細い。銭文も磨耗している。		11
	第43号墓 埋土	洪〇〇寶	〃	〃	－	－	0.14	1.3	なし	1/2のみ残存。腐蝕が激しい。洪武通寶と思われる		12
〃　9 〃　9	第38号墓庭 フク土	朝鮮通寶	李朝 1423	〃	2.40	0.57	0.15	3.8	なし	縁の輪郭は、はっきりしている。銭文はやや磨耗している。		7
〃　10 〃　10	第39号墓庭 埋土	乾隆通寶	清 1736	隷書	2.42	0.48	0.12	3.3	右:桂 左:寶	縁の輪郭は弱く、腐蝕している。銭文がやや磨耗している。背文は満州文字。	鋳造地 広西寶桂局	13
	第35号墓室 フク土	判読不明	－	－	2.38	0.70	0.10	3.0	なし	背は平坦。銭文も磨耗している。		14
	〃	〃	－	－	2.30	0.63	0.12	2.7	－	腐蝕及び磨耗が激しい。		15
	〃	〃	－	－	2.35	0.70	0.10	2.3	なし	腐蝕が激しい。		16
〃　11 〃　11	第38号墓庭 フク土	□□元寶	(北宋)	篆書	2.35	0.63	0.11	2.9	なし	背の輪郭が弱い。銭文も磨耗している。景祐元寶と思われる。		17
	〃	元□通□	－	－	2.35	0.63	0.10	2.9	なし	磨耗がはげしい。背の縁に「－」の文字。		6
	〃	判読不明	－	－	2.30	0.66	0.10	2.2	なし	腐蝕及び磨耗が激しい。		19
	〃	〃	－	－	2.45	0.61	0.11	3.5	なし	背は平坦。銭文も磨耗している。		20
	第38号墓庭 フク土(集中)	判読不明	－	－	2.30	0.60	0.10	2.6	なし	背は平坦。銭文の腐蝕及び磨耗が激しい。		18
第35図1 PL.30-01	第３号墓庭 埋土	寛永通寶 (古)	江戸 1636	楷書	2.46	0.55	0.11	2.9	なし	縁の輪郭、銭文ともにはっきりしている。		21
〃　2 〃　2	第33号墓庭 フク土	寛永通寶 (古)	〃	〃	2.51	0.59	0.15	4.1	なし	縁の輪郭、銭文ともにはっきりしている。やや腐蝕している。		24
	第39号墓庭 埋土	寛永通寶 (古)	〃	〃	2.4	0.58	0.10	3.4	なし	縁の輪郭、銭文ともに磨耗している。		26
〃　3 〃　3	第44号墓 埋土	寛永通寶 (古)	〃	〃	2.45	0.56	0.12	3.4	なし	縁の輪郭、銭文ともにはっきりしている。		31
〃　4 〃　4	第44号墓庭 フク土	寛永通寶 (古)	〃	〃	2.34	0.57	0.09	2.0	なし	背は平坦。銭文もやや磨耗している。鋳造によると思われる小穴がある。		30
〃　5 〃　5	第16号墓	寛永通寶 (文)	江戸 1668	楷書	2.53	0.58	0.11	3.3	文	縁の輪郭、銭文ともにはっきりしている。	鋳造地 江戸亀戸	23
〃　6 〃　6	第３号墓庭 埋土	寛永通寶 (新)	江戸 1697	〃	2.45	0.57	0.13	3.5	なし	縁の輪郭、銭文ともにはっきりしている。背錆が激しい。		22
	第38号墓庭 埋土	○永通○ (新)	〃	〃	－	－	0.10	1.4	なし	1/2のみ残存。磨耗している。寛永通寶と考えられる。		25
〃　7 〃　7	第39号墓庭 埋土	寛永通寶 (新)	〃	〃	2.42	0.60	0.10	2.8	なし	縁の輪郭、銭文ともにはっきりしている。氷の字に鋳造による穴がある。		27
	〃	判読不明	－	－	2.58	0.70	0.20	3.6	なし	鉄銭。全体が錆膨れしている。	寛永通寶？	28
〃　8 〃　8	第42号墓室	寛永通寶 (新)	江戸 1741	楷書	2.30	0.63	0.11	1.9	元	腐蝕及び磨耗している。	鋳造地 大阪高津	29

挿図番号 図版番号	出土地点 層序	銭貨名 (種別)	国名 初鋳年	書体	法量（cm・g）				背文	状態・特徴	備　考	計測 番号
					外径	孔径	厚さ	重量				
第35図9 PL.30/09	第35号墓庭 フク土	寛永通寶 (新)	江戸 1741	楷書	2.21	0.62	0.10	2.1	足	銭文は明瞭。背が磨耗している。	鋳造地 下野足尾	32
〃 10 〃 10	〃	寛永通寶 (新)	江戸 1697	〃	2.38	0.60	0.11	2.8	なし	縁の輪郭、銭文ともに明瞭。やや腐蝕。		33
〃 11 〃 11	〃	〃	〃	〃	2.31	0.61	0.12	3.2	なし	縁の輪郭は明瞭。銭文がやや腐蝕。		34
〃 12 〃 12	〃	〃	〃	〃	2.43	0.60	0.11	2.9	なし	縁の輪郭、銭文ともに明瞭。青錆が激しい。	計測番号35～39まで重なって出土した。	35
	〃	〃	〃	〃	2.42	0.60	0.11	2.7	なし	腐蝕している。		36
	〃	〃	〃	〃	2.45	0.65	0.11	2.8	なし	背は錆膨れしている。		37
〃 13 〃 13	〃	〃	〃	〃	2.47	0.60	0.11	3.0	なし	銭文明瞭。やや腐蝕している。		38
	〃	判読不明	－	－	－	－	－	9.0	－	数枚（3枚？）が付着。銭銭が混ざっている		39
第36図1 PL.31/01	第38号墓口 フク土	無文銭			2.38	0.50	0.11	3.19		縁の輪郭が若干見られる。大きさは渡来銭と変らない。	Ⅰ類－1	1
〃 2 〃 2	第38号墓庭 フク土	無文銭			2.30	0.63	0.09	2.06		両面ともに平坦である。錆膨れが見られる。	Ⅰ類－1	2
〃 3 〃 3	第38号墓庭 フク土(集中	無文銭			2.21	0.65	0.10	2.14		両面ともに平坦である。孔がずれている。	Ⅰ類－1	5
〃 4 〃 4	第34号墓庭 フク土	無文銭			2.22	0.70	0.10	1.75		両面ともに平坦である。青錆が激しい。	Ⅰ類－1	4
〃 5 〃 5	第35号墓室 フク土	無文銭			2.05	0.68	0.07	1.06		両面ともに平坦である。	Ⅰ類－2	8-1
〃 6 〃 6	〃	無文銭			2.08	0.72	0.06	1.18		右にセキ痕がみられる。	Ⅰ類－2	8-2
〃 7 〃 7	〃	無文銭			2.06	0.68	0.06	1.17		両面ともに平坦である。	Ⅰ類－2	8-4
〃 8 〃 8	第40号墓室 フク土No. 3	無文銭			2.06	0.60	0.06	1.12		錆膨れが激しい。	Ⅰ類－2	7-1
〃 9 〃 9	〃	無文銭			2.05	0.61	0.07	1.21		錆膨れが激しい。	Ⅰ類－2	7-2
〃 10 〃 10	〃	無文銭			2.02	0.67	0.08	1.04		裏の錆膨れが激しい。	Ⅰ類－2	7-3
〃 11 〃 11	〃	無文銭			2.10	0.65	0.10	1.30		錆膨れが激しい。孔にバリがある。	Ⅰ類－2	7-4
〃 12 〃 12	〃	無文銭			2.10	0.65	0.10	1.45		錆膨れが激しい。右にセキ痕がみられる。	Ⅰ類－2	7-6
〃 13 〃 13	〃	無文銭			2.03	0.75	0.08	1.16		錆膨れが激しい。	Ⅰ類－2	7-5
〃 14 〃 14	第35号墓室 フク土	無文銭			1.98	0.77	0.10	1.24		右にセキ痕がみられる。	Ⅰ類－2	9-1
〃 15 〃 15	〃	無文銭			1.93	0.65	0.07	0.97		僅かに欠損している。	Ⅰ類－2	9-3
〃 16 〃 16	第37号墓室	無文銭			1.93	0.63	0.08	1.26		僅かに欠損している。	Ⅰ類－2	10
〃 17 〃 17	第34号墓庭 フク土	無文銭			1.89	0.80	0.08	0.86		状態がよい。	Ⅰ類－3a	13-1
〃 18 〃 18	第34号墓庭 フク土	無文銭			1.83	0.80	0.08	0.52		錆膨れが激しい。	Ⅰ類－3a	13-2
〃 19 〃 19	第40号墓室 フク土No.3	無文銭			1.89	0.90	0.09	0.97		特に孔径が大きい。	Ⅰ類－3a	7-7
〃 20 〃 20	第45号墓室 フク土	無文銭			1.62	0.75	0.07	0.56		左上にセキ痕がみられる。	Ⅰ類－3b	16-1
〃 21 〃 21	〃	無文銭			1.62	0.80	0.08	0.53		右にセキ痕がみられる。	Ⅰ類－3b	16-2
〃 22 〃 22	〃	無文銭			1.62	0.80	0.06	0.39		表に若干丸味があり、裏は真っ平である。	Ⅰ類－3b	17-2
〃 23 〃 23	〃	無文銭			1.65	0.85	0.07	0.34		錆膨れが激しい。	Ⅰ類－3b	17-3

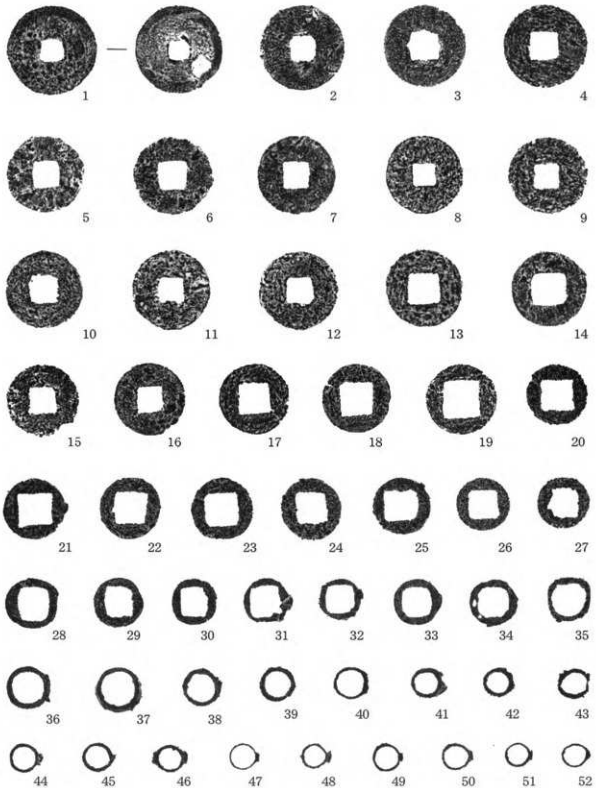
挿図番号 図版番号	出土地点 層序	銭貨名 (種別)	国名 初鋳年	書体	法量（cm・g）				背文	状態・特徴	備　考	計測 番号
					外径	孔径	厚さ	重量				
第36図24 PL.31の24	第45号墓室 フク土	無文銭			1.63	0.70	0.06	0.63		孔にバリがある。	Ⅰ類−3b	17-6
〃 25 〃 25	〃	無文銭			1.56	0.77	0.07	0.49		右上にセキ痕がみられる。	Ⅰ類−3b	17-1
〃 26 〃 26	〃	無文銭			1.43	0.69	0.08	0.57		表に若干丸味があり、裏は真っ平である。	Ⅰ類−3c	17-10
〃 27 〃 27	〃	無文銭			1.33	0.70	0.09	0.45		孔にバリがある。同類の他のものに比べて厚みがある。	Ⅰ類−3c	17-9
〃 28 〃 28	第39号墓室	無文銭			1.40	0.85	0.05	0.21		右上が直線的にカットされている。	Ⅰ類−3c	18-3
〃 29 〃 29	第39号墓口 フク土	無文銭			1.33	0.70	0.07	0.33		右上が直線的にカットされている。	Ⅰ類−3c	20-1
〃 30 〃 30	第44号墓 埋土	無文銭			1.25	0.68	0.05	0.24		表に若干丸味があり、裏は真っ平である。	Ⅰ類−3c	22
〃 31 〃 31	第37号墓室	無文銭			1.25	0.72	0.06	0.28		右下にセキ痕がみられる。	Ⅰ類−3c	19-3
〃 32 〃 32	第39号墓口 フク土	無文銭			1.18	0.68	0.06	0.16		右にセキ痕がみられる。	Ⅰ類−3c	20-2
〃 33 〃 33	第40号墓室 フク土No.2	無文銭			1.26	0.72	0.05	0.25		右にセキ痕がみられる。	Ⅱ類	21
〃 34 〃 34	第37号墓室	無文銭			1.30	0.77	0.05	0.20		右上が直線的にカットされている。	Ⅱ類	27
〃 35 〃 35	第44号墓 埋土	無文銭			約1.2	0.80	0.07	0.11		右上が直線的にカットされている。 錆膨れが激しい。	Ⅱ類	29
〃 36 〃 36	第40号墓室 フク土No.2	無文銭			1.20	0.80	0.05	0.15		右下にセキ痕がみられる。	Ⅲ類−1	24-1
〃 37 〃 37	第37号墓室	無文銭			1.21	0.80	0.05	0.16		外輪と孔にバリがある。	Ⅲ類−1	26-1
〃 38 〃 38	〃	無文銭			1.05	0.70	0.03	0.09		右にセキ痕がみられる。	Ⅲ類−1	26-9
〃 39 〃 39	〃	無文銭			0.95	0.63	0.05	0.09		右上が直線的にカットされている。 外輪と孔にバリがある。	Ⅲ類−2	26-2
〃 40 〃 40	第40号墓室 フク土No.2	無文銭			0.90	0.62	0.08	0.08		同類の他のものに比べて厚みがある。	Ⅲ類−2	35-3
〃 41 〃 41	〃	無文銭			0.80	0.50	0.06	0.09		右にセキ痕がみられる。	Ⅲ類−2	35-4
〃 42 〃 42	第37号墓室 （左タナ）蔵 骨器No.1内	無文銭			0.83	0.50	0.06	0.10		右が直線的にカットされている。	Ⅲ類−2	44-1
〃 43 〃 43		無文銭			0.87	0.52	0.07	0.09		右上が直線的にカットされている。 錆が激しい。	Ⅲ類−2	44-2
〃 44 〃 44	第37号墓室 （右タナ）	無文銭			0.80	0.53	0.07	0.10		右にセキ痕がみられる。	Ⅲ類−2	43-1
〃 45 〃 45	第46号墓室 銭貨No.1	無文銭			0.83	0.53	0.06	0.07		右にセキ痕がみられる。	Ⅲ類−2	41-1
〃 46 〃 46	第37号墓室	無文銭			0.79	0.50	0.06	0.10		左右にセキ痕がみられる。	Ⅲ類−2	32-1
〃 47 〃 47	第40号墓室 フク土No.2	無文銭			0.75	0.55	0.05	0.04		右にセキ痕がみられる。縁の幅がかなり細い。	Ⅲ類−2	35-1
〃 48 〃 48	〃	無文銭			0.66	0.50	0.05	0.03		右にセキ痕がみられる。縁の幅がかなり細い。	Ⅲ類−2	35-2
〃 49 〃 49	第46号墓室 フク土	無文銭			0.76	0.52	0.05	0.05		右にセキ痕がみられる。縁の幅がかなり細い。	Ⅲ類−2	39-1
〃 50 〃 50	〃	無文銭			0.75	0.51	0.06	0.04		右にセキ痕がみられる。縁の幅がかなり細い。	Ⅲ類−2	39-4
〃 51 〃 51	第40号墓室 フク土	無文銭			0.69	0.48	0.05	0.04		右にセキ痕がみられる。縁の幅がかなり細い。	Ⅲ類−2	34-2
〃 52 〃 52	第46号墓室 銭貨No.1	無文銭			0.65	0.48	0.05	0.03		右が直線的にカットされている。 縁の幅がかなり細い。	Ⅲ類−2	41-2
	第43号墓室 蔵骨器No.7	一銭	明治 10年		2.79	−	0.14	6.60		文様は表は上に菊花、下に菊と桐の枝、裏は鹿。	材質:銅	40
	第48号墓室 埋土	五銭	昭和 17年		1.90	−	0.16	1.02		文様は表は菊花と瑞雲、裏は金鶏。周囲にギザ有り。	2枚出土 材質:アルミ	41-1 41-2


開元通寶
1
開元通寶
2
乾元重寶
3
乾元重寶
4
開元通寶
5
建元通寶
6
洪武通寶
7
洪武通寶
8
朝鮮通寶
9
通寶
10
通寶
11
0
5㎝

第34図（ＰＬ.29）　銭貨



第35図（ＰＬ.30）　銭貨



0 5cm

第36図（P L.31）　銭貨

第５節　木製品

第５号墓室から下駄と第６号墓室から木棺の一部と見られる木材が得られている。ここでは、副葬品と考えられる下駄を図示する。なお、材質の鑑定はおこなっていない。

第39図１・２は木製の下駄である。平面形は長方形を呈する一木造りの連歯下駄である。１は長さ22.7cm、幅13.1cm、厚さ1.2cm、歯の高さ3.85cm、幅3.1cm、厚さ3.0cmを計る。また、鼻緒も残存しており、近年の資料と見られる。第５号墓室シルヒラシドゥクル出土。

第６節　刀　子

鉄製の刀子が、第40号墓フク土から１点得られている。第39図３は、全体に鉄錆が付着する。刃部は5.3cmが残存。刃部最大幅1.4cm、最少0.4cm、厚さ0.3cm。接合はできないが同一個体と見られる刃部も出土（長さ2.3cm、幅0.6cm、厚さ0.3cm）。

柄部は1.75cmが残存。厚さ0.3cm。残存長10.0cm（折損資料も含む）。重量9.5g。

第７節　鉄　釘

鉄釘は丸釘（252点）と角釘（82点）に大別され、23基の遺構から検出（第12表）。遺跡北側斜面では丸釘、同南側斜面では角釘が主に出土する傾向が窺える。

第６号墓の墓室内からは丸釘のみ228点得られており、第５節で述べた木棺との関連において注意される。また、第37号墓・第43号墓では、墓室から検出された蔵骨器内から角釘が得られている。丸釘と角釘の出土傾向は、検出される古墓に偏りが窺え、第36号墓・第40号墓・第46号墓のみで混在して出土している。

角釘は、長さ１cm台～５cm台、重さ0.3g～2.6gまでが得られており、特に長さ１cm～３cm、重さ0.5g～1.5gまでの間に集中する傾向にある（第37図）。

丸釘は、長さ１cm台～10cm台、重さ0.3g～10.5gまでが得られており、特に長さ３cm～６cm、重さ0.5g～3.5gまでの間に集中する傾向にある（第38図）。

ここでは、第46号墓室から出土したものの中から角釘のみ5点を第39図に、計測値を第13表に示す。

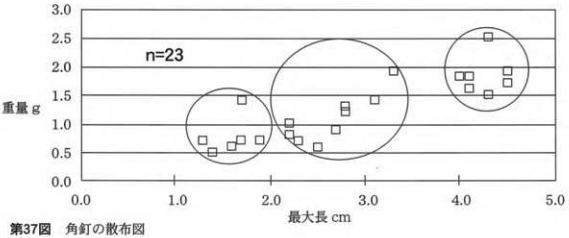
第12表　鉄釘出土一覧

出土地点 ＼ 釘の種類	第2号墓口埋土	第3号墓室 掘込	第6号墓室	第21号墓室	第21号墓庭フク土	第30号墓埋土	第32号墓室	第35号墓室フク土	第36号墓室 奥タナ左	第37号墓室蔵骨器No.8内	第37号墓室 左タナ	第37号墓室 奥室	第39号墓フク土	第40号墓室フク土No.3	第40号墓室フク土	第42号墓室フク土	第43号墓室蔵骨器No.5内	第43号墓室蔵骨器No.6内	第46号墓室	第46号墓室フク土	第46号墓口フク土	第46号墓表採	合計
釘(角)		1				8		2	1	2		1		1	3	3	2	1	4	48	4	1	82
釘(丸)	2		228	2	4		3		1		1		1		1				9				252
合　計	2	1	228	2	4	8	3	2	2	2	1	1	1	1	4	3	2	1	13	48	4	1	334

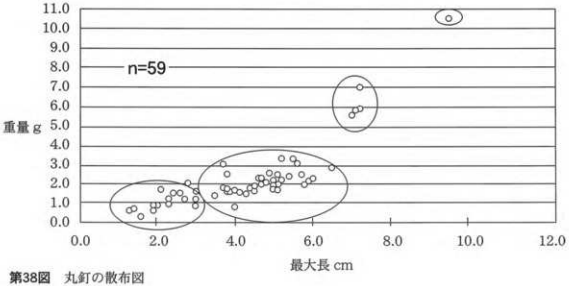
第13表　鉄釘計測一覧

単位：cm・g

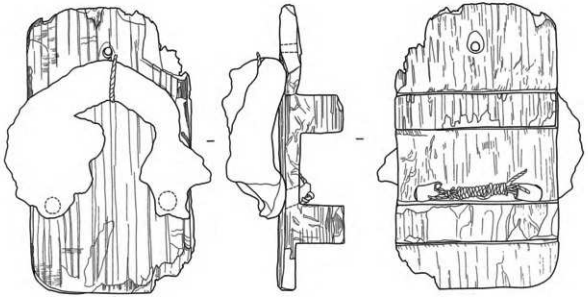
挿図番号 図版番号	出土地点	種　類	最大長 頭部縦	最大幅 頭部横	厚　さ 頭部厚	重　さ	備　　考
第39図の 4 PL.33の 4	第46号墓室 フク土	鉄製角釘	4.1 0.7	0.4 0.8	0.3 0.2	1.6 −	鉄錆・木片の付着が見られる。
〃 5 〃 5	第46号墓室 釘No. 1	鉄製角釘	4.0 0.9	0.4 0.6	0.4 0.3	1.8 −	〃
〃 6 〃 6	第46号墓室 フク土	鉄製角釘	3.3 0.7	0.5 0.9	0.5 0.4	1.9 −	〃 脚部先端部は欠損する
〃 7 〃 7	第46号墓室 釘D	鉄製角釘	2.7 0.7	0.3 0.5	0.4 0.3	0.9 −	〃
〃 8 〃 8	第46号墓室 頭骨No. 2	鉄製角釘	2.2 0.6	0.4 0.5	0.4 0.2	0.8 −	〃 脚部が湾曲する



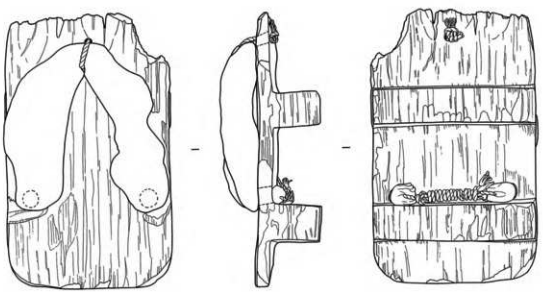
第37図　角釘の散布図



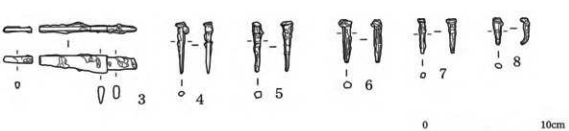
第38図　丸釘の散布図



1



2



第39図（ＰＬ.32）　木製品：下駄（1・2）
鉄製品：刀子（3）、釘（4～8）

第8節　煙　　管

本古墓群から得られた煙管は首部と吸口を合わせて総数24点である（第14表）。材質は、金属製（20点）、沖縄産施釉陶器製（２点）、沖縄産無釉陶器製（２点）の三種に大別される。なお石製の資料は得られていない。

出土傾向を見ると北側斜面（第1号墓～第32号墓）に位置する古墓からは第５号墓（１点）・第７号墓（１点）・第30号墓（４点）の３基で、対する南側斜面に位置する古墓からは第35号墓（４点）・第38号墓（３点）・第39号墓（３点）・第40号墓（２点）・第42号墓（１点）・第44号墓（４点）・第46号墓（１点）の７基の古墓から出土している。なお、第７号墓・第35号墓・第40号墓・第42号墓・第46号墓から出土した資料９点は墓室内からのものであった。

ここでは、出土古墓ごとに区切って第41・42図に示す。なお、第15表に示した個々の観察の中で材質（金属）については化学分析等を実施していない。

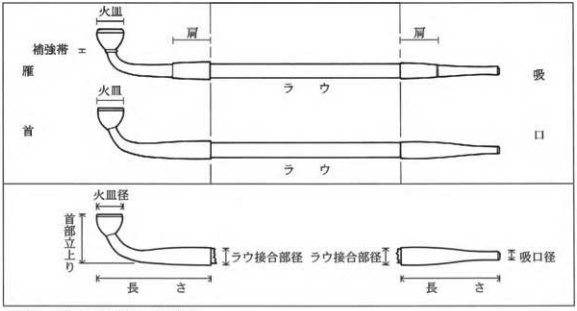
資料の分類は、『ナーチュー毛古墓群[註]』に従った。本標品については、細かな形式編年（年代推定）や材質の分析・同定、さらに、喫煙・副葬習慣など検討を要する課題が多い。

第40図に煙管の部分名と計測部位を図示するので参考にしていただきたい。

註．玉城京子　「第13節　煙管」『ナーチュー毛古墓群』　那覇市教育委員会　2000年3月

参考文献

小泉　弘　『江戸の考古学』考古学ライブラリー　48　ニューサイエンス社　1987年4月



第40図　煙管の部分名称と計測部位

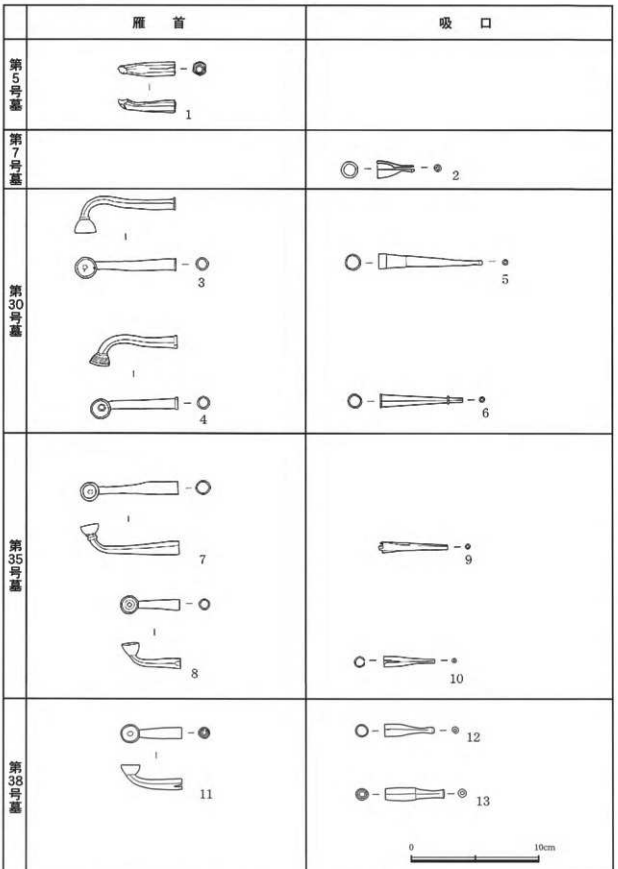
第14表　煙管出土一覧

出土地点	金属		施釉陶器		無釉陶器	合　計
	雁　首	吸　口	雁　首	吸　口	雁　首	
第5号墓石垣フク土	1					1
第7号墓室(掘込)				1		1
第30号墓埋土	2	2				4
第35号墓室フク土	2	2				4
第38号墓庭フク土		1				1
第38号墓庭埋土	1	1				2
第39号墓庭フク土	1	1				2
第39号墓庭埋土			1			1
第40号墓室フク土No.3	1					1
第40号墓室フク土		1				1
第42号墓室フク土		1				1
第44号墓庭フク土	2				2	4
第46号墓室	1					1
合　計	11	9	1	1	2	24

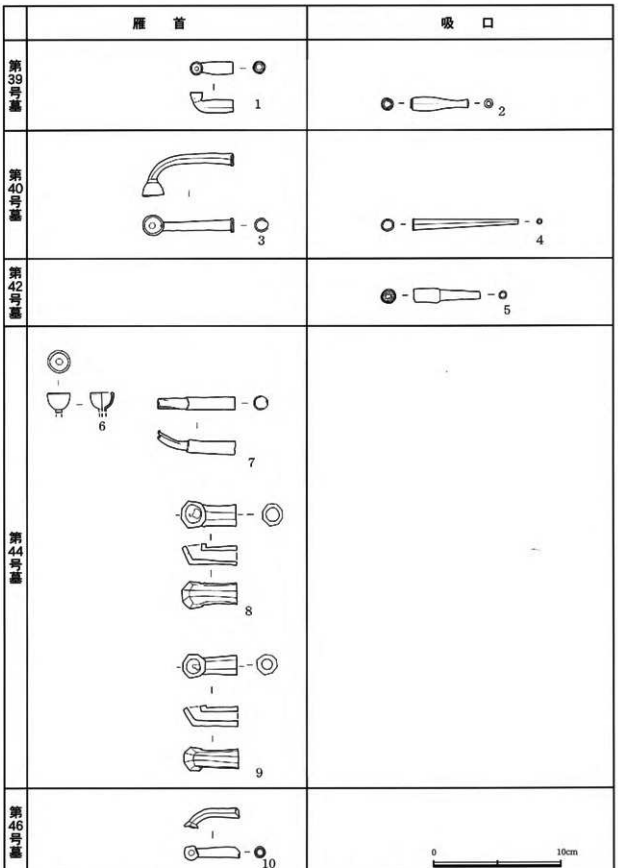
第15表　煙管観察一覧

単位:cm・g　※長さ(残存値)重量はラウ込み

挿図番号 図版番号	出土地点	材質	部位	類	長さ (残)	火皿 径	首部 立上り	ラウ 接合部 径	吸口 径	重量	特　徴
第41図1 PL.32.61	第5号墓石垣 フク土	金属	雁首	Ⅲ	(4.4)	－	－	1.0	－	5.6	火皿部分欠損。首部を六角形に面取りしている。木製のラウが一部残存。
＃　2 ＃　2	第7号墓室 (掘込)	施釉 陶器	吸口	Ⅰ	2.9	－	－	1.3	0.6	3.1	素地は橙白色で緑釉がかかっている。
＃　3 ＃　3	第30号墓 埋土	金属	雁首	Ⅰ	8.0	1.7	2.6	1.0	－	13.1	火皿下部とラウ接合部に補強帯のようなものが付く。火皿に1.5mm程の小穴あり。
＃　4 ＃　4	第30号墓 埋土	金属	雁首	Ⅰ	7.0	1.6	2.5	1.0	－	8.5	火皿下部とラウ接合部に補強帯のようなものが付く。 火皿に1mm間隔の縦沈線文様、また1.5mm程の小穴あり。
＃　5 ＃　5	第30号墓 埋土	金属	吸口	Ⅰ	8.2	－	－	1.2	0.4	3.9	雁部が見られる。
＃　6 ＃　6	第30号墓 埋土	金属	吸口	Ⅲ	6.5	－	－	1.0	0.4	7.3	火皿下部とラウ接合部に補強帯のようなものが付く。
＃　7 ＃　7	第35号墓室 フク土	金属	雁首	Ⅰ	7.8	1.4	2.4	1.1	－	9.6	火皿下部に補強帯が付く。9と対か？
＃　8 ＃　8	第35号墓室 フク土	金属	雁首	Ⅲ	4.7	1.4	1.8	0.8	－	5.9	火皿下部に補強帯が付く。木製のラウが一部残存。10と対か？
＃　9 ＃　9	第35号墓室 フク土	金属	吸口	Ⅲ	(5.4)	－	－	－	0.4	2.5	ラウ接合部が破損。7と対か？
＃　10 ＃　10	第35号墓室 フク土	金属	吸口	Ⅱ	4.0	－	－	0.8	0.3	2.2	継ぎ目が一部欠損。8と対か？
＃　11 ＃　11	第38号墓庭 埋土	金属	雁首	Ⅲ	4.8	1.4	1.5	0.8	－	7.5	木製のラウが一部残存。
＃　12 ＃　12	第38号墓庭 フク土	金属	吸口	Ⅱ	3.9	－	－	0.9	0.5	3.7	雁部が見られる。
＃　13 ＃　13	第38号墓庭 埋土	金属	吸口	Ⅰ	4.6	－	－	0.9	0.7	7.4	木製のラウが一部残存。雁部が見られる。
第42図1 PL.33.61	第39号墓庭 フク土	金属	雁首	Ⅲ	3.4	1.0	1.5	0.9	－	5.5	木製のラウが一部残存。
＃　2 ＃　2	第39号墓庭 フク土	金属	吸口	Ⅱ	4.4	－	－	0.9	0.7	4.7	木製のラウが一部残存。1と対。
＃　3 ＃　3	第40号墓室. フク土No.3	金属	雁首	Ⅰ	7.2	1.7	2.5	1.0	－	8.8	火皿下部とラウ接合部に補強帯のようなものが付く。火皿に1.5mm程の小穴あり。
＃　4 ＃　4	第40号墓室 フク土	金属	吸口	Ⅲ	8.3	－	－	1.0	0.4	6.8	ラウ接合部に補強帯のようなものが付く。
＃　5 ＃　5	第42号墓室 フク土	金属	吸口	Ⅰ	5.2	－	－	1.1	0.6	9.2	雁部有り。木製のラウが一部残存。
＃　6 ＃　6	第44号墓庭 フク土	金属	雁首	－	－	1.8	－	－	－	5.7	火皿部分のみ残存。火皿下部に補強帯付き。7と同一個体と考えられる。
＃　7 ＃　7	第44号墓庭 フク土	金属	雁首	Ⅱ	(6.2)	－	－	1.0	－	8.1	火皿部分欠損。雁部有り。 6と同一個体と考えられる。
＃　8 ＃　8	第44号墓庭 フク土	施釉 陶器	雁首	Ⅱ	4.4	2.1	1.6	1.7	－	13.4	素地は暗茶色。首部から火皿部にかけて八角形に面取りしている。
＃　9 ＃　9	第44号墓庭 フク土	施釉 陶器	雁首	Ⅱ	4.3	1.9	1.6	1.6	－	11.7	素地は橙褐色。首部から火皿部にかけて八角形に面取りしている。
＃　10 ＃　10	第46号墓室	金属	雁首	Ⅲ	(4.3)	－	－	－	－	4.3	火皿、ラウ接合部が欠損。 木製のラウの一部が残存。
	第39号墓庭 埋土	施釉 陶器	雁首	－	－	1.4	－	－	－	0.5	火皿の一部と考えられる。素地は肌色で緑釉が僅かに見られる。



第41図（ＰＬ.33）煙管　（金属製品）：雁首（1・3・4・7・8・11）、吸口（5・6・9・10・12・13）
（陶 製 品）：吸口（2）



第42図（P L.33）煙管　（金属製品）：雁首（1・3・6・7・10）、吸口（2・4・5）
（陶 製 品）：雁首（8・9）

第9節　簪

簪は総数14点出土した。その中から13点を第43・44図に示す。また、出土一覧を第16表に、個々の資料の特徴を第17表に示す。なお、本標品の分類は以下に示すように『ナーチュー毛古墓群』[註]を踏襲する。分類は頭部の形状で花形・耳かき形・匙形に大別される。

花形は、頭部が花形を呈するもので、その形状により四タイプに分けられる。

A　頭の飾り部の外郭が尖り、花弁が6枚みられるタイプ

B　頭の飾り部の外郭が丸みを帯びる形で、花弁が6枚みられるタイプ

C　頭の飾り部の外郭が丸みを帯びる形で、花弁が5枚見られるタイプ

D　頭の飾り部を大きく6つに区画し、区画内に多くの花弁を表現するタイプ

本古墓群では、AタイプとBタイプが得られている。

耳かき形は、頭部が耳かき形を呈するもので、その形状により二タイプに分けられる。

A　全体に短めのタイプ（本古墓群では12.0㎝以下）

B　全体に長めのタイプ

本古墓群では、両タイプとも得られている。

匙形は、頭部が匙形を呈するもので、その形状により四タイプに分けられる。

A　全体に短めのタイプ（本古墓群では11.5㎝以下）

B　全体に長めのタイプ

C　首部・竿部がA・Bに比べて細く、全体に長めのタイプ

D　首部・竿部がA・Bに比べて細く、全体に短めのタイプ

本古墓群では、Aタイプのみ得られている。

註．玉城京子「第14節　簪」『ナーチュー毛古墓群』　那覇市教育委員会　2000年3月

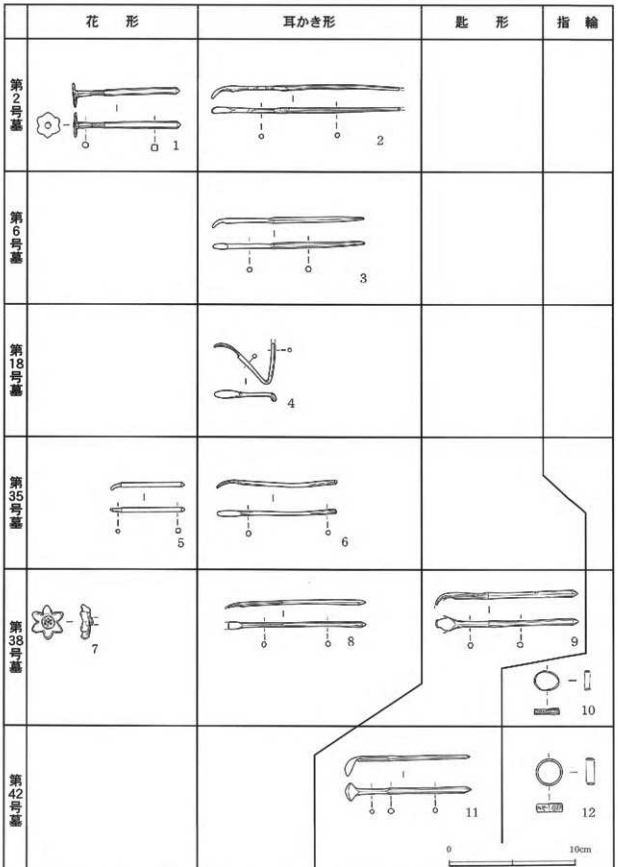
第16表　簪出土一覧

出土地点	花形					耳かき形		匙形				不明	合計
	A	B	C	D	不明	A	B	A	B	C	D		
第2号墓室埋土		1					1						2
第6号墓右垣フク土						1							1
第9号墓庭												1	1
第18号墓フク土							1						1
第35号墓庭フク土					1		1						2
第38号墓庭フク土						1		1					2
第38号墓埋土	1												1
第42号墓室フク土								1					1
第45号墓口フク土								1					1
第46号墓庭フク土		2											2
合　計	1	3			1	2	3	3				1	14

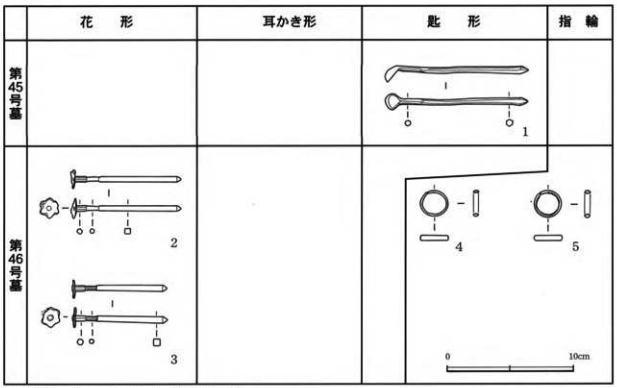
第17表　簪観察一覧

※長さ（残存値）

挿図番号 図版番号	出土地点	形状	類	材質	法量（単位：cm・g） 長さ（残）	頭部幅	首～竿部幅 最小	首～竿部幅 最大	竿部長さ	重量	特徴
第43図 1 PL.34の1	第2号墓室 埋土	花形	B	銅	8.5	1.95	0.30	0.45	5.9	9.2	首部は六角形、ムディ部は円形でひねり痕が見られる。竿部は四角形で先にいくに従い太くなり先端は四角錐になる。
〃 2 〃 2	第2号墓室 埋土	耳かき形	B	銅	(14.9)	0.50	0.20	0.40	9.5	6.5	頭部の長さは1.55cm。首部に弱い稜がみられる。竿部は六角形で先にいくに従い細くなる。先端が僅かに欠損。
〃 3 〃 3	第6号墓右垣 フク土	耳かき形	A	銅	12.0	0.42	0.15	0.38	7.5	7.4	頭部の長さは1.2cm。首部は円形。竿部は六角形で先にいくに従い細くなり先端は六角錐になる。
〃 4 〃 4	第18号墓 フク土	耳かき形	B	銅	(8.5)	0.50	0.24	0.28	(2.8)	3.3	頭部の長さは2.0cm。首部は円形、竿部は六角形で先の部分が約半分欠損している。首部の所で折り曲がっている。
〃 5 〃 5	第35号墓庭 フク土	花形	不明	銅	(5.9)	－	0.15	0.32	5.1	3.9	頭部と首部が欠損。ムディ部は円形、竿部は四角形で先にいくに従い太くなり先端は四角錐になる。
〃 6 〃 6	第35号墓庭 フク土	耳かき形	B	銅	(9.6)	0.42	0.26	0.30	(2.3)	4.6	頭部の長さは1.95cm。首部は円形。竿部は六角形でほとんどが欠損している。
〃 7 〃 7	第38号墓 埋土	花形	A	錫?	－	2.70	－	－	－	11.6	頭部のみ残存。花弁がはっきりとした水仙花型をしている。他に比べ頭部の厚みが5.5mmと厚い。
〃 8 〃 8	第38号墓庭 フク土	耳かき形	A	銅	(10.9)	0.60	0.25	0.35	6.7	5.4	頭部の一部が欠損。首部は稜の弱い六角形。竿部は六角形で先にいくに従い太くなり先端は六角錐になる。
〃 9 〃 9	第38号墓庭 フク土	匙形	A	銅	(11.2)	(1.0)	0.35	0.48	7.0	10.0	頭部が一部欠損。首部は側面の幅が細い六角形。竿部は六角形で首部と接する部分が太く、一旦細くなり先にいくに従いまた太くなる。先端は六角錐。
〃 11 〃 11	第42号墓室 フク土	匙形	A	銅	9.8	1.35	0.35	0.4	6.8	8.2	首部は側面の幅が細い六角形。竿部は六角形で先にいくに従い太くなり先端は六角錐になる。
第44図 1 PL.34の1	第45号墓口 フク土	匙形	A	ジュラルミン	11.3	1.20	0.40	0.60	8.0	5.0	首部は側面の幅が細い六角形。竿部は六角形で先にいくに従い太くなり先端は六角錐になる。
〃 2 〃 2	第46号墓庭 フク土	花形	B	銅	8.5	1.50	0.30	0.45	6.4	10.4	花弁が一部欠損。首部は六角形、ムディ部は円形、竿部は四角形で先にいくに従い太くなり先端は四角錐になる。
〃 3 〃 3	第46号墓庭 フク土	花形	B	銅	7.5	1.58	0.33	0.43	5.7	8.9	花弁が一部欠損。首部は六角形、ムディ部は円形でひねり痕が見られる。竿部は四角形で先にいくに従い太くなり先端は四角錐になる。



第43図（ＰＬ.34）　簪（1～9・11）、指輪（10・12）



第44図(ＰＬ.34)　簪（1～3）、指輪（4・5）

第10節　指　輪

指輪は、身分の差によって規定があったことが知られる。[註1] 銘苅古墓群南地区[註2]やナーチュー毛古墓群[註3]での出土量と比較すると本古墓群での出土は極めて少量であった。

本古墓群からは４点出土した。その内３点が墓室内から得られたものである。第43・44図に示す。

以下に個々の資料の特徴を略記する。

第43図10は、長径2.0㎝、短径1.5㎝を測る横長の楕円形を呈して出土した。文様としては、上下に横位の刻みを施し、その中を縦位の刻みが廻る。全体に青錆の付着が著しい。幅0.4㎝、厚さ0.8㎝、重さ0.6g。第38号墓庭フク土出土。

同図12は、直径2.1㎝の円形を呈する。「松・竹・梅」をモチーフとした文様が見られる。全体に青錆・鉄錆が付着する。幅0.6㎝、厚さ0.1㎝、重さ1.9ｇ。第42号墓室フク土出土。

第44図4は、直径2.15㎝の円形を呈する。無文である。青錆が付着する。幅0.4㎝、厚さ0.15㎝、重さ1.7ｇ。第46号墓室出土。

同図５は、直径2.15㎝の円形を呈する。無文である。幅0.9㎝、厚さ0.2㎝、重さ1.8ｇ。第46号墓室出土。

註１.『沖縄大百科事典』沖縄タイムス社　1983年
２．金武正紀ほか『銘苅古墓群（Ⅰ）』　那覇市教育委員会　1998年
　　金武正紀ほか『銘苅古墓群（Ⅱ）』　那覇市教育委員会　1999年
３．金武正紀ほか『ナーチュー毛古墓群』　那覇市教育委員会　2000年

第11節　金属製品

本古墓群から得られた金属製品は、のみ（鉄製）、止め具（鉄・銅製）、鉛玉、すず、円盤状の銅製品、鈑など多種多様である（第18表）。第45図１は、のみ（鉄製）である。長さ19.0㎝、幅3.5㎝、重量980g。第35号墓室出土。２は銅製のすずである。柄の長さ3.5㎝、直径4.5㎝を測る。第43号墓室蔵骨器No.４内出土。３は第35号墓の墓口から得られた円盤状の銅製品で、扉の開閉に関連するものと考えられる。直径4.8㎝、厚さ0.4㎝。４は家具などに付随する引き手金具で「蹶手」の形状を呈する。第37号墓室内右タナ出土。５～10は家具などの止め金具と考えられる資料。５は第35号墓、６～８は第40号墓、9は第38号墓、10は第45号墓、それぞれ出土。11はいわゆる米軍の認識票である。第31号墓出土。12・13は針金状の資料で用途は不明。第35号墓出土。14・15は、第24号墓庭から出土した鉛玉である。14が直径1.4、重さ4.9g。15が直径1.5、重さ6.2g。

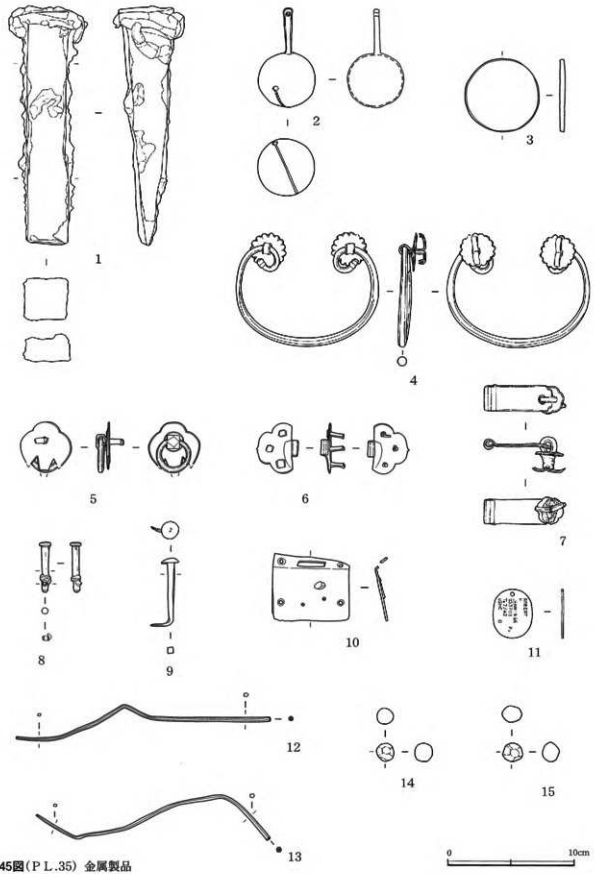
本標品類は遺構との関連は判然としない点が多い。その中で１に示した「のみ」は、基盤（琉球石灰岩）を加工する際に使用されたと考えられる。出土地点などから防空壕構築に関連する可能性も示唆される。また、３の円盤状の銅製品は前述したように、墓口に設置されていたと見られる扉との関連において注目される資料である。

参考文献

『和草笥百選』　家具の博物館　昭和62年２月

第18表　金属製品出土一覧

出土地点＼器種	銅製品						鉄製品						
	飾金具	止め具	円盤状	すず	鈑(頭部)	鈑(軸部)	用途不明	のみ	止め具	その他	鉛玉	その他	合計
第１号墓室(棺込)							1						1
第１号墓規模埋土										1		1	2
第２号墓口埋土										3			3
第２号墓規模埋土										1			1
第３号墓室（棺込）										2			2
第６号墓室										22		2	24
第７号墓室（棺込）										3			3
第７号墓規模										1		2	3
第10号墓上フク土										1		3	4
第20号墓室							1						1
第21号墓室							1			1			2
第21号墓庭フク土										3			3
第23号墓室埋土										1			1
第24号墓規模埋土											2		2
第30号墓埋土					16	25	1			1			43
第31号墓室							1					2	3
第33号墓室埋土												21	21
第33号墓規模埋土										1		1	2
第35号墓室フク土								1		1		1	3
第35号墓口			1										1
第35号墓庭フク土	1						3			5			9
第36号墓室										1		3	4
第37号墓室	3									9			12
第38号墓室フク土										1			1
第38号墓口フク土		2					1						3
第38号墓庭フク土										2			2
第38号埋土		2								1		1	4
第40号墓室フク土	5	2			5	1	4		1	2		2	22
第43号墓蔵骨器NO.４内				1									1
第43号墓室蔵骨器NO.５内										1			1
第43号墓室内埋土		1					1						2
第43号墓埋土		1					1			1			3
第44号墓室フク土										1			1
第44号墓庭フク土							12			2			14
第44号墓埋土							2	1				1	4
第44・46号墓間埋土										1			1
第45号墓室埋土	1												1
第46号墓室							5			15			20
第46号墓口フク土										2			2
第46号墓庭フク土								1					1
第46号墓埋土							1	4		4		4	13
表採										2			2
合計	10	8	1	1	21	26	35	7	1	92	2	44	248



第45図（ＰＬ.35）金属製品

第12節　石器・石製品

石器（礫を含む）は、18点得られた（第19表）。その種類は、石斧（1点）、磨石（1点）、敲石（1点）、石器片（5点）、礫（10点）である。出土地についてみると墓群の南側斜面の墓庭から得られたものが多い。このことは、墓群北側斜面はある程度遺構が露出していたのに比べ、南側斜面は後世の造成などのため完全に埋った状態であったことから、周辺などからの移入と見られる。今回は、本標品についての実測図及び写真図版は割愛した。

なお、第35号墓室内奥タナ（正面）に埋め込まれた琉球石灰岩製の容器（ＰＬ.14）や同墓・第38号墓・第39号墓・第45号墓の墓口を構成する切石（墓口を塞ぐ扉のかかり）などの石製品が得られている。琉球石灰岩製の容器の中には焼骨が確認されており、注目される資料である。

第19表　石器出土一覧　（石器片については磨痕・剥離などの加工が認められるが器種不明。礫については、加工が見られないもの石灰岩・砂岩など。）

出土地点＼種類	石斧	磨石	敲石	石器片	礫	合計	備　　考
第16号墓上フク土					1	1	北側斜面に立地
第20号墓室				1		1	〃
第21号墓室					2	2	〃
第24号墓庭フク土				1		1	〃
第24号墓庭埋土		1	1		4	6	〃
第33号墓庭埋土				1		1	南側斜面に立地
第39号墓庭埋土					1	1	〃
第39号墓フク土				1		1	〃
第44号墓庭フク土	1			1	1	3	〃
第46号墓埋土					1	1	〃
合　　計	1	1	1	5	10	18	

第13節　瓦

瓦は、赤色（159点）、灰色（11点）、総数170点得られた（第20表）。出土地を見ると、造成土で埋められた状況にあった南側斜面（第33号墓～第47号墓）から得られたものが多数を占めることが窺える。

ちなみに、古墓から出土する瓦については、墓誌などに利用されることが知られている[註]。しかし、本古墓群においてそのような資料は確認できなかったため、実測図及び写真図版は割愛した。

註.　島　弘　「墓誌」『鉈苅古墓群（Ⅱ）』　那覇市教育委員会　1999年

第20表　瓦出土一覧

種類 / 出土地点	赤色			灰色			合計	備考
	丸瓦	平瓦	不明	丸瓦	平瓦	不明		
第1号墓室埋土	2	1					3	
第1号墓屋根埋土	2						2	北側斜面に位置する。
第2号墓庭埋土		2					2	〃
第2号墓屋根埋土		1					1	〃
第1・2号墓埋土		1					1	〃
第7号墓屋根					1		1	〃
第9号墓上フク土		2					2	〃
第10号墓庭		1					1	〃
第10号墓上フク土					1		1	
第7～10号墓上	2	1					3	〃
第12号墓外フク土						1	1	〃
第13号墓フク土		1					1	〃
第16号墓庭フク土		2			1		3	北側台地上に位置する。
第16号墓上フク土	2						2	
第24号墓庭埋土	1	7			1		9	北側斜面に位置する。
第32号墓		2					2	西側台地上に位置する。
第33号墓室埋土		1					1	南側斜面に位置する。
第33号墓庭埋土	6	9	17				32	
第34号墓庭埋土		1					1	〃
第35号墓口フク土		1					1	〃
第36号墓室（奥タナ左）		4					4	〃
第36号墓上埋土	2	3					5	
第37号墓上		1					1	〃
第38号墓庭フク土	1		1	1	1		4	〃
第38号墓埋土		6	1				7	
第39号墓庭フク土		3	1		1	1	6	〃
第39号墓庭埋土	1	5					6	
第39号墓フク土	2	9					11	
第42号墓上フク土		2					2	〃
第43号墓埋土			5				5	〃
第44号墓庭フク土	1	4					5	〃
第44号墓埋土		2					2	
第45号墓室埋土		2					2	〃
第45号墓口フク土	2						2	
第46号墓室瓦No.1					1		1	〃
第46号墓庭フク土	3	3			1		7	
第46号墓埋土	12	9	3				24	
第49号墓庭埋土		1					1	北側斜面に位置する。
第50号墓		1					1	東側台地上に位置する。
表採	1	3					4	
合計	40	91	28	1	8	2	170	

第14節　円盤状製品

本古墓群から得られた円盤状製品は８点である（第21表）。個々の資料の計測値については第22表に示す。

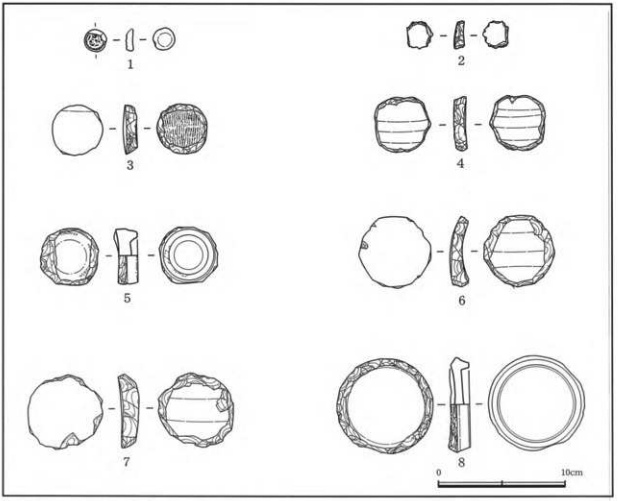
出土地を見ると、第16号墓（１点）、第38号墓（１点）、第39号墓（３点）、第44号墓（１点）、第45号墓（１点）、第46号墓（１点）で６基の古墓から出土している。そのほとんどが墓庭の造成土からのもので、古墓に伴う資料か否かは判然としない。

用いられた素材は沖縄産陶器が７点、タイ産褐釉陶器１点である。その中で注意される資料は陶質土器としたもので（第46図１）、いわゆる「泥面子」と称される資料に類似性が窺える。なお、中国産陶磁器・本土産磁器・瓦などを利用した資料は見られない。

資料の最大径は、１㎝台～７㎝台までが認められる中で３㎝台のものは出土していない（第20表）。また、使用される部位について見ると胴部５点、底部２点であった。（第47図）。

参考文献

古泉　弘『江戸の考古学』　考古学ライブラリー48　ニューサイエンス社　1987年４月



第46図（ＰＬ.36）円盤状製品

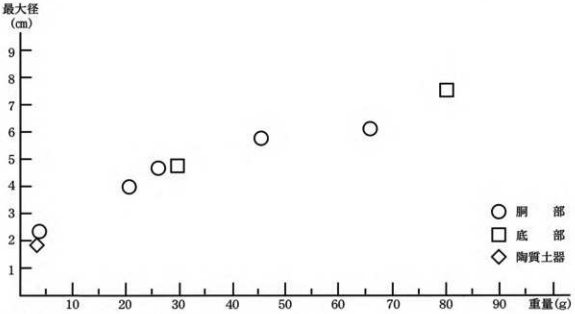
第21表　円盤状製品出土一覧

種類 ＼ 大きさ		1㎝台	2㎝台	3㎝台	4㎝台	5㎝台	6㎝台	7㎝台	合　計
タイ産	褐　釉				1				1
沖縄産	施　釉		1		1	1		1	4
	無　釉				1		1		2
	陶質土器	1							1
合　計		1	1	0	3	1	1	1	8

第22表　円盤状製品計測一覧

*厚さはすべて中央を計測

挿図番号 図版番号	出土地点	種　類	器　種	部　位	完／破	最大径 (㎝)	最小径 (㎝)	厚　さ (㎝)	重　さ (g)	産　地
第46図1 PL.36の1	第39号墓口フク土	陶質土器	－	－	完	1.8	1.7	0.5	2.0	沖縄
第46図2 PL.36の2	第16号墓	施釉	碗	胴部	完	2.3	1.9	0.6	3.6	沖縄
第46図3 PL.36の3	第39号墓フク土	無釉	擂鉢	胴部	完	4.0	3.8	0.9	20.7	沖縄
第46図4 PL.36の4	第39号墓庭埋土	褐釉	壺	胴部	完	4.7	4.2	0.8	26.2	タイ
第46図5 PL.36の5	第46号墓庭フク土	施釉	小碗	底部	完	4.8	4.4	1.0	29.7	沖縄
第46図6 PL.36の6	第44号墓庭フク土	施釉	壺	胴部	完	5.7	5.3	1.0	45.2	沖縄
第46図7 PL.36の7	第38号墓庭フク土	無釉	壺	胴部	完	6.1	5.3	1.3	66.5	沖縄
第46図8 PL.36の8	第45号墓口フク土	施釉	碗	底部	完	7.5	7.2	0.6	80.0	沖縄



第47図　円盤状製品の使用部位と重量・大きさの関係分布

第15節　プラスチック製品

本遺跡出土のプラスチック製品の出土一覧を第23表に示した。歯ブラシ６点、櫛４点、ボタン９点など21点である。

レコード盤が第41号墓室内の左タナより出土している。墓との関係は掴めていない。

第16節　骨製品

第48図１（ＰＬ.37の１）は、本遺跡唯一の骨製品である。用途は不明である。長さ2.85㎝、最大幅0.6㎝、孔2.55㎝、重量0.6ｇで骨質は不明である。第46号墓出土。

第17節　貝製品

第48図２（ＰＬ.37の２）は、第33号墓室フク土の左隅より出土しており、断面の厚みから大型のシャコガイと思われる。殻長14㎝、重量595.2ｇで、周縁部を打ち欠いて調整を施している。

自然貝を墓室や蔵骨器に使用した遺跡が、石川市「古我地原内古墓[註1]」や北谷町「上勢頭・下勢頭古墓群[註2]」、浦添市「内間西原古墓群[註3]」、宜野湾市「奥間ノロ墓[註4]」などがある。その用途について「災いよけや儀式的なものだろうか」との記載がある。

本遺跡のシャコガイの用途については今後検討していきたい。

註１.『古我地原内古墓』　沖縄県教育委員会　1987年
　２.『上勢頭・下勢頭古墓群』　北谷町教育委員会　1986年
　３.『内間西原古墓群』　浦添市教育委員会　1994年
　４.『奥間ノロ墓』　宜野湾市教育委員会　1996年

第23表　プラスチック製品出土一覧　　単位：㎝

器　種	出土地点	法　量			
歯ブラシ	第33号墓室埋土	全長=16.0	厚さ=0.5	ヘッド=5.0	毛の長さ=不明
	第37号墓室(左タナ)	全長=15.8	厚さ=0.4	ヘッド=5.0	毛の長さ=不明
	第38号庭埋土	全長=15.3	厚さ=0.5	ヘッド=5.4	毛の長さ=1.1
	第43号墓室埋土	全長=15.4	厚さ=0.5	ヘッド=4.5	毛の長さ=不明
	第46号墓埋土	全長=不明	厚さ=0.3	ヘッド=不明	毛の長さ=不明
	安謝西原表採	全長=13.9	厚さ=0.3	ヘッド=4.1	毛の長さ=1.1
櫛	第12号墓フク土	全長=不明	幅=2.8	厚さ=0.5	
	第31号墓室	全長=12.5	幅=2.9	厚さ=0.4	
	第43号墓埋土	全長=11.4	幅=3.3	厚さ=0.5	
	第45号墓庭フク土	全長=17.1	幅=3.7	厚さ=0.7	
ボタン	第８号墓庭埋土	(直径=2.1	厚さ=0.5	穴数=４）×１個	
	第38号墓庭埋土	(直径=1.5	厚さ=0.3	穴数=４）×６個	
	第46号墓埋土	(直径=1.3	厚さ=0.2	穴数=２）×２個	
マージャンパイ	第17号墓埋土	縦=2.4	横=1.8	高さ=1.1	
レコード	第41号墓室	十数枚			

第18節　ガラス製品

ガラス製品は第24表に示したとおり、器種の判別ができたものはコップ、瓶、ビー玉、おはじき、メガネのレンズなどであった。その内の10点を第48図（ＰＬ．37）に掲載した。

第48図３はコップで、清涼飲料水の瓶を利用している。４～９は薬瓶だと思われる。４と同じ瓶が「ナーチュー毛古墓群」[註1]から出土している。10と11はインクの瓶だと思われる。11は台形を呈している。

註１．『ナーチュー毛古墓群』　那覇市教育委員会　2000年３月

第19節　脊椎動物遺骸

本古墓群出土の脊椎動物遺骸の出土一覧を第25表に示した。魚・ニワトリ・イヌ・ブタ・ウシ・ヤギの６種類が判別できた。墓との関連で出土したと思われる骨は限られた数点である。以下魚類より記述する。

〈魚類〉

第11号墓上フク土より背魚棘１点である。

〈ニワトリ骨〉

第21号墓室フク土より、上腕骨と脛骨が出土している。

〈イヌ骨〉

ほぼ完全な形で出土したのが、第１号墓室埋土と第31号墓室である。いずれも墓室の出土であり、墓との関係が示唆される資料だと思われる。他の墓は第21号墓室フク土より上腕骨・左１点、第23号墓室埋土で尺骨・左２点、大腿骨・右２点出土していることから２頭推定される。古墓群全体として４頭推定できた。

〈ブタ骨〉

第39号墓庭埋土と第46号墓室からブタの頭蓋骨が出土した。この２つの墓は隣接する墓にあり、何らかの関連があるのだろうか。第46号墓室では下顎歯dm（乳歯）とＰ（永久歯）が見られることより、幼・成の２頭の存在が考えられる。

〈ウシ骨〉

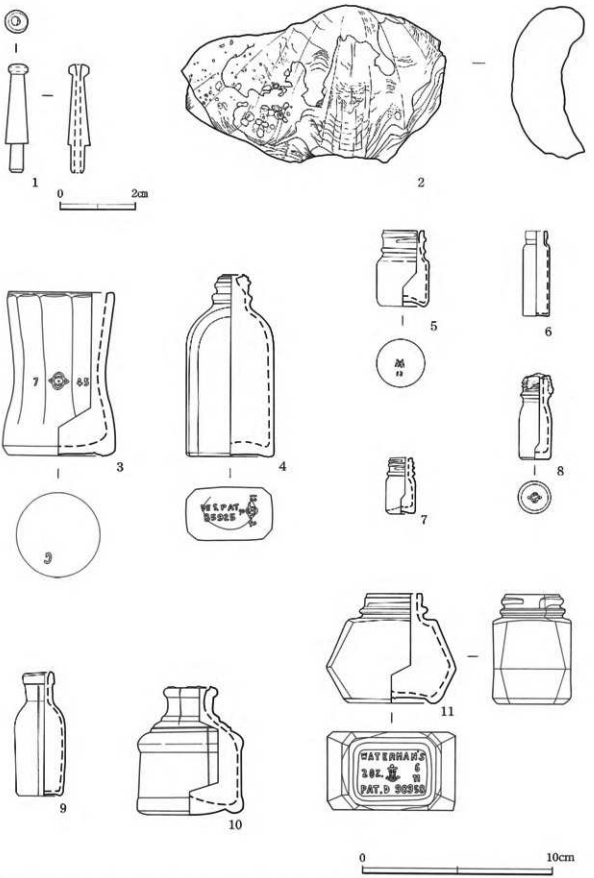
ウシの骨は部分的に、少量の骨が１・２点出土しているだけである。

〈ヤギ骨〉

ヤギの下顎骨（Ｐ３～Ｍ２）の右が１点、第18号墓の庭より出土している。

第24表　ガラス製品観察一覧

挿図番号・図版番号	器　種	出土地点	口　径	底　径	器　高	色	観　察　事　項
第48図 3 PL.370 3	コップ	第9号墓底	5.6	5.8	8.7	透明白	コークビンの上部を切断し、切り口の角を取る
		第17号墓盗掘ズクズ	－	4.9	－	透明白	把手付マグカップ風 上部欠損
		第33号墓底	4.1	3.5	5.5	透明白	ショットグラス
	ホビン	第1号墓底	0.5	3.5	9.3	透明白	丸型／底面に「オシドリ」
		第24号墓底	1.5	2.3	4.5	透明白	丸型／底面に「○16」
		第24号墓底	1.1	4.0×2.5	6.6	透明白	変形／底面に「○34」 側面に「KOBAYASHI__TAMUSHI__TINCTURE」
第48図 4 PL.370 4		第35号墓底	1.6	4.6×2.8	9.7	透明白	方形／底面に「DES.PAT.83925」
		第35号墓ザクズ	2.0	4.3×2.5	9.8	透明白	方形／わずかに透明の底が残る／4と同型
		第38号墓底	1.8	4.3×2.5	9.5	透明白	4と同型／フタ付
		第40号墓底	1.5	4.3×2.5	9.5	透明白	4と同型／フタ無し／ビンの3分の2程、赤茶色の底と薄黄色の結晶物が残る
		第31号墓底	0.5	4.3×2.4	9.8	透明白	4と同型／フタ付（中栓）
第48図 5 PL.370 5		第31号墓底	2.2	2.6	4.0	茶	丸型／底面に「麒麟マ有り」
		第35号墓底	1.8	2.3	4.0	茶	丸型／ビンの中に脱脂綿が残る／5と同型
第48図 7 PL.370 7		第35号墓ザクズ	1.1	1.4	3.0	茶	丸型
		第33号墓底	1.4	1.3	3.2	茶	7と同型のフタ付
		第35号墓ザクズ	2.0	2.4	4.8	茶	方形／底面に数字、商標？／ビンロに紙製の中フタが付着、中に脱脂綿が残る
		第33号墓底	1.5	2.4	4.7	茶	上述と同じ
		第35号墓底	1.5	1.5	4.4	茶	丸型／底面に「C 20」
第48図 10 PL.370 10		第27号墓底（風化ガラス）	2.8	5.6	6.7	薄青	丸型／底面がわずかに突出して不安定
第48図 11 PL.370 11		第39号墓底	3.0	4.6×3.6	5.8	透明白	正面6角形／底面に「WATERMAN'S 2OZ. 6 11 PAT. D98958」／インクビン
第48図 9 PL.370 9		第43号墓底	1.5	2.3	6.6	透明白	丸型
		第45号墓底	0.9	1.3	4.6	透明白	丸型
第48図 6 PL.370 6		第31号墓底	1.2	1.4	4.5	透明白	上述と同じ
		第46号墓表面剥離（風化）	2.0	2.3	5.0	茶	丸型／底面に81-04、6 10 8、が記。ビン中に、黒と丸めた脱脂綿が残る
		第33号墓底	1.3	2.3	4.9	茶	上述と同型／ビンの中に綿ヲ が残る。8と同じフタ岩平残る
		第46号墓ザクズ	0.9	1.5	4.3	緑色	上述と同型／「5」、商標？有り
第48図 8 PL.370 8		第33号墓底	1.3	1.7	4.3	緑色	上述と同じ／フタも岩平残る
		第2号墓底	0.9	1.5	4.3	緑色	上述と同じ／フタ無し
		第33号墓底	2.0	2.2	4.7	茶	丸型／底面に「F4 157 5」
	ビン	第27号墓底	1.6	5.7	17.0	透明白	丸型／底面に「NO__DEPOSIT__NO__RETURN」「NOT 剥離（風化） 剥離（風化）」／側面に「NO__DEPOSIT__NO__RETURN」「NOT
		第17号墓底（風化）	9.2	13.0	－	薄明白	丸口／側面八角柱型
		第27号墓底（風化）	8.5	13.5	－	薄緑	丸口／側面八角柱型／側面に「MADE IN JAPAN」<>
	ビンのフタ	第33号墓底（風化）	－	－	－	薄緑	上部ガラス 最大径1.5cm、脚部5.6cm／中ボロ径3.3cm、高さ1.3cm、つまみ部分径5.9cm、高さ3.1cm
		第33号墓底	－	－	－	透明白	ビンのフタ／最大径4.4cm、脚部6.6cm、つまみ部分径6.5cm、高さ4.0cm
	ビンの栓	第46号墓ザクズ	－	－	－	透明白	脚高4.0cm、つまみ径2.1cm
	用途不明	第26号墓底（風化ガラス）	－	－	－	薄緑	最大径9.8cm、つまみ径3.2cm、高さ3.1cm
	ビー玉	第11号墓上ザクズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に水色の線
		第13号墓底ザクズ	直径1.6	－	－	透明	透明ガラス（濃いブルー）のみ
		第13号墓底ザクズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に茶・白・青の3色
		第13号墓底ザクズ	直径1.6	－	－	不透明白	不透明白の表面に赤・黄・黄の3色
		第13号墓底ザクズ	直径1.6	－	－	不透明白	不透明白の表面に青・黄色の細かい線
		第13号墓底ザクズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に緑色
		第13号墓ザクズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に緑色
		第18号墓ザクズ	直径1.6	－	－	透明	透明ガラスの中に赤色
		第18号墓ザクズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に赤色
		第18号墓盗掘ズ風ズ盗掘ズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラス（濃いブルー）のみ
		第20号墓底	直径1.6	－	－	透明	透明ガラスの中に青・白・橙の3色
		第21号墓底	直径1.7	－	－	不透明白	不透明白の表面に赤・青・黄の3色
		第21号墓底	直径1.6	－	－	透明	透明ガラスの中に赤色
		第34号墓底	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に緑・白・黄の3色
		第31号墓底	直径2.4	－	－	透明	透明ガラスの中に青・黄の2色
		第33号墓底ザクズ	直径1.7	－	－	透明	透明ガラスの中に水色
		第42号墓底	直径1.6	－	－	透明	透明ガラスの中に白・茶の2色
		第43号墓底	直径1.6	－	－	不透明白	不透明白の表面に赤・黄の2色
	おはじき	第12号墓	直径0.2	厚さ0.3	－	半透明白	平面円の縁に赤色の線、片面に平行なきざみ目有り
		第18号墓	直径1.6	厚さ0.4	－	透明	透明ガラスに水色の線、両面に平行なきざみ目有り
	眼鏡とレンズ	第39号墓	－	－	－	透明白	レンズ径3.6cm、厚さ0.3cm／丸型のレンズ2個、フレームの破片残る
		第39号墓ザクズ	－	－	－	透明白	レンズ径4.4cm、厚さ0.3cm／丸型のレンズ1個のみ
	破片	第8号墓上ザクズ	－	－	－	透明白／緑	透明ガラスに緑の彩色
		第8号墓上ザクズ	－	－	－	透明白	
		第13号墓盗掘ズ	－	－	－	薄青	酒ビン？「大吟・・・」「キンシ・・・」の文字
		第35号墓ザクズ	－	－	－	青	
		第39号墓ザクズ	－	－	－	不透明白	
		第43号墓底	－	－	－		鏡の破片
		第44号墓底ザクズ	－	－	－	半透明白	



第48図（ＰＬ.37）　骨製品(1)、貝製品(2)、ガラス製品：コップ(3)、瓶（４～11）

第25表　脊椎動物遺骸出土一覧

動物名	部位	出土地点	第1号竪穴住居址	第7号竪穴住居	第7-9号竪穴住居	第11号竪穴住居	第13号竪穴ピット	第19号竪穴ピット	第19-20号竪穴ピット	第19-20号竪穴住居	第21号竪穴住居ピット	第22号竪穴住居	第25号竪穴住居	第31号竪穴住居	第35号竪穴住居	第35号竪穴ピット	第36号竪穴住居	第38号竪穴住居	第39号竪穴住居	第40号竪穴ピット	第45号竪穴住居ピット	第46号竪穴ピット	第48号竪穴住居	第49号竪穴住居	第50号竪穴住居	合計
鳥	脊椎骨					1																				1
ニワトリ	上腕骨	左									4															4
		右									2															2
	橈骨	左									1															1
イヌ	頭蓋骨	左	1											1												2
		右	1											1												2
	上顎骨	左	1											1												2
		右	1											1												2
	上顎歯	P2 左	(1)																							1
		P2 右	(1)																							1
		M1 左	(1)																							1
		M1 右	(1)																							1
		M2 左	(1)											(1)												2
		M2 右	(1)											(1)												2
	下顎骨	左	1											1												2
		右	1											1												2
	下顎歯	C 左																								1
		P2 左												(1)												1
		P2 右	(1)											(1)												2
		P4 左	(1)																							1
		P4 右	(1)											(1)												2
		M1 左												(1)												1
		M1 右												(1)												1
		M2 左												(1)												1
		M2 右												(1)												1
	橈骨													1												1
	尺骨													1												1
	肩甲骨													11												11
	上腕骨			6								1														1
	仙骨											3		7												10
	尾甲骨	左	1											1												2
		右	1																							1
	上腕骨	左	1									1		1												3
		右	1									1		1												3
	尺骨	左	1									1		1												3
		右	1									2		1												4
	橈骨	左	1									1		1												3
		右	1									1		1												3
	寛骨	左	1																							1
		右	1											1												2
	大腿骨	左	1									2		1												4
		右	1											1												2
	脛骨	左	1											1												2
		右	1											1												2
	橈骨	左	1																							1
		右	1											1												2
	中手・足骨	不明	4									1		7												12
ブタ	頭蓋骨	左																1						1		2
		右													1			1						1		3
		不明													1											1
	上顎骨	左																1						1		2
		右																						1		1
	上顎歯	I2 左																1								1
		C 左																(1)						1		2
		C 右																						1		1
		P2 左																						1		1
		P2 右																						1		1
		P4 左																						(1)		1
		P4 右																						(1)		1
		dm4 左																(1)								1
		M1 左																(1)						(1)		2
		M1 右																						(1)		1
		M2 左																(1)						(1)		2
		M2 右																1						(1)		2
		M3 左																						(1)		1
		M3 右																						(1)		1
	下顎骨	左																			1			1		2
		右																			1	1				2
	下顎歯	I1 左																						1		1
		I1 右																						1		1
		I2 左																						1		1
		I2 右																						1		1
		C 左																						(1)		1
		C 右																						(1)		1
		dm1 左																						(1)		1
		dm1 右																						(1)		1
		dm4 左																1								1
		P2 左																						(1)		1
		P2 右																						(1)		1
		P4 左																						(1)		1
		P4 右																						(1)		1
		M1 左																			(1)			(1)		2
		M1 右																			(1)			(1)		2
		M2 左																			(1)			(1)		2
		M2 右																						1		1
		M3 左																						1		1
	橈骨													2												2
	肩甲骨	左																	1							1
	上腕骨	左												1												1
	橈骨	左	1																			1				1
	大腿骨	不明										1		1											1	3
	脛骨	左												1					1							1
		右								1																1
	中手・足骨	不明																3								3
	長骨	不明													1											1
ウシ	橈骨												1													1
	脛骨				1		1			1			1													4
	肩甲骨	L											1													1
	尺骨	L		1																						1
	寛骨	L												1												1
	脛骨	R														1										1
	不明									2													1			3
ヤギ	下顎骨	R							1																	1
	下顎歯	P3 R							(1)																	1
		P4 R							(1)																	1
		M1 R							(1)																	1
		M2 R							(1)																	1
不明	不明											1		1		1										3
合計			59	1	1	1	1	1	5	4	8	16	3	62	3	1	1	13	3	6	1	1	37	1	1	219

凡例：（　）は額骨についている
〈　〉は未崩出

第20節　軟体動物遺殻

本古墓群の軟体動物は頭足類１科、巻貝７科、二枚貝に５科で全部で23点出土した（第26表）。

墓室より得られた資料はコウイカ科の第３号墓室フク土とスイショウガイ科の種不明の第21号墓室フク土の２点だけであり、墓との明確な関係を示唆する資料は得られていない。

第26表　軟体動物遺殻出土一覧

| 種類 | 頭足類 | 巻貝類 | | |

第21節　安謝西原古墓群出土の人骨

本古墓群から得られた人骨の中から比較的保存状態の良好な資料について、琉球大学に鑑定を委託した（第27表）。

以下に、鑑定所見などについて示すので参照していただきたい。

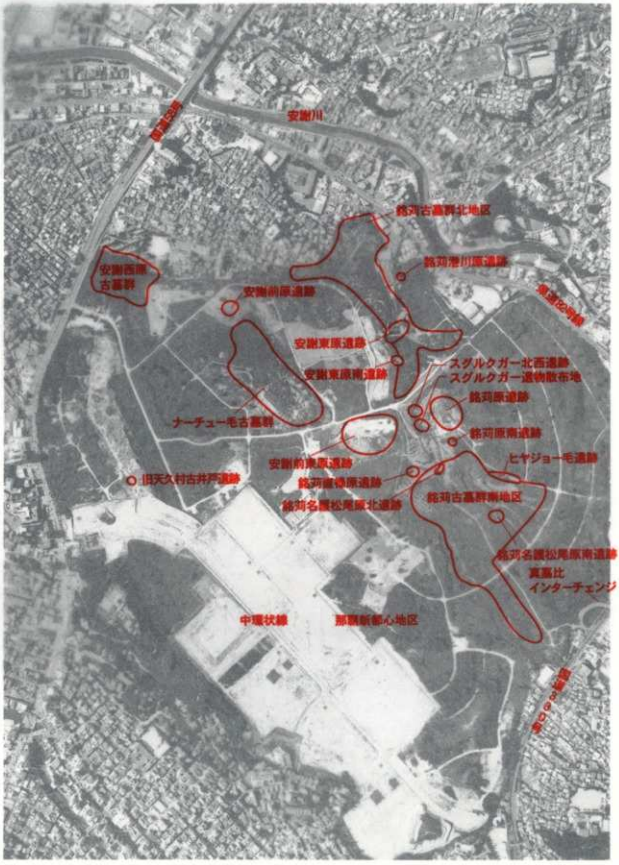
第27表　鑑定人骨一覧

出土地点	所　見	男性	女性	性別不明					合計
				成人	若年	小児	幼児	乳児	
第２号墓室 蔵骨器No.1内	○頭蓋骨片、左側頭骨、下顎骨２、上腕骨右２左1、尺骨右1左２、左右橈骨、鎖骨左２、肩甲骨右２左１、右大腿骨、脛骨右２左１、腓骨片、左右膝蓋骨、左右寛骨、距骨右２左１。 ○永久歯（上顎右中切歯・犬歯・第１大臼歯、左犬歯・第２大臼歯,下顎右中切歯・側切歯・犬歯・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯、左犬歯・第２小臼歯）。 ○未萌出の永久歯（上顎右第1大臼歯２,下顎左中切歯・第１大臼歯）。 ○乳歯（上顎右乳中切歯・乳側切歯・乳犬歯・第１乳臼歯・第２乳臼歯、左乳中切歯・乳側切歯・乳犬歯・第２乳臼歯）。	1	1				2		4
第２号墓室 蔵骨器No.2内	○頭蓋骨片、左右側頭骨、上顎骨、下顎骨、左右上腕骨、左尺骨、右鎖骨、左右肩甲骨、左右大腿骨、脛骨右１左２、腓骨片、左右寛骨、右距骨。 ○永久歯（上顎右側切歯・第２小臼歯・第２大臼歯、左切歯・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯,下顎右切歯・側切歯・犬歯・第２小臼歯、左側切歯・第２小臼歯２・第２大臼歯）。 ○未萌出の永久歯（上顎右第２小臼歯・第１大臼歯・左切歯。側切歯・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯・第２大臼歯,下顎右犬歯・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯・第２大臼歯・第３大臼歯、左切歯・第１小臼歯・第２大臼歯）。		1	1		1	1		4
第２号墓口 埋土	○頭蓋骨片、左頬骨、側頭骨右２左１、上顎骨片、下顎骨、上腕骨左２、右尺骨、橈骨右２、鎖骨右２左１、左肩甲骨、大腿骨右２左１、右脛骨、腓骨右１左２、篠骨片、距骨右１左２。 ○永久歯（下顎左第２小臼歯）	1		1					2
第２号墓庭 埋土	○頭蓋骨片、側頭骨右２左１、下顎骨２、上腕骨右３左２、尺骨右３左２、橈骨右２左２、鎖骨右２左１、肩甲骨右２左２、大腿骨右２左２、脛骨右２左２、腓骨片、寛骨右２左２、仙骨、左右距骨、踵骨右２左１。 ○永久歯（上顎左第１大臼歯。下顎左第１大臼歯） ○未萌出の永久歯（下顎右側切歯・第１大臼歯）、乳歯（下顎右第２乳臼歯２）。 ○乳児と思われる下顎骨、左右大腿骨、左右脛骨、幼児と思われる左右？上腕骨、左大腿骨等。	1	1	1			1	1	5
第３号墓室 （掘込）	○頭蓋骨片、左側頭骨、上顎骨、下顎骨、上腕骨右３左２、右尺骨、左右橈骨、左右大腿骨、左脛骨、左右腓骨、右膝蓋骨、左距骨、右踵骨。 ○永久歯（上顎右中切歯・側切歯・第１小臼歯２・第１大臼歯・第２大臼歯２・第３大臼歯２、左中切歯・犬歯２・第２小臼歯２・第１大臼歯・第２大臼歯２,下顎右中切歯・犬歯２・第２小臼歯・第１大臼歯３・第２大臼歯３・第３大臼歯２・左犬歯４・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯２・第２大臼歯・第３大臼歯）。 ○未萌出の永久歯（上顎右中切歯・第２小臼歯、左第１大臼歯。下顎右第１大臼歯、左第１大臼歯）。 ○乳歯（上顎右乳中切歯・第２乳臼歯。下顎右第２乳臼歯、左第２乳臼歯）。 ○未萌出を含む永久歯・乳歯の形成程度から幼児１体（４～５才）、乳児１体（９ヶ月頃）が含まれる。	1	2	1			1	1	6
第３号墓室 フク土	○左右大腿骨、脛骨右１左２、右腓骨等。保存不良のため、詳細は不明。		1	1					2
第７号墓室 （掘込）	○頭蓋骨片、右側頭骨、上顎骨片、下顎骨片、上腕骨右２左３、尺骨右２左１、橈骨右２、鎖骨右１左２、肩甲骨片、大腿骨右１左２、左右脛骨、腓骨右２左１、右膝蓋骨、右寛骨、距骨右３左１、左右踵骨。 永久歯は約４体分残存。未萌出を含む永久歯・乳歯の形成程度より小児２、幼児５、乳児２体が含まれる。 ○その他に未成人の四肢骨片、乳児の下顎骨等。	2	1	1		2	5	2	13
第７号墓室 フク土	○頭蓋片、左頬骨、右側頭骨、下顎骨、右上腕骨、尺骨右３、右鎖骨、右肩甲骨、左右大腿骨、腓骨片、寛骨片、左右膝蓋骨。 ○小児と思われる左尺骨、右橈骨、大腿骨片、左脛骨、左腓骨、上顎側切歯、下顎第２小臼歯。	1	1	1		1			4

出土地点	所　見	男性	女性	性別不明					合計
				成人	若年	小児	幼児	乳児	
第３０号墓 埋土	○頭蓋骨片、前頭骨２、左頬骨、側頭骨右１左３、上顎骨、下顎骨、大腿骨右２左２、左右脛骨、腓骨右２、左寛骨、左右距骨、左右踵骨。 ○約５体分の永久歯。焼けた骨を含む。	2		3					5
第３１号墓室	○頭蓋骨片、下顎骨、上腕骨右１左２、左尺骨、橈骨左２、左右鎖骨、右肩甲骨、大腿骨右２左３、左脛骨、腓骨片、左右膝蓋骨、左寛骨等。 ○焼けた人骨を含む。	2	1						3
第３５号墓 フク土	○頭蓋骨片、上腕骨右２左１、左右尺骨、右橈骨、右肩甲骨、大腿骨右２左１、左右脛骨、腓骨片、左寛骨、左右距骨。 ○永久歯（上顎左右中切歯）。 ○小児と思われる右上腕骨、左鎖骨、右大腿骨、右脛骨。	1		1		1			3
第３５号墓庭 フク土	○頭蓋骨片、前頭骨。眉弓の隆起はない。		1						1
第３５号墓 左ソデ	○左尺骨、その他骨細片１個。			1					1
第３６号墓室 （奥タナ左）	○頭蓋骨片、下顎骨、左大腿骨、左膝蓋骨。 ○永久歯（上顎右第２小臼歯・第１大臼歯、左犬歯・第２小臼歯・第１大臼歯・第２大臼歯２.下顎右中切歯・犬歯・第１小臼歯・第２大臼歯、左切歯・第１小臼歯）。 ○乳歯（下顎左第２乳臼歯）。 ○幼児のものと思われる下顎骨片、上腕骨左２、左右尺骨、頭骨左２、左右大腿骨、左脛骨、腓骨片、肋骨右３左１、坐骨右１左３、右恥骨。			1			3		4
第３７号墓室 蔵骨器No.1内	○頭蓋骨片、左側頭骨、左右上腕骨、左尺骨、大腿骨右１左３、右脛骨、腓骨片、左距骨、左踵骨等。	1	1	1					3
第３７号墓室 蔵骨器No.3内	○頭蓋骨片、前頭骨、左右側頭骨、上顎骨2、下顎骨、右上腕骨、左右尺骨、左右橈骨、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨、左右膝蓋骨、左右寛骨、仙骨、左右距骨、右踵骨。 ○永久歯（上顎右第１大臼歯2、左第１大臼歯・第２大臼歯.下顎右中切歯、左第１小臼歯）。 ○未萌出の永久歯（上顎右第３大臼歯、左中切歯・第３大臼歯.下顎右犬歯、左側切歯・犬歯・第１大臼歯） ○乳歯（上顎右第１乳臼歯・第２乳臼歯、左第１乳臼歯・第２乳臼歯.下顎右第１乳臼歯・第２乳臼歯、左第１乳臼歯・第２乳臼歯）. ○幼児のものと思われる左上腕骨、左右大腿骨等。	1		1	1		1		4
第３７号墓室 蔵骨器No.8内	○頭蓋骨片、右側頭骨、下顎骨、上腕骨右２、尺骨右１左２、橈骨右２左２、左右鎖骨、左右肩甲骨、大腿骨右５左４、脛骨右２左３、腓骨左２、膝蓋骨右３左２、左寛骨、距骨右４左３。 ○その他約３体分の永久歯。未萌出の永久歯（下顎左第２小臼歯）、乳歯（上顎右第１乳臼歯）。 ○幼児のものと思われる頭蓋骨片、左尺骨。	2	1	1		1	1		6
第３７号墓室 蔵骨器No.9内	○頭蓋骨片、前頭骨、左右側頭骨、上顎骨２、下顎骨、左右上腕骨、左右尺骨、右橈骨、右鎖骨、左右肩甲骨、左右大腿骨、左右脛骨、右腓骨、寛骨右１左２、左距骨、右踵骨等。	1	1						2
第４０号墓室 フク土No.1	○下顎骨、上腕骨右２左２、左尺骨、橈骨右２左１、鎖骨右２左２、左右肩甲骨、右大腿骨、右膝骨、右膝蓋骨、左右寛骨。 ○永久歯（上顎右中切歯・側切歯・第１大臼歯、左切歯・第１大臼歯.下顎右第１大臼歯、左犬歯２・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯）.	2							2
第４０号墓室 フク土No.2	○頭蓋骨片、下顎骨２、上腕骨右２左１、左右尺骨、橈骨片、左右鎖骨、右肩甲骨、左右大腿骨、右脛骨、左右腓骨、左右膝蓋骨、左右距骨、左右踵骨。 ○永久歯（上顎左第２大臼歯。下顎右第２小臼歯・第１大臼歯・第２大臼歯、左犬歯２・第１大臼歯・第２大臼歯）. ○未萌出の永久歯（上顎右切歯、左切歯・犬歯・第１大臼歯２.下顎右第１大臼歯、左第１大臼歯）. ○乳歯（上顎左第１乳臼歯・第２乳臼歯）.	1	1				2		4
第４０号墓室 フク土No.3	○頭蓋骨片、左上腕骨等。	1							1
第４０号墓室 フク土	○頭蓋骨片、上顎骨片、左肩甲骨、左大腿骨、腓骨片、右膝蓋骨。 ○永久歯（上顎右切歯、下顎右犬歯・第１小臼歯・第１大臼歯、左犬歯・第１小臼歯・第２小臼歯２・第２大臼歯）。 ○未萌出の永久歯（上顎左第１大臼歯.下顎左側切歯）. ○乳歯（上顎右乳中切歯。下顎右第２乳臼歯）.	1		1			1		3
第４０号墓室 埋土	○ほとんどが保存不良の骨細片。 ○永久歯（上顎右第２大臼歯、左犬歯・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯.下顎右犬歯・第１大臼歯２・第２大臼歯、左第１大臼歯２・第２大臼歯）。			2					2
第４２号墓室	○頭蓋骨片、大腿骨右２左１、左右脛骨、小児と思われる右大腿骨片。 ○全体的に保存不良のため、詳細は不明。	1		1		1			3

出土地点	所　　見	男性	女性	性別不明					合計
				成人	若年	小児	幼児	乳児	
第４２号墓室フク土	○頭蓋骨片、左側頭骨。 ○永久歯（上顎右中切歯・犬歯・第２小臼歯、左第１大臼歯・第２大臼歯・第３大臼歯。下顎右中切歯・第１小臼歯・第２小臼歯・第１大臼歯、左中切歯・第１大臼歯・第２大臼歯）。 ○未萌出の永久歯（上顎右第３大臼歯、左第２小臼歯.下顎右犬歯、第１小臼歯・第２小臼歯・第２大臼歯）、７～８才の小児を含む。	1				1			2
第４３号墓室蔵骨器No.5内	○保存不良で残存部位が少ないため、詳細は不明。大腿骨片、女性と思われる左右脛骨、上顎右犬歯・第２小臼歯を確認。		1						1
第４３号墓室蔵骨器No.6内	○成人骨は保存不良の骨細片のみ。 ○幼児と思われる頭蓋骨を除いたほぼ全身骨格を確認。４～５才程度と推定される。			1			1		2
第４４号墓室フク土	○頭蓋骨片、左右上腕骨、右尺骨、左右橈骨、大腿骨右２左１、脛骨右１左４、腓骨右１左２、 ○永久歯（上顎左第１大臼歯。下顎右第２大臼歯）、左脛骨幹に肥厚した骨膜炎を確認。	2		2					4
第４６号墓室フク土	○頭蓋骨片、左右上腕骨、大腿骨片、脛骨片、腓骨片、寛骨片、左踵骨. ○永久歯（上顎右犬歯・第1小臼歯・第２小臼歯・第２大臼歯２、左中切歯２・側切歯・第１大臼歯・第３大臼歯。下顎右第２小臼歯、左第１大臼歯）、 ○未萌出の永久歯（上顎右第２小臼歯、左第３大臼歯.下顎右第２小臼歯）、 ○全体的に保存不良のため、詳細は不明。未成人は未萌出の永久歯の形成程度から７～９才程度の小児が含まれている。			2		1			3
第４６号墓室頭骨No.2～3、No.13、No.16～39	○10～11才程度の小児の、ほぼ全身骨格を確認。					1			1
第４６号墓室人骨No.3、歯No.1~2、No.7~9 No.14~15	○７～８才程度の小児人骨を確認。 ○頭蓋骨片、左右大腿骨、左脛骨、上顎左右乳犬歯等。					1			1
第４６号墓室蔵骨器No.1内	○左距骨。			1					1
第４６号墓室人骨Ｎｏ.１	○男性と思われる左上腕骨。	1							1
第４６号墓室人骨No.２・４	○女性と思われる左大腿骨片、左寛骨片。		1						1
計		27	16	26	1	11	19	4	104

年齢区分		
	乳児	～ 1 才未満
	幼児	1 ～ 7 才未満
	小児	7 ～ 14 才未満
	若年	14 ～ 20 才未満
成人	成年	20 ～ 40 才未満
	熟年	40 ～ 60 才未満
	老年	60 才以上



PL.1　遺跡一帯の空中写真　(1993年撮影、1：10,000)　〔上が北〕

PL.1　遺跡一帯の空中写真　(1993年撮影、1：10,000)　〔上が北〕

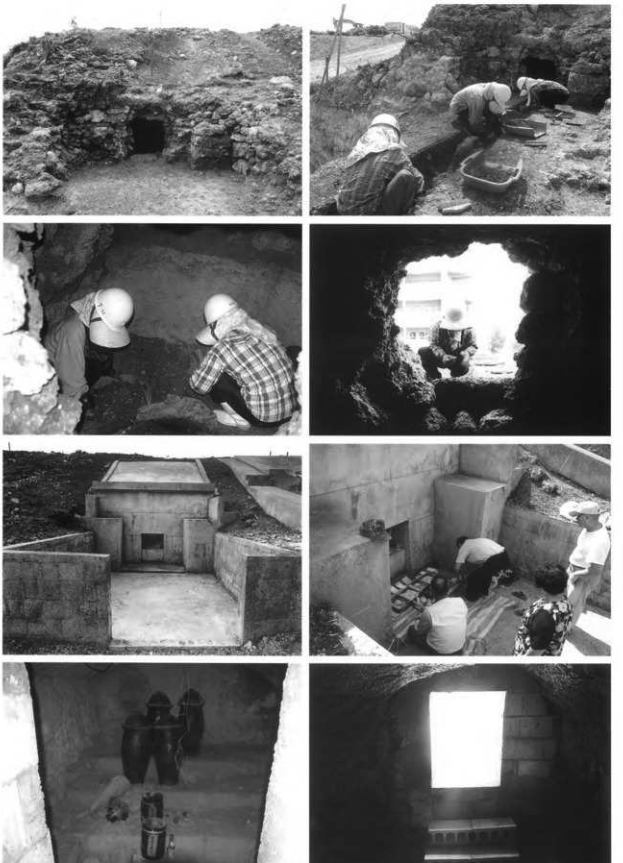
PL.2　上：安謝西原古墓群調査前遠景（南東から）
　　中：安謝西原古墓群全景（東から）
　　下：安謝西原古墓群北斜面近景（北東から）

PL.3　安謝西原古墓群　上：遠景（西から1998年３月）
中：遠景（西から2000年８月）
下：第45・35・36号墓近景（南西から）

ＰＬ.４　安瀬西原古墓群

１段目左：第１・２号墓遠景（北から）
２段目左：第１号墓完掘状況（北から）
３段目左：第２号墓室の状況
４段目左：第３号墓室調査前

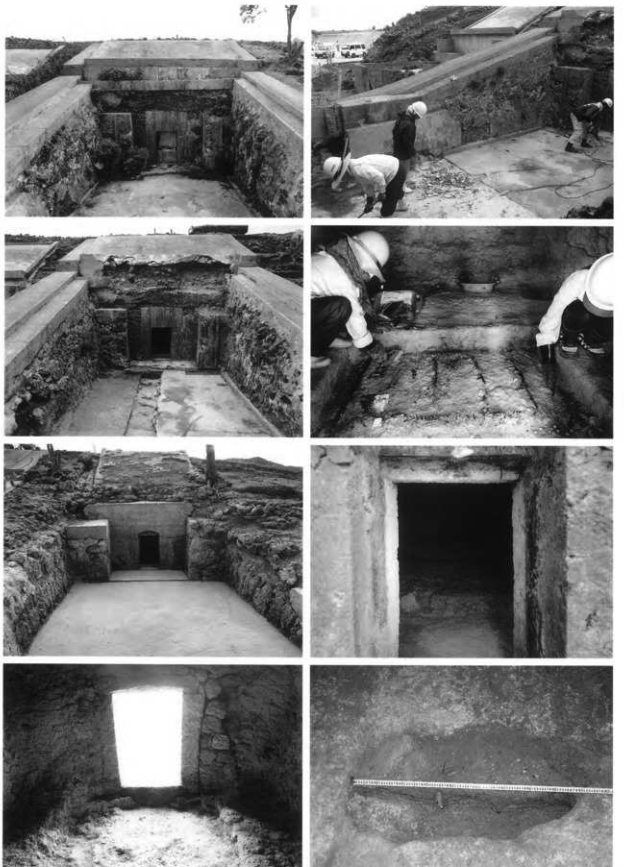
１段目右：第１・２号墓完掘状況（北西から）
２段目右：第１号墓室の状況
３段目右：第３号墓完掘状況（北東から）
４段目右：第３号墓室完掘状況



PL.5　安謝西原古墓群

1段目左：第4号墓近景（北東から）
2段目左：第4号墓室作業状況
3段目左：第5号墓近景（北東から）
4段目左：第5号墓室の状況

1段目右：第4号墓作業状況（北から）
2段目右：第4号墓室から外を見る
3段目右：第5号墓移転の状況（東から）
4段目右：第5号墓室から外を見る



PL.6　安謝西原古墓群

1段目左：第6号墓調査前近景（北東から）
2段目左：第6号墓完掘状況（北東から）
3段目左：第7号墓完掘状況（北東から）
4段目左：第7号墓室から外を見る

1段目右：第6号墓作業状況（北から）
2段目右：第6号墓室作業状況
3段目右：第7号墓口の状況（北東から）
4段目右：第7号墓墓室内の土坑半裁状況

PL.7　安謝西原古墓群

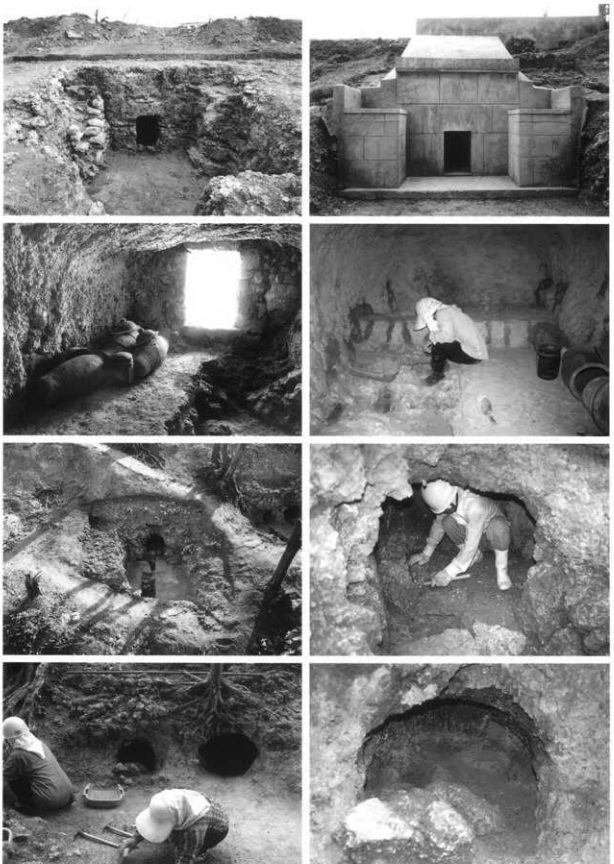
1段目左：第8号墓完掘状況（北東から）
2段目左：第9号墓精査後の状況（北東から）
3段目左：第10号墓完掘状況（北東から）
4段目左：第11号墓完掘状況（北東から）

1段目右：第8号墓墓口蔵骨器検出状況（北から）
2段目右：第9号墓近景と土坑半裁状況（北東から）
3段目右：第10号墓墓室の状況（北東から）
4段目右：第11号墓作業状況（北東から）

PL.8　安謝西原古墓群

1段目左：第4号墓から第16号墓全景（北西から）
2段目左：第12号墓開口作業（北東から）
3段目左：第13号墓完掘状況（北東から）
4段目左：第14号墓完掘状況（北東から）

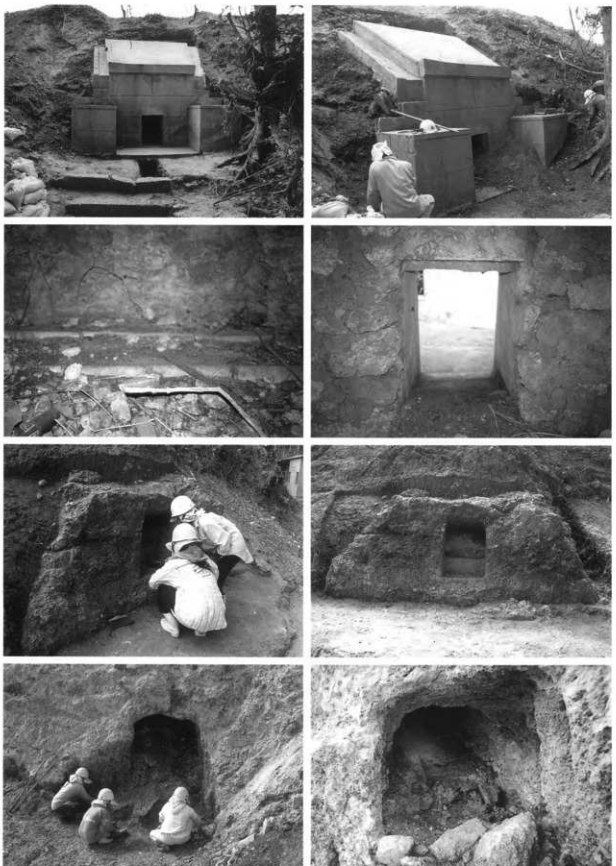
1段目右：第12号墓完掘状況（北東から）
2段目右：第12号墓墓室から外を見る
3段目右：第13号墓室の状況
4段目右：第15号墓完掘状況（北東から）



PL.9　安謝西原古墓群

1段目左：第16号墓完掘状況（北西から）
2段目左：第17号墓室の状況
3段目左：第18号墓完掘状況（北東から）
4段目左：第19・20号墓庭作業状況（北東から）

1段目右：第17号墓完掘状況（北東から）
2段目右：第17号墓室作業状況
3段目右：第18号墓室作業状況
4段目右：第19号墓室完掘状況（北東から）



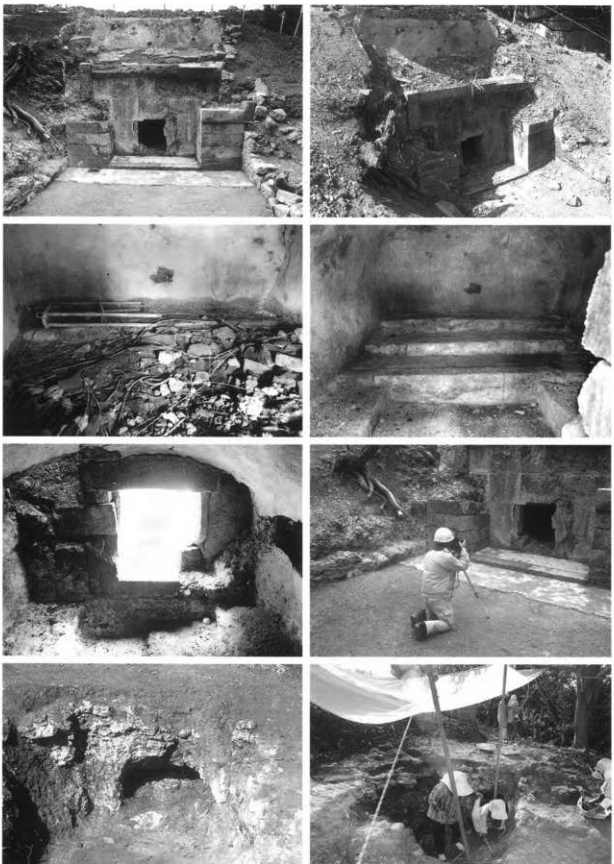
P L.10　安謝西原古墓群

1段目左：第21号墓完掘状況（北から）
2段目左：第21号墓室作業前の状況
3段目左：第22号墓作業状況（北東から）
4段目左：第23号墓作業状況（北から）

1段目右：第21号墓作業状況（北東から）
2段目右：第21号墓室から外を見る
3段目右：第22号墓完掘状況（北から）
4段目右：第23号墓室の状況（北から）

P L.11　安謝西原古墓群

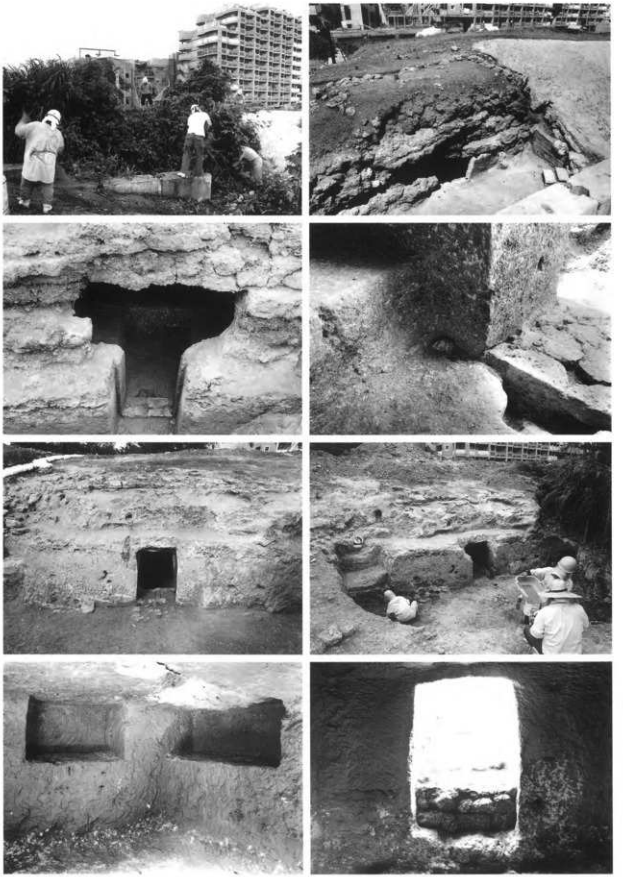
1段目左：第24号墓清掃後の状況（北から）
2段目左：第24号墓作業状況（北から）
3段目左：第25号墓移転後の状況（北から）
4段目左：第26・27・28号墓移転後の状況（北東から）
1段目右：第24号墓完掘状況（北から）
2段目右：第24号墓室内完掘状況
3段目右：第25号墓室移転後の状況
4段目右：第26・27・28号墓計測作業の状況（北西から）



P L.12　安謝西原古墓群

1段目左：第31号墓完掘状況（北東から）
2段目左：第31号墓室調査前の状況
3段目左：第31号墓室から外を見る
4段目左：第32号墓の状況（東から）

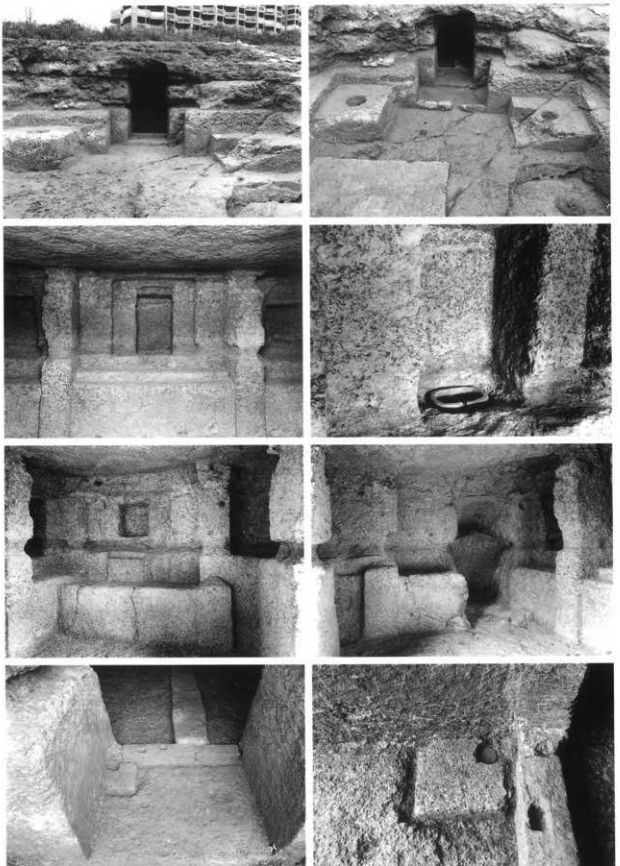
1段目右：第31号墓完掘状況（東から）
2段目右：第31号墓室精査後の状況
3段目右：第31号墓写真撮影作業の状況（北から）
4段目右：第32号墓作業状況（東から）



P L.13　安謝西原古墓群

1段目左：第33号墓作業状況（南西から）
2段目左：第33号墓完掘状況（南西から）
3段目左：第34号墓精査後の状況（南西から）
4段目左：第34号墓室の状況

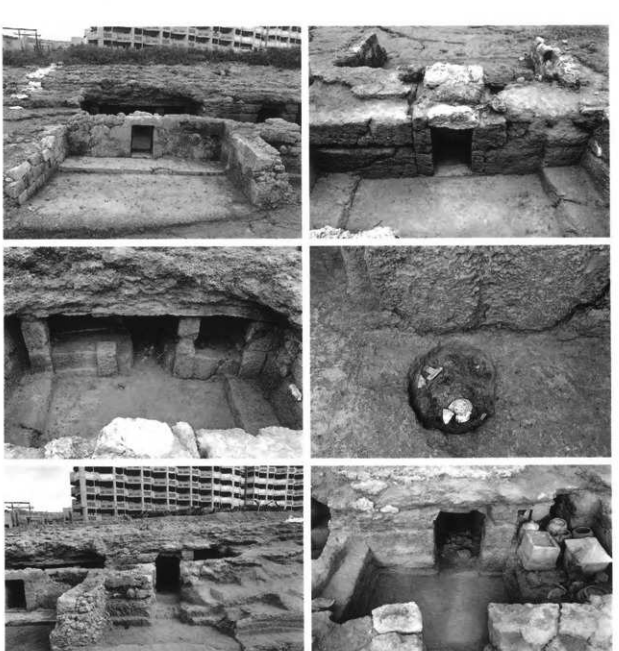
1段目右：第33号墓清掃後の状況（西から）
2段目右：第33号墓室シャコ貝出土状況
3段目右：第34号墓作業状況（西から）
4段目右：第34号墓室から外を見る



P L.14　安謝西原古墓群

1段目左：第35号墓完掘状況（南西から）
2段目左：第35号墓室正面タナ
3段目左：第35号墓室右側タナ
4段目左：第35号墓口の状況

1段目右：第35号墓完掘状況（南西から）
2段目右：第35号墓室正面タナ石灰岩製の容器出土状況
3段目右：第35号墓室左側タナ
4段目右：第35号墓口円盤状の銅製品出土状況



ＰＬ.15　安謝西原古墓群

1段目左：第36号墓完掘状況（南西から）
2段目左：第36号墓完掘状況（南西から）
3段目左：第37号墓完掘状況（南西から）
4段目左：第37号墓室Ⅰの状況（西から）

1段目右：第36号墓室完掘状況（北東から）
2段目右：第36号墓室土坑検出状況
3段目右：第37号墓室Ⅰの状況（南西から）
4段目右：第37号墓室Ⅱ右タナの状況

P L.16　安謝西原古墓群

1段目左：第38号墓作業状況（南西から）
2段目左：第38号墓室完掘状況（南西から）
3段目左：第39号墓完掘状況（南西から）
4段目左：第39号墓庭遺物出土状況（北東から）
（転用蔵骨器．サンゴ入り）

1段目右：第38号墓完掘状況（南西から）
2段目右：第38号墓完掘状況近影（南西から）
3段目右：第39号墓口の状況（南西から）
4段目右：第39号墓庭遺物出土状況（南西から）
（転用蔵骨器．すり鉢）（転用蔵骨器．小壺）

P L.17　安謝西原古墓群

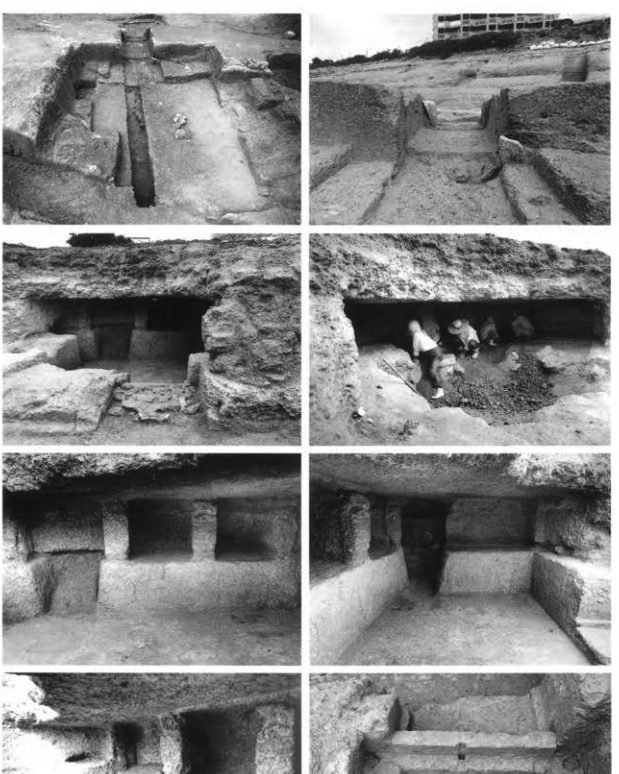
1段目左：第40号墓精査後の状況（南西から）
2段目左：第40号墓室遺物出土状況（南西から）
3段目左：第41号墓作業状況（南西から）
4段目左：第41号墓室完掘状況（南西から）

1段目右：第40号墓作業状況（南西から）
2段目右：第40号墓室正面タナ壁面除剰（南西から）
3段目右：第41号墓完掘状況（南西から）
4段目右：第41号墓室完掘状況（南東から）

P L.18　安謝西原古墓群

1段目左：第42号墓完掘状況（南西から）
2段目左：第42・43号墓近景（南西から）
3段目左：第43号墓室蔵骨器出土状況（北西から）
4段目左：第43号墓室完掘状況（北から）

1段目右：第42号墓室完掘状況（西から）
2段目右：第43号墓室蔵骨器出土状況（南西から）
3段目右：第43号墓室蔵骨器出土状況（南東から）
4段目右：第43号墓室完掘状況（南西から）



P L.19　安謝西原古墓群

1段目左：第44号墓完掘状況（南から）
2段目左：第45号墓完掘状況（南西から）
3段目左：第45号墓室完掘状況（南西から）
4段目左：第45号墓室完掘状況（南から）

1段目右：第44号墓口近景（南から）
2段目右：第45号墓室作業状況（西から）
3段目右：第45号墓室完掘状況（北西から）
4段目右：第45号墓口の状況（南西から）

P L.20　安謝西原古墓群

1段目左：第46号墓庭の状況（南西から）　1段目右：第46号墓室上層遺物（北から）
2段目左：第46号墓室上層完掘状況（南西から）　2段目右：第46号墓室中～下層遺物（南東から）
3段目左：第46号墓室中層ブタ頭蓋骨（北から）　3段目右：第46号墓室下層転用蔵骨器№1（北から）
4段目左：第46号墓実測作業状況（北東から）　4段目右：第46号墓室完掘状況（北から）

P L.21　安謝西原古墓群

1段目左：第50号墓第51号墓完掘状況（南西から）
2段目左：第50号墓完掘状況（南西から）
3段目左：第50・51号墓検出作業状況（南西から）
4段目左：第51号墓口近景（南西から）

1段目右：第50号墓作業状況（南西から）
2段目右：第50号墓室完掘状況（西から）
3段目右：第51号墓室作業状況（南から）
4段目右：第51号墓作業状況（北東から）

P L.22　安謝西原古墓群

1段目左：平成元年度発掘調査区現況（北から）
2段目左：遺跡全景撮影作業状況（南東から）
3段目左：出土遺物洗浄作業状況
4段目左：資料整理の状況

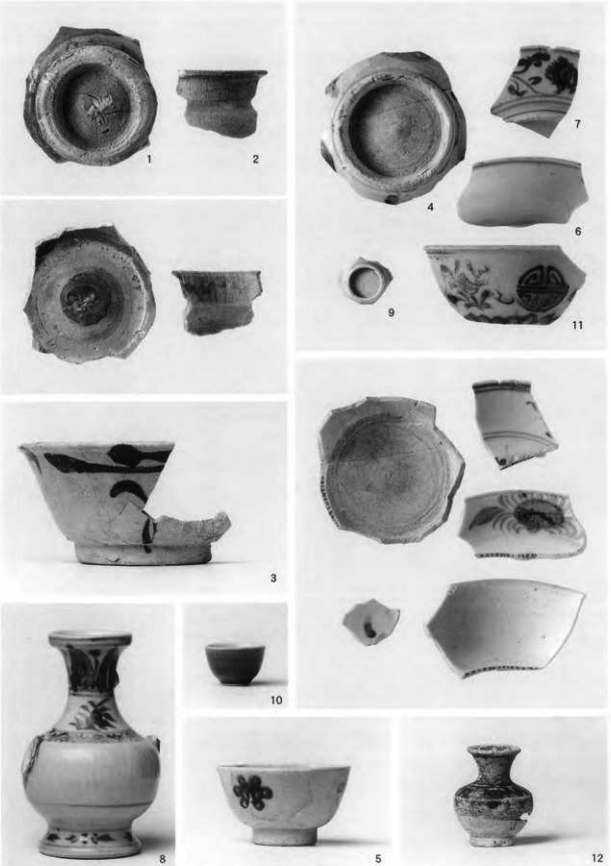
1段目右：平成元年度発掘調査第3号墓室現況（北西から）
2段目右：南側斜面造成工事開始状況（西から）
3段目右：出土遺物洗浄作業状況
4段目右：実測作業状況

PL.23(第28図) 石製家形蔵骨器 (1・2)

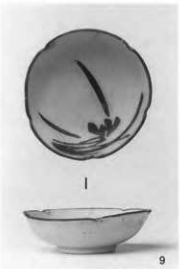
PL.24(第29図) 陶製家形蔵骨器：施釉（1・2）

PL.25(第30図) 陶製無頸壺形蔵骨器 (1～6)
(ポージャー)

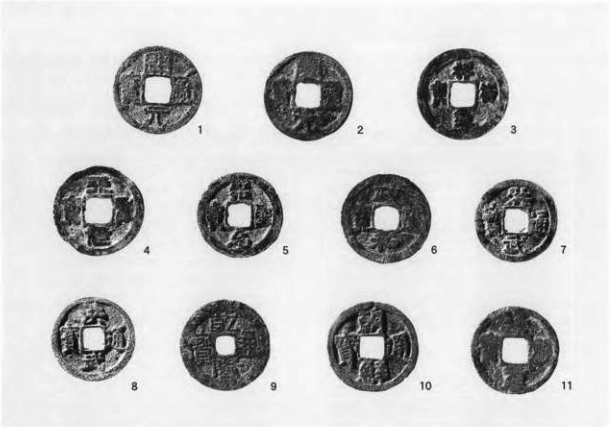
P L.26(第31図)　陶製有頭甕形蔵骨器（1・2）
陶製軒付甕形蔵骨器（3・4）、転用蔵骨器（5～9）

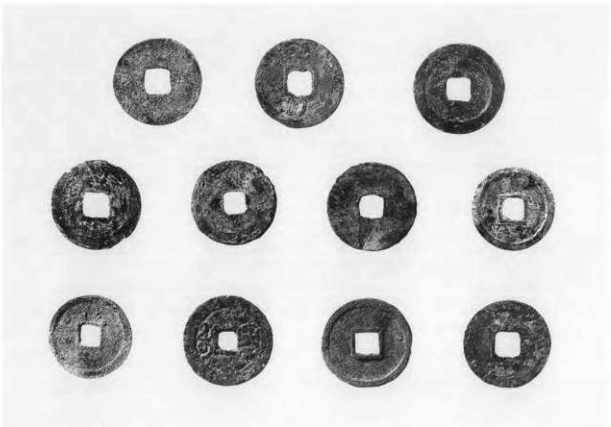


P L.27(第32図) 中国産陶磁器：青磁（碗1、香炉2）、青花（碗3・4、小碗5、皿6・7、水注8、小杯9）
瑠璃釉（杯10）、色絵（外反碗11）、褐釉陶器（小型壺12）

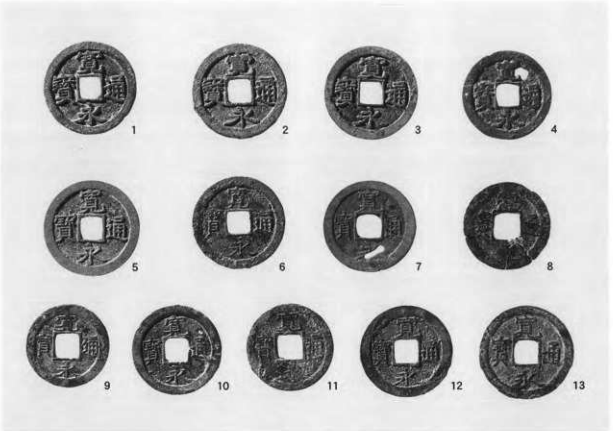


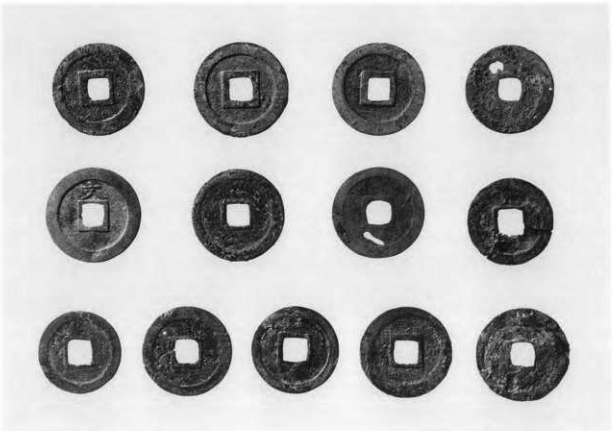
PL.28（第33図）本土産陶磁器：肥前系（瓶１～５、碗６・７）、瀬戸・美濃系（小杯８、小皿９）
印判染付（火入れ10）



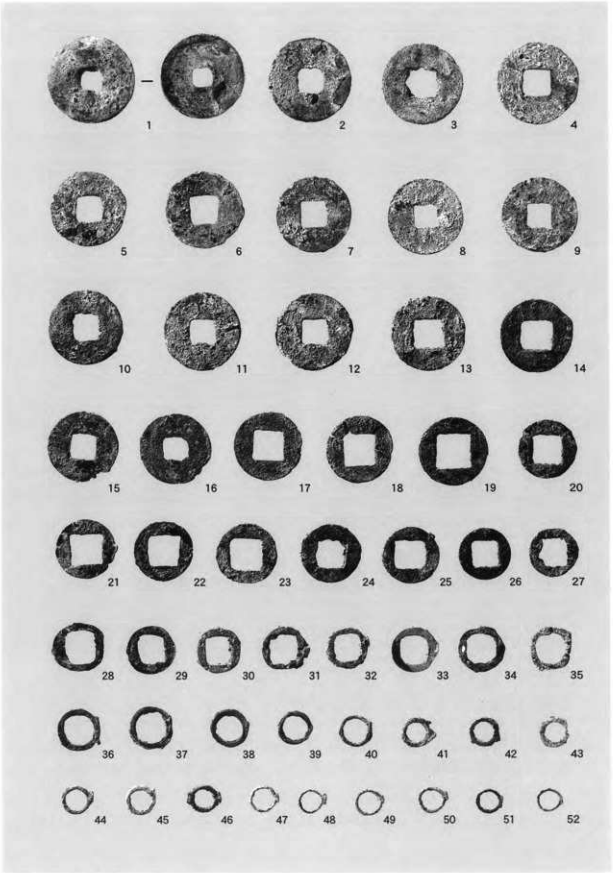


P L.29（第34図）銭貨

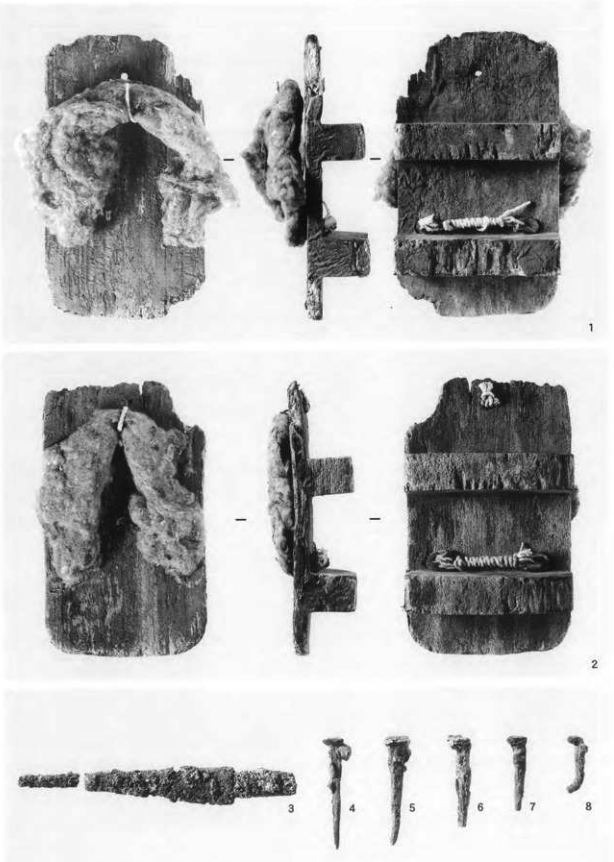




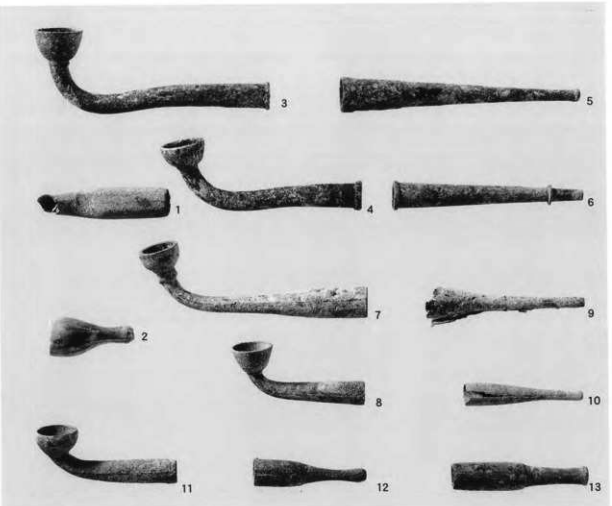
P L.30(第35図) 銭貨

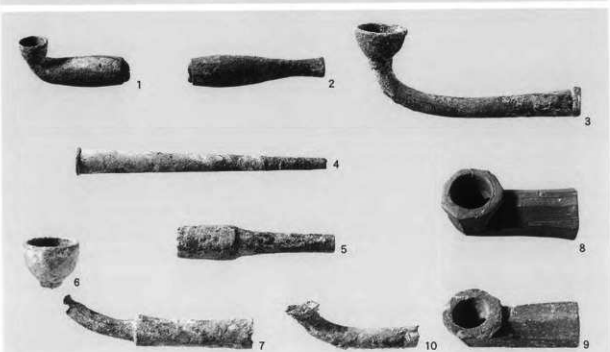

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52

P L.31（第36図）銭貨

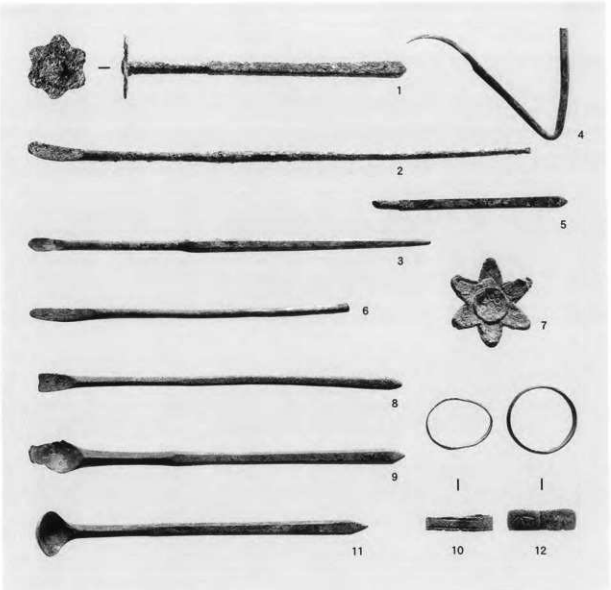


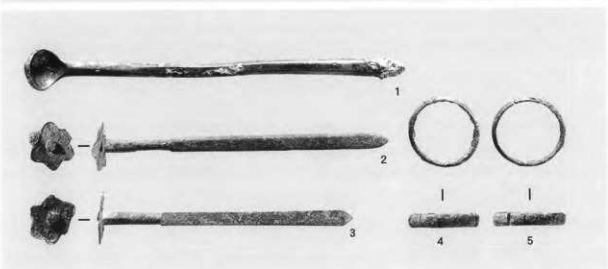
PL.32(第39図) 木製品：下駄（1・2）
鉄製品：刀子（3）、釘（4～8）



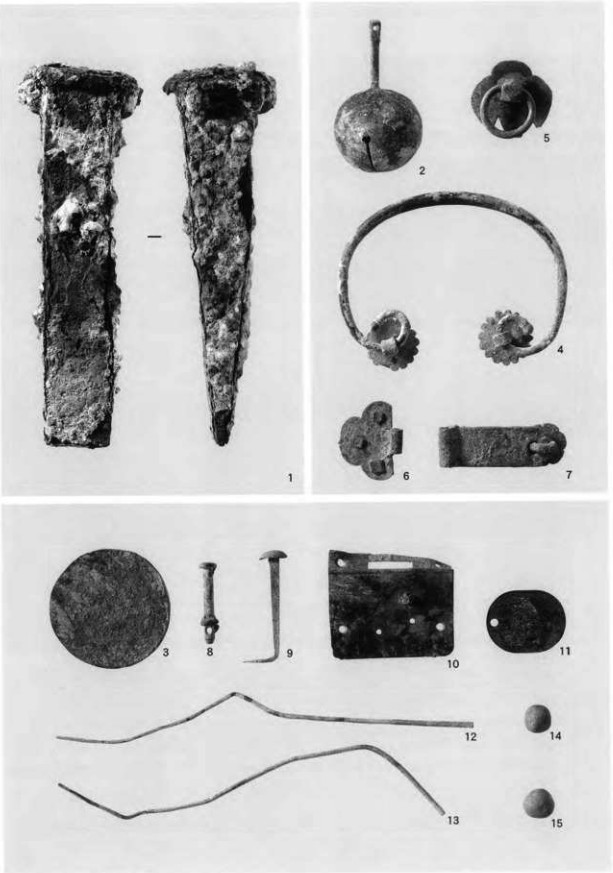


P L.33(第41図) 煙管（金属製品）：雁首（1・3・4・7・8・11)、吸口（5・6・9・10・12・13）
（陶 製 品）：吸口（2）
(第42図) 煙管（金属製品）：雁首（1・3・6・7・10)、吸口（2・4・5）
（陶 製 品）：雁首（8・9）

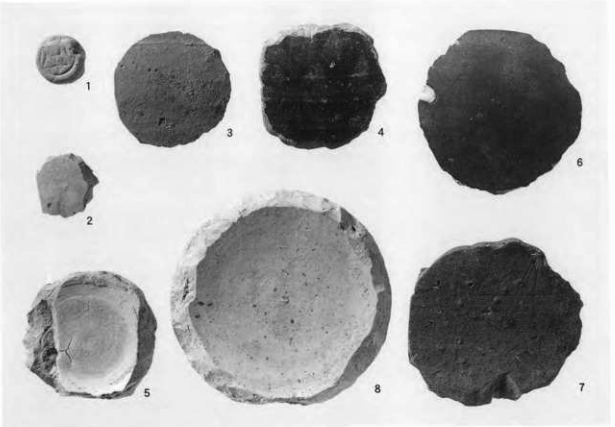


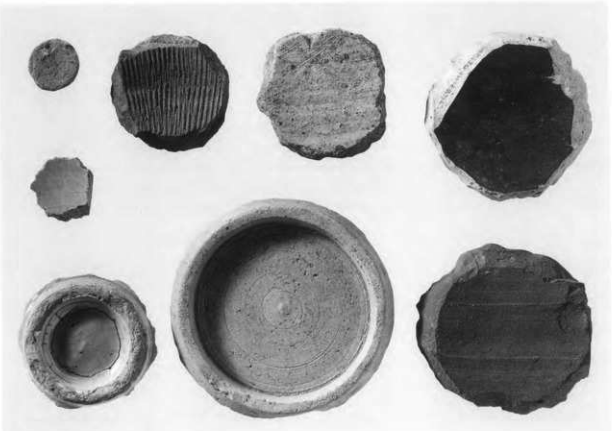


P L.34(第43図) 簪（1～9・11)、指輪（10・12)
(第44図) 簪（1～3)、指輪（4・5）



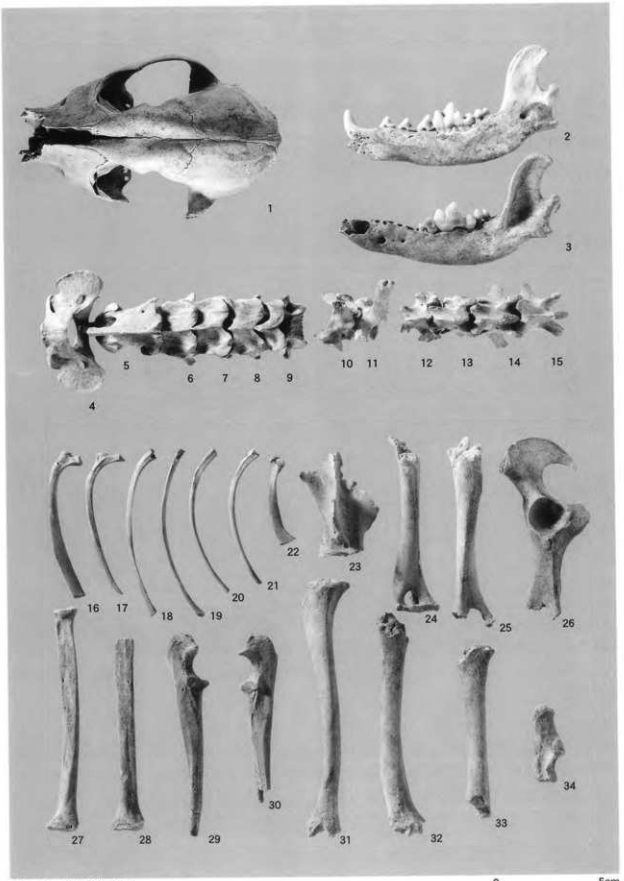
P L.35（第45図）金属製品





P L.36(第46図) 円盤状製品

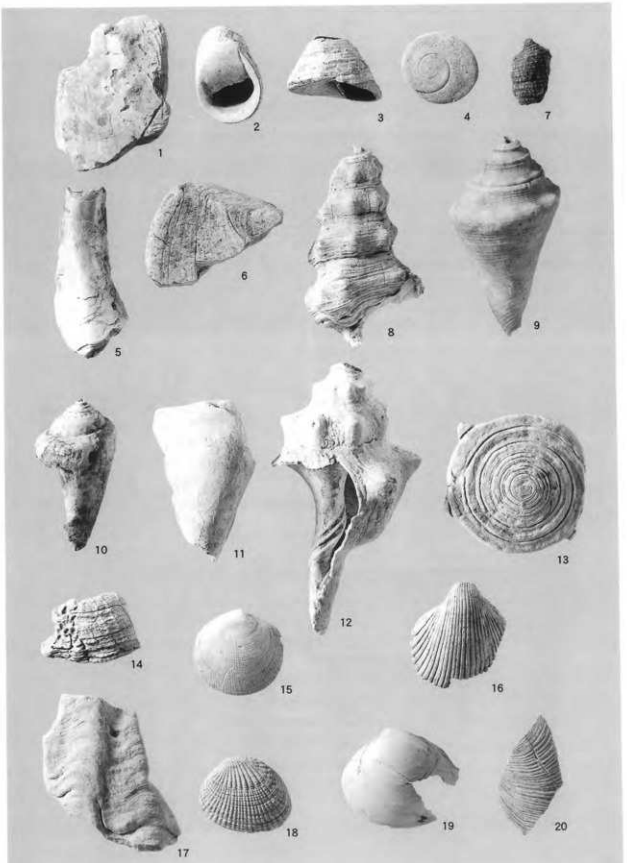
PL.37(第48図) 骨製品（1）、貝製品（2）、ガラス製品：コップ（3）、瓶（4～11）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
0
5cm

PL.38　脊椎動物遺骸

P L.39　脊椎動物遺骸

0　5cm



P L.40　軟体動物遺殻

0　5cm

那覇市文化財調査報告書第51集

安謝西原古墓群

－那覇新都心土地区画整理事業に伴う緊急発掘調査報告Ⅹ－

発　行　2001年3月15日
那覇市教育委員会
〒900－8553　沖縄県那覇市樋川2-8-8
編　集　那覇市教育委員会文化財課
TEL　098－853－5776
FAX　098－833－2202
印　刷　株式会社　尚生堂
〒900－0012　沖縄県那覇市泊2-17-4
TEL　098－869－0568